

テ手形所有權ヲ取得スル者ニ對シ債務ヲ負擔スルコトヲ目的トスル單獨行為タルニ認認スルモノニシテ裏書人ノ權利カ手形ノ讓渡ニ因リテ終局的ニ失ハルルコトナク其前者ニ對シテ有スル擔保權カ裏書後ニ於テ仍ホ存續スルノ現象ハ後者ノ權利取得カ常ニ原始的ナルコトニ依リテノミ認メラルヘキモノタリ(本款ノニ參照)

手形債權行為ハ手形債務ノ負擔ヲ目的トスル行為ニシテ之ヲ單獨行為ト觀察セサルヘカラス何トナレハ手形債務者ハ不特定ナル手形所有者ノ何人ニ對シテモ其債務ヲ負擔スヘキ意思ヲ表示スルモノニ外ナラサレハナリ(註四)振出人又ハ裏書人ハ單ニ直接ノ受取人又ハ被裏書人ニ對スルノミナラス將來ニ於ケル不特定ナル手形取得者ノ全員ニ對シテ其債務ヲ負擔スルコトヲ知リテ其意思ヲ表示スルモノタリ引受人、參加引受人又ハ保證人ニ至リテハ單ニ行為當時ニ於ケル手形所持人ニ對スルノミナラス其前者及ヒ將來ニ於ケル不特定ナル手形取得者全員ニ對シテ其債務ヲ負擔スルコトヲ知リテ其意思ヲ表示スルモノタリ之ヲ契約ト稱スルハ實ニ當事者ノ意思ニ反スル擬制的空想ト謂ハサルヘカラス

(註四)手形債務者ハ手形法ノ認ムル方法ニ依リテ手形所有權カ取得セラルヘキコトヲ認知シ

其者ニ對シテ手形上ノ債務ヲ負擔セムコトヲ欲シタル者ナリ故ニ手形債權ヲ原始的ニ取得スル者ハ手形法ノ認ムル方法ニ依リテ手形所有權ヲ取得シタル者ニ限ル例ハ相續買賣ニ於ケル競落轉付命令等ノ結果トシテ手形ノ移轉ヲ生シタルトキハ承繼人ハ前主ノ權利ヲ承繼スレニ止マリ獨立的ニ手形上ノ權利ヲ取得スルコトナシ

單獨行為タル手形債權行為ハ形式ニ於テ完全ナル手形又ハ其謄本若クハ補箋ニ署名スルコトヲ要件トス手形ニ署名シタル者ニ非サレハ手形債務ヲ負フコトナキハ既ニ説明シタル所ナリ(第二節ノニ參照)然レトモ手形行為ハ手形ニ署名スルコトニ因リテ成立スルモノト謂フヘカラス意思表示ノ成立ニハ相手方ニ對スル到達ノ必要(Empfangsbedürftigkeit)ナシト雖モ少クトモ他人ニ對シテ其意思ヲ發表スルノ必要(Behaltungsbefähigkeit)アリ單ニ自己ノ書齋ニ於テ手形ニ署名シ之ヲ筐中ニ藏置スト雖モ未タ以テ手形行為ノ成立アリト謂フヘカラフ必スヤ之ヲ他人ニ交付シ又ハ郵便ニ付スル等ノ行為ニ依リテ手形債務負擔ノ意思表示ヲ完了セサルヘカラス(註五)此點ニ於テハ發行說ハ大體ニ於テ當ヲ得タルモノト謂ハサルヘカラス

(註五)郵便手形法第二十二條ハ明文ヲ以テ一旦爲シタル引受ハ之ヲ撤回スヘカラサルモノト

スルカ故ニ引受人ノ署名ノ抹消ヲ許ササルモノナリ然レトモ我商法ニハ此ノ如キ規定ナキヲ以テ引受人ノ署名ハ後之ヲ抹消シテ其成立ヲ妨グルコトヲ得ヘキナリ(岡野博士日本手形法九七頁拙著私法論文集一卷三八七頁以下)

手形債權行為即チ狹義ニ於ケル手形行為ハ手形ノ發行ニ因リテ成立スルモノナレトモ其行為ノ效力ハ必スシモ之ニ因リテ直チニ發生スルモノト謂フコトヲ得ス[註六]手形行為ノ效力ノ發生ハ手形債務ノ發生ナリ手形債務ノ成立アル爲メニハ債權者ノ存在ヲ必要トスルハ言フ俟タス然ルニ手形債權者ハ手形所有權者タルコトヲ要スルヲ以テ振出又ハ裏書ノ場合ニ於テハ他人カ手形物權契約ニ因ルカ又ハ商法第四百四十一條ノ規定ニ依リテ手形所有權ヲ取得セル時ニ於テ始メテ爰ニ手形債權者ヲ生シ手形債權行為ハ其效力ヲ發生スヘキモノタリ而シテ法律行為ハ其成立ノ後ト雖モ其效力ノ發生前ニ於テハ之ヲ撤回スルコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ手形發行後ト雖モ其手形債權者トシテ指定セラレタル者カ手形所有權ヲ取得スルマテハ手形行為ヲ撤回スルコトヲ得ヘキモノタリ但通常ノ意思表示ハ形式ヲ要セス且特定ノ相手方ノミニ對スル

モノナルカ故ニ反對ノ意思表示ヲ以テ自由ニ之ヲ撤回スルコトヲ得ヘシト雖モ有效ニ手形行為ヲ撤回スル爲メニハ手形自體ヲ回收シ其署名ヲ抹消スルコトヲ要スヘシ又引受參加引受又ハ保證ノ如キ手形行為ハ他人カ既ニ手形所有者タル場合ニ於テ其手形ニ爲サルヘキモノナルカ故ニ此種ノ手形行為ハ署名シタル手形ノ發行ニ因リテ成立スルト同時ニ其效力ヲ發生シ復之ヲ撤回スルコトヲ得ヘカラサルナリ

[註六] 法律行為ノ成立ト其效力ノ發生トヲ區別スルハ近時ノ進步セシ民法學說ニ依リタルモノナリ從來ノ手形法學者或ハ此區別ノ觀念ヲ缺ケル爲メ手形行為ノ成立ト手形債務ノ發生トハ必然的ニ同時タルヘキモノト解シタル者少カラス是レ契約說ノ行ハレタル一原因タルヘシ

以上ニ叙述シタル所ヲ要スルニ手形ニ付テハ手形債權行為ト手形物權行為トヲ區別スルコトヲ要ス手形債權行為ハ單獨行為ニシテ手形ヲ發行スルニ因リテ完全ニ成立ス然レトモ振出又ハ裏書ノ場合ニ於テハ他人ニ手形所有權ヲ與フルコトヲ要スルヲ以テ手形物權契約ニ因ルカ又ハ商法第四百四十一條ノ規定ニ依リテ他人カ手形所有權ヲ取得スルマテハ手形行為ノ效力ヲ生セサル

モノタリ而シテ手形所有權ノ取得者ハ其取得ニ因リ手形行爲者ノ意思ニ基キ各自獨立シテ手形上ノ權利ヲ取得スルモノタリ

參考書——拙著私法論文集二卷四一三頁以下手形裏書ノ本質ヲ論ス

爲替手形

振出

總論

振出ト手形ノ要件

## 第二章 爲替手形

### 第一節 振出

#### 第一款 總論

(一) 爲替手形ノ振出(Ausstellung, Emission, creation, drawing)ハ振出人カ法定ノ事項ヲ記載シタル爲替手形ニ署名シ之ヲ發行スルニ因リテ成立ス(大民八輯六卷七二頁爲替手形ニハ法定ノ事項ヲ記載スルコトヲ要シ且振出人之ニ署名スルコトヲ要ス四四五)法定事項ノ記載及ヒ振出人ノ署名ハ爲替手形ノ成立ノ爲メニ絶對的ニ必要ニシテ振出人ノ署名ヲ缺ク場合ハ勿論若シ法定事項ノ一ノ記載ヲ缺ク場合ニ於テモ亦手形ノ無効ヲ生スルモノタリ(註一)(註二)

[註一] 大民一〇輯七六頁ハ約束手形ニ付キ振出地ノ記載ヲ缺ク手形ヲ無効トシ其無効ハ善意ノ取得者ニ對シテモ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキモノトセリ約束手形ノ要件ハ第五百二十五條ニ小切手ノ要件ハ第三百三十條ニ之ヲ定ム其要件ノ意義ニ至リテハ爲替手形ニ於ケルト異ルコトナシ故ニ本款ノ所説ハ總テ之ヲ約束手形及ヒ小切手ニ應用シテ可ナルモノニシテ

爲替手形 振出

從テ以下ニ於テ引用スル判決モ亦必スシモ爲替手形ニ關スルモノニ限ラサルナリ

〔註二〕要件ヲ具備セサル手形ノ無効ナルコトハ獨(七)例(六)強(七二五)伊(二五四)露(八八)英(三)統一法  
(二)條二項等之ヲ明定ス蓋當然ノ規定ナリ(Felix Meyer I S, 141)

手形カ其要件ヲ具備スルヤ否ヤハ一ニ手形自體ニ付テ之ヲ決定スヘキモノ  
ニシテ手形以外ニ存在スル事實例ヘハ附帶ノ契約書等ヲ材料トシテ手形ニ記  
載シタル文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補足スルコトヲ許ササルナリ(大民一〇輯二  
七九頁、五七二頁、一一輯二五九頁)此ノ如クニシテ初メテ證券自體ヲ一見シテ手  
形タルト手形タラサルトヲ判斷スルコトヲ得ヘク又證券ノ文言カ一ニ當事者  
ノ權利義務ヲ決定スルコトヲ得ヘキニ至リテ初メテ手形ノ流通證券タル作用  
ヲ全クスルコトヲ得ヘキナリ

(二)手形ノ要件ハ法律ノ定ムル所ニシテ其欠缺ヲ許ササレトモ其要件ノ存否  
ハ手形上ノ記載ニ於テ之ヲ判斷スヘキモノニシテ其果シテ真正ナル事實ト符  
合セルト否トヲ問ハサルナリ例ヘハ手形振出ノ年月日カ眞ニ振出サレタル年  
月日ト異ルモ苟モ形式上ニ於テ其記載ヲ存スル以上ハ手形トシテノ效力ヲ妨

手形要件ト  
事實

ケラルルコトナシ若シ此ノ如キ手形ヲ以テ要件ヲ缺キ從テ無効ナル手形ト爲  
ストキハ手形ノ授受者ハ手形ノ文言ニ信賴シテ其授受ヲ爲スコトヲ得ヘカラ  
サルニ至リ手形ノ流通證券タル作用ヲ阻碍スヘケレハナリ而シテ其手形上ノ  
記載ト事實ト符合セサル場合ニ於テ手形ノ成立ニ瑕疵ヲ生セサルノ法理ハ手  
形ヲ授受シタル直接當事者タルト否ト又手形取得者ノ善意ナルト否トニ依リ  
テ其適用ヲ異ニスヘカラサルナリ(大民一〇輯一〇二二頁)〔註一〕岡野博士ハ手形  
ノ要件ヲ外觀ニ依リテ決定スルノ點ヨリ觀テ之ヲ外觀的解釋ノ原則ト謂ヘリ  
(法學協會雜誌二二卷三一頁以下岡野博士論文)〔註二〕

〔註一〕大審院ノ審判決ニハ振出行爲ニ關係ナキ地ヲ振出地トセル約束手形ノ振出ヲ無効ト爲  
ルモノアリ(大民八輯九卷六七頁)同院ハ後ニ至リ其說ヲ改メ振出ノ日附又ハ振出地ノ記載ニ  
關シ苟モ振出ノ要件ヲ具備セル手形ハ眞實ト符合セサルモ尙ホ形式上完備セル手形ナルヲ  
以テ振出人カ善意ノ取得者ニ對シテ責ニ任スヘキモノトセリ(大民一〇輯四四七頁、九三七頁)  
而シテ後更ニ其說ヲ改メ明治三十七年七月五日ノ聯合部判決ニ依リ本文ニ掲ケルカ如キ解  
釋ヲ採ルニ至リタルモノナリ但此以前ニ於テモ振出ノ年月日ノ眞實ナラサルニ因リテ手形  
ノ無効ヲ生セサルコトハ同年五月二十四日ノ判決ニ於テ之ヲ認メタルコトアリ其判決ニ於  
テハ取得者ノ善意惡意ヲ問題トセザリシナリ(大民一〇輯七一八頁)

爲替手形 振出

〔註一〕所謂外觀的解釋ノ原則ハ獨逸學者ノ Prinzip der äusseren Korrespondenz 又ハ formelle Aufassung ト謂フ所ト同シ獨逸學者中グリエンフリートハ惡意者ニ對シテハ記載事項ノ眞實ナラサルコトヲ對抗スルヲ得ヘキモノトセルモ通説ニ非ス

形件欠缺ノ要件

(三) 手形カ其要件ヲ缺キタル場合ニ於テ無効ナルコトハ前述セル所ニシテ要件ヲ缺キタル手形ノ振出ハ振出タルノ効力ヲ有セサルヘキコト言フ俟タス而シテ要件ヲ缺キタル手形ノ振出ハ其効力ナキト同時ニ其手形ニ爲シタル裏書引受等ノ手形行爲モ亦手形行爲ノ効力ヲ有セサルナリ〔註二〕手形行爲ノ獨立性ハ形式上完全ナル手形ノ存在スルコトヲ前提トス形式上無効ナル手形ニ爲シタル行爲ハ手形行爲タルコトナク從テ無効ナリト謂ハサルヘカラス要スルニ手形振出ノ方式ハ單ニ振出ノ方式タルニ止マラス總テノ手形行爲ノ基礎タリ是レ振出ヲ基本的手形行爲ト謂フ所以ナリ(第一章第二節ノ二及ヒ五參照)

〔註一〕獨七(六)獨七二五(八八)等ハ要件ヲ具備セサル手形ニ爲シタル裏書引受等ノ手形行爲カ無効ナルコトヲ規定セルモ是レ當然言ヲ待タサル所ナリ但手形行爲ノ獨立性ヨリ推シテ之ヲ否認セムトスル説ナシトセス(Polix Meyer II S. 92 ff.)

要件ヲ缺キタル手形ノ振出ハ振出タル効力ヲ有セサルヲ以テ後日ニ至リテ

要件ノ記載方法

他人カ其要件ヲ補正スルモ振出ノ効力ヲ追完スルコトヲ得ヘカラス然レトモ當事者カ同意シテ其補正ヲ爲シタルトキハ補正ノ當時新ナル振出行爲アリタルモノト觀ルコトヲ得ヘキナリ(大民一〇輯一二三三頁)

(四) 手形ハ其要件ヲ具備スルトキハ手形タルノ効力ヲ有ス其要件ノ記載方法ニ付テハ法律ニ規定スル所ナシ手形ハ便宜上多ク一定セル印刷用紙ヲ用ヒ殊ニ小切手ハ支拂銀行ヨリ交付スル小切手帳ノ用紙ヲ用ヒテ之ヲ作成スト雖モ法律上ハ用紙ニ制限ナク又必スシモ紙片タルコトヲ必要トセサルナリ唯其手形要件ノ記載ハ手形自體ニ爲ナルコトヲ必要トス之ヲ補箋ニ記載シタルトキハ手形ノ効力ヲ失ハシム(大民八輯九卷一〇頁)

手形要件記載ノ用語及ヒ文字ニ付テモ制限ナキヲ以テ必スシモ日本文及ヒ日本字タルコトヲ要セス外國文及ヒ外國字ニ依ルコトヲ妨ケサルナリ手形要件記載ノ書式ニ付テモ制限ナキヲ以テ必スシモ列舉的ニ要件ヲ掲クルコトヲ要セス要件ノ記載カ明瞭ニ看知セラルルヲ以テ足レリトス〔註二〕又記載ノ文字ニ誤脱アルヲ妨ケス(大民一一輯八頁)要ハ手形授受者ヲシテ手形外ノ

爲替手形 振出

材料ニ基カスシテ要件ノ記載アルコトヲ知ラシムルヲ得ルニ在リ若シ手形ノミヲ以テシテ其要件ヲ知ルコトヲ得サルニ至ルトキハ要件ヲ具備セサルモノト謂ハサルヘカラス

〔註一〕 振出地又ハ支拂地ノ記載ハ必スシモ其記載欄内ニ於テスルコトヲ要セス故ニ支拂場所トシテ某銀行濱松支店ノ記載アルトキハ支拂地トシテ濱松市ノ記載アルモノト解スヘシ又約束手形ノ振出地欄ニ東京府トアルモ振出人ノ肩書ニ彦谷トアル以上ハ彦谷町ヲ振出地ト記載シタルモノト認ムヘシ(大民七輯一〇卷一四八頁一九輯四四六頁二二輯一二九九頁法學協會雜誌三五卷一二九頁以下拙稿判例二卷民事判例一三二二頁所載大審院大正六年六月一四日判決参照)

(五) 爲替手形及ヒ約束手形ニ付テハ印紙税ヲ納付スルコトヲ要シ其納付ハ手形ニ印紙ヲ貼用スルノ方法ニ依ル印紙ヲ貼用スルトキハ手形ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ振出人ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ消スコトヲ要ス而シテ印紙税ノ納付ヲ怠ルトキハ脱税額ノ二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處セラル(明治三二

年法律五四號印紙税法) 上述セル如ク印紙ノ貼用ハ税法上必要ナリト雖モ手形ノ要件ヲ爲スモノニ

印紙税納付  
ノ爲メニ  
印紙貼用

非ス故ニ印紙ノ貼用ナキモ手形タルノ效力ヲ害セサルナリ〔註二〕

〔註二〕 手形統一條約第十九條ハ亦各國法ヲ以テ印紙税法ノ違背ヲ手形行爲ノ效力又ハ手形上ノ請求權行使ノ條件ト定ムヘカラサルモノトス

(六) 手形カ其要件ヲ缺キタル結果手形トシテ效力ヲ有セサル場合ニ於テ通常ノ指圖證券トシテ其效力ヲ有スヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ獨逸ニ於テハ最近判例ノ積極說ニ依リタルモノアレトモ(B. G. B. 48 S. 230) 手形振出ノ意思ヲ以テ發行セラレタル證券カ他ノ證券トシテノ效力ヲ有ストスルハ當事者ノ意思ニ反スルモノニシテ此說ヲ採ルコトヲ得ヘカラス(Staub-Stranz Art. 4 anm. 70)

手形カ手形タル效力ヲ有セサル場合ニ於テ他ノ指圖證券トシテノ效力ヲ有シ債務者カ義務ヲ負擔スヘキ旨ノ文言ヲ手形ニ記載シタルトキハ(所謂萬效手形)其記載ニ依リテ手形タルノ效力ヲ害スルコトナキハ勿論ナリト雖モ(四三九)手形タルノ效力ヲ有セサル場合ニ於テ他ノ指圖證券タル效力ヲ有スルヤ否ヤハ別問題ナリ或ハ一般ノ指圖證券ニハ原因ノ表示ヲ必要トスルヲ以テ其表示ナキモノハ無効ナリトスル說アレトモ(青木博士手形法論一〇〇頁反對說Staub)

無効手形  
ノ爲メニ  
印紙貼用

-Stranz a. a. O. 水口氏手形法論二五一頁) 必スシモ常ニ然ルモノト解スヘカラス是  
 レ畢竟スルニ各個ノ場合ニ付キテ決定スヘキ一般私法上ノ問題タリ  
 上述セル場合ニ類似スルモノハ手形カ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リ其効力ヲ  
 失ヒタル後ニ於テ他ノ指圖證券トシテノ効力ヲ有スヘキ旨ヲ記載シタル手形  
 ナリ大審院ハ手形ト手形ニ非サル證券トハ兩立セサルモノトシテ其手形タル  
 効力ヲ失ヒタル後ニ於ケル効力ヲ否認セリ(大民一六輯二〇八頁 Vergl. Staudb. St.  
 ranz Art. 83 Anm. 34.)

手形ノ要件

第二款 手形ノ要件

爲替手形ノ要件ハ第四百四十五條ニ之ヲ列舉セリ以下項ニ分チ順次ニ之ヲ  
 説明スヘシ

爲替手形  
 スルコトヲ示  
 スヘキ文字

第一項 爲替手形タルコトヲ示ス  
 ヘキ文字

爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字ハ所謂手形文句 (Wechselklausel) ニシテ之ヲ  
 要件トセルハ手形授受者ヲシテ一見シテ其爲替手形タルコトヲ知ルヲ得セシ  
 ムルカ爲メナリ(註一)

[註一] 手形文句ハ獨(四)句(三端七二)露(八六)伊(二五〇)等獨法系國法之ヲ要件トス統一法(一)ハ亦  
 之ヲ要件トシ且手形ニ用ヒタル國語ヲ以テ之ヲ記載スヘキモノトス但統一條約第二條ニ於  
 テ各國法ニ依リ指圖文句ヲ以テ手形文句ニ代フルコトヲ得ヘキ旨ノ例外ノ定ヲ爲セリ(毛月  
 博士統一手形法論三三頁以下 Teich Meyer I S. 137 ff.)

爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字ハ必スシモ爲替手形ナル文字ニ限ラス爲  
 替爲替證書ト謂フカ如キ亦爲替手形タルコトヲ示スコトヲ得ルモノト謂フヘ  
 シ又必スシモ日本文及ヒ日本字タルコトヲ必要トセサルモノト解スヘシ

第二項 一定ノ金額

一定ノ金額ハ即チ手形金額 (Wechselsumme) ニシテ其要件トスヘキ理由ハ言説  
 ヲ類ヒスシテ明白ナル所ナリ  
 手形債權ノ目的ハ金額ナラサルヘカラス物品又ハ有價證券ノ類ヲ目的トス

一定ノ金額

爲替手形 振出

ル手形ハ之ヲ認ムヘカラサルナリ(註二)然レトモ金額ヲ示スニ付キ特種ノ通貨  
又ハ外國ノ通貨ヲ以テスルコトヲ得ルハ學者ノ普ク認ムル所ナリ(民四〇二)

(註一) 英(二條二項)ハ此趣旨ヲ明言ス伊(三三三以下)及ヒ羅馬馬尼(三五八以下)等ハ之ニ反シ物品ヲ  
目的トスル手形ヲ認ム(Felix Meyer I S. 110.)

手形金額ハ一定ナラサルヘカラス(百圓又ハ二百圓)トスルカ如キハ不可ナリ  
利息ノ約束カ手形金額ノ一定ヲ妨ケ從テ手形ヲ無効ナラシムルヤ否ヤニ關シ  
テハ立法例區々ニシテ(註二)又我商法ノ解釋論モ一定セサルカ如シ(註三)然レト  
モ余ハ利息ノ約束カ手形金額ノ一定ヲ害スルトキハ手形ヲ無効タラシムルモ  
然ラサル場合ニ於テハ手形ノ効力ヲ害スルコトナキモノト解ス即チ一覽拂又  
ハ一覽後定期拂手形ニ於ケル利息ノ約束ハ手形金額ヲ不定ナラシムルヲ以テ  
手形ヲ無効タラシムルモ定日拂又ハ日附後定期拂ノ手形ニ於ケル利息ノ約束  
ハ敢テ手形ノ効力ヲ害スルコトナキモノトス或ハ利息ノ約束ハ手形法ニ規定  
ナキ事項ナルヲ以テ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ効力ヲ有セストスル説ア  
ルモ手形金額ノ表示方法ニハ制限ナキヲ以テ豫メ利息ヲ加算シテ金若干圓ト

スルモ金若干圓ニ振出ノ日附ヨリ滿期日ニ至ル年何分ノ利息ヲ加算セル金額  
トスルモ任意ナリト解セサルヘカラス但立法論トシテ全然後ノ如キ記載方法  
ヲ禁止スヘキヤ否ヤ又ハ利息ノ約束ノ記載ナキモノト看做スヘキヤ否ヤノ議  
論ハ自ラ別問題ニ屬スヘキナリ

(註二) 利息ノ約束ノ効力ニ關スル立法例トシテハ(七)手形ヲ無効トシ(七)三條七(二五)露  
(八七)一(二)伊(二五四)等ハ利息ノ約束ノ記載ナキモノト看做シ英(九)米(二)ハ利息ノ約束ヲ有效  
トシ統一法(五)ハ一覽拂又ハ一覽後定期拂手形ニ限リ利息ノ約束ヲ有效トシ其他ノ手形ニ付  
テハ利息ノ約束ノ記載ナキモノト看做セリ佛國法ニ於テハ學說一定セス或ハ利息ノ約束ヲ  
有效トシ或ハ手形ヲ無効トス(毛)戸博士統一手形法論四〇頁以下(Felix Meyer I S. 106 ff.)

(註三) 我商法ノ解釋トシテ岡野博士ハ利息ノ約束ハ手形ヲ無効タラシムトシ(日本手形法一六  
一頁)松波博士法學協會雜誌三四卷一四〇七頁以下利息附手形論)及ヒ水口氏手形法論二二四  
頁ハ利息ノ約束ノ記載ノミヲ無効トス

利息約束ノ記載ト區別スヘキモノハ支拂遲延ノ場合ニ於ケル違約金ノ約束  
ノ記載ナリ此種ノ記載ハ手形法ニ記載ナキ事項ニシテ之ヲ手形ニ記載スルモ  
手形上ノ効力ヲ生スヘカラサルコト勿論ナリ(四三九)或ハ此種特約ノ記載ニ因  
リ振出人ト所持人トノ間ニ契約ヲ生シ其特約ニ基テ請求ハ手形金額ノ請求ト



同一ノ證書訴訟ニ依リテ之ヲ主張スルコトヲ得ト解スル者アルモ(大民二二輯二三八頁余ノ賛成セサル所ナリ(法學協會雜誌三四卷一五五二頁以下拙稿參照)手形金額ノ最高額又ハ最低額ニ付テハ制限ナキモ無記名手形又ハ選擇無記名式手形ノ手形金額ハ三十圓以上タルヘキモノトスルヲ以テ(四四九、四四九條ノ三)之ニ反スル手形ハ無効タリ

手形金額ノ記載ハ手形面ニ於テ何レノ部分ニ之ヲ爲スモ妨ナシ又其記載ノ文字ハ文字タルト數字タルトヲ問ハス又數所ニ之ヲ記載スルモ可ナリ若シ其數所ニ記載セラレタル金額ノ間ニ差異アルトキハ手形ノ主タル部分ニ記載セラレタル金額ヲ以テ手形金額トス(四四六)(註四)

〔註四〕此點ニ關スル立法例トシテハ獨(五)匈(四)統(六)ハ文字ヲ以テ記載シタル金額ニ依リ文字又ハ數字ヲ以テ記載シタル金額間ニ差異アルトキハ少額ニ依ルモノトス(英九卷三六)ハ文字ヲ以テ記載シタル金額ニ依ルモノトシ伊(二九一)瑞(七二三)露(八七四)等ハ少額ニ依ルモノトシ佛國ノ學說ハ我商法ノ規定ト同シ毛戸博士統一手形法論三九頁以下・Felix Meier I. S. 103 ff.)

### 第三項 支拂人ノ氏名又ハ商號

支拂人ノ氏名又ハ商號

支拂人 (Bezogener, Trassat, Adresse, tiré, drawee) ハ手形金額ノ支拂ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ其氏名又ハ商號ノ記載ヲ要スルヤ當然ナリ然レトモ其記載ハ手形ノ形式上ニ於テ之アルヲ要スルニ止マルヲ以テ眞ニ支拂ヲ爲サシメムト欲スル者ナルト否ト又ハ假設ノ者ナルト否トヲ問ハサルナリ假設人ヲ支拂人トスル手形 (Kellerwechsel) ハ獨逸ニ於テハ判決常ニ之ヲ有效トセリ尙ホ支拂人ノ氏名又ハ商號カ公簿上ノモノタルコトヲ必要トセサルハ言ヲ待タサルナリ支拂人カ數人アルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニ付テハ多少ノ爭アレトモ積極說ヲ正當トス唯數人カ分擔シテ支拂ヲ爲スヘキモノトシ又ハ選擇的ニ甲カ支拂ヲ爲ササレハ乙ト云フカ如ク記載スルコトヲ認ムヘカラス(註二)又數人ノ支拂人ハ同一ノ支拂地ニ在ルコトヲ必要トス從テ支拂地ヲ記載セサル場合ニ於テハ數人ノ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ同一ナルコトヲ必要トス(四五)是レ支拂地カ一アリテニアルヘカラサルコトノ當然ノ結果タリ而シテ數人ノ支拂人ノ一人ノ引受拒絶アルトキハ即チ引受拒絶アルモノナルヲ以テ直チニ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ一人ノ支拂拒絶アルモ他ノ支

拂人カ支拂ヲ爲ササルコトヲ保セサルヲ以テ總テノ支拂人ノ支拂拒絶アルニ非サレハ償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘカラス尙ホ數人ノ支拂人カ引受ノ署名ヲ爲シタル場合ニ於テ連帶債務者タラサルコトニ付テハ第九項註一ヲ参照スヘシ

〔註一〕獨逸帝國裁判所ノ最初ノ見解ハ數人ノ支拂人ヲ記載スヘカラストスルニ在リタルモ(H. G. 43 S. 86.)後聯合部判決ヲ以テ之ヲ駁シタリ(R. G. 46 S. 193.)尙ホ此種極端ニ付テハ Pappen-

Jehn in Z. f. H. R. 41 S. 108 ナ又各國法ノ比較研究ニ付テハ Felix Meyer I. S. 114 ナ参照スヘシ

支拂人ハ振出人ト同一人タラサルコトヲ常トスルモ法律ハ其同一人タル場合アルコトヲ認ム(四四七)同一ノ商號ヲ有スル數多ノ營業所アルトキ其營業所間ニ於テ此種ノ手形ヲ振出シ又ハ振出人カ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲サムト欲スルトキ此種ノ手形ヲ振出スコトアルヘシ之ヲ稱シテ自己宛爲替手形(trass-irter eigener Wechsel, eigen-gezogener Wechsel, Wechsel an eigene Adresse, lettre de change tirée sur le tireur lui-même)ト謂フ〔註二〕自己宛爲替手形ハ我商法ハ純然タル爲替手形トシテ之ヲ有効トスルカ故ニ約束手形ト觀ルヘカラス擔保請求及ヒ償還請求等ニ關スル法律規定ハ總テ之ニ適用セラルヘク所持人カ支拂拒絶ノ場合

受取人ノ氏名又ハ商號

ニ於テ手續ヲ怠ルトキハ振出人ハ其振出人タル資格ニ於テハ其責ヲ免ルルモノト謂フヘシ尙ホ自己宛爲替手形ナルヤ否ヤハ手形ノ記載ニ於テ之ヲ謂フモノナルヲ以テ例ヘハ本支店カ商號ヲ異ニスル場合ニ於テ其支店ヲ支拂人トシテ本店ノ振出シタル手形ハ自己宛爲替手形ニ非スシテ却テ通常ノ爲替手形タ

リ

〔註二〕スカンザナギア(1)ハ自己宛爲替手形ハ之ヲ約束手形ト看做スヘキモノトス佛白伊等ノ學說モ亦同シ(Tyon-Gaen IV no. 75; Namur, Code de commerce belge no. 434; Vidari, La cambiale n. 68.)英(五卷二一四)ハ所持人ニ於テ之ヲ爲替手形トスルモ又ハ約束手形トスルモ任意トス獨六(四)(五)瑞七(二四)等ハ振出地下支拂地トカ異ルコトヲ條件トシテ自己宛爲替手形ヲ認ム露八七統一法(三條二項)ハ我商法ト同様ノ主義ヲ採ル(毛戸博士統一手形法論四三頁以下(Felix Meyer I S 114 (11.)

### 第四項 受取人ノ氏名又ハ商號

受取人(Remittent, preneur, payee)ハ手形ノ第一次ノ債權者ナルヲ以テ其氏名又ハ商號ノ記載ヲ要スルヤ當然ナリ而シテ眞ニ受取人タル者ナルト否ト假設ノ者ナルト否トヲ問ハサルハ〔註一〕支拂人ニ付テ述ヘタル所ト同シ又受取人カ權

爲替手形 振出

利ヲ得ル爲メニハ其受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載アルコトヲ要スルヤ勿論ナレトモ必スシモ公簿上ノ氏名又ハ商號タルコトヲ要セス通稱ヲ記載スルモ可ナリ(大民、一五輯四八三頁)

〔註一〕英(七條三項)ハ受取人カ假設ノ者ナルトキハ其手形ハ無記名式ノモノト看做スヘキモノトセリ

受取人カ數人アルコトヲ得ルハ通説之ヲ認ム(反對 Renaud § 18)而シテ受取人數人アルトキハ選擇的ニ甲又ハ乙ト定ムルモ可ナリ此場合ニ於テハ其一人カ有效ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ヘシ(Otto Lehmann 8. 349; Grünhut I S. 350 反對青木博士手形法論二九五頁若シ選擇的ナラサルトキハ各受取人ハ内部關係ニ於テハ一定ノ割合ヲ以テ權利ヲ有スヘキモ(民四二七)手形上ノ權利ノ行使ハ手形證券ニ依ルコトヲ要スルモノナルカ故ニ共同シテ其權利ヲ行使スルコトヲ要スヘシ從テ裏書モ亦數人ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス而シテ此場合ニ於ケル數人ノ裏書人カ連帶債務者ト爲ルモノニ非サルコトニ付テハ第九項註一ヲ參照スヘシ

受取人ハ振出人ト同一人タラサルコトヲ常トスルモ法律ハ其同一人タル場合アルコトヲ認ム(四四七)手形ノ割引ハ多ク裏書ノ方法ニ依ルヲ以テ振出人カ割引ヲ求メムトスルトキハ自己ヲ受取人トシテ手形ヲ振出シ之ヲ割引者ニ裏書スルコトアリ又振出人カ先ツ支拂人ノ引受ヲ得其信用ニ依リテ手形ノ流通ヲ計ラムトスルトキハ此種ノ手形ヲ振出す必要アリ之ヲ稱シテ自己指圖爲替手形又ハ自己受爲替手形(Tratte an eigene Ordre, lettre de change tirée à l'ordre du tireur lui-même)ト謂フ〔註二〕自己指圖爲替手形ニ於テハ振出人カ受取人タル資格ヲ兼ヌルモノニシテ其手形ノ作成ト同時ニ完全ナル手形ヲ生ス故ニ振出人タル受取人カ之ヲ裏書スルトキハ其第一ノ裏書ハ通常ノ裏書ト同一ノ效力ヲ有ス又之ニ引受ヲ爲シタル者ハ完成セル手形ニ引受ヲ爲シタルモノタリ唯手形カ振出人ノ手中ニ在ル間ハ手形上ノ債權者ヲ生スルコトナキノミ或ハ第一ノ裏書ニ於ケル被裏書人ヲ以テ受取人ト看做スヘシト解シ(Thöl § 160)或ハ裏書ヲ待チテ始メテ手形トシテ完成スト解スル者アレトモ(Lyon-Caen IV nos. 76, 91 青木博士手形法論五四三頁松波博士日本手形法六五一頁是レ獨逸ノ通説ト反

〔註二〕自己指圖爲替手形ハ各國法之ヲ認ム統一法(三條一項)亦同シ獨リ露(八七)ハ振出地ト支拂地トノ異ルコトヲ條件トセリ(毛戸博士統一手形法論五一頁以下、Felix Meyer I S. 118 ff.)

振出人受取人及ヒ支拂人カ總テ同一人タルコトハ英手形法(五條一項)及ヒ獨逸ノ判例(R. O. H. G. 7 S. 194)ハ之ヲ認ム我邦ニハ之ヲ認ムヘカラストスル論者多キカ如キモ(青木博士手形法論五四二頁、松波博士日本手形法六五七頁、水口氏手形法論二五九頁)法律カ振出人ト受取人トカ同一人タルコト及ヒ振出人ト支拂人トカ同一人タルコトヲ認ムル以上ハ此三者カ同一人タルハ當然認メラルル所ト謂フヘシ(同說乾博士法學志林一四卷一一號、一二號所載「手形ニ於ケル當事者資格ノ重複ヲ論ス」、毛戸博士統一手形法論四四頁)

受取人ト支拂人トカ同一人タルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ爭アリ獨逸ノ判例(R. G. 18 S. 93)及ニ(三)ノ學者(Dernburg, Preuss. Privatrecht § 251; Staub-Stranz Art. 4 Anm. 10)ハ消極說ヲ採レリ我邦二三ノ學者モ亦同シ(青木博士手形法論五四二頁、松波博士日本手形法六六二頁)其論據ハ獨手形法(六)又ハ我商法(四四七)ニ於テ

明カニ之ヲ認ムルコトナキト及ヒ支拂人カ自己ニ對シ支拂ノ義務ヲ負フヘキ理由ナシト謂フニ在ルモ獨手形法第六條又ハ我商法第四百四十七條ハ振出人ト支拂人又ハ受取人カ同一人タルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ此規定ニ依リ受取人ト支拂人トカ同一人タルヘカラストスル結論ヲ生スヘキ根據ナシ又支拂人ハ手形ノ振出ニ因リテ支拂ノ義務ヲ負フモノニ非サレハ受取人ト同一人タルコトヲ妨クルノ根據ナシ偶マ支拂人ト受取人トカ同一人ナルニ因リ振出人カ其義務ヲ負フコトヲ免ルヘキノ理由ヲ解スヘカラサルナリ(同說 Otto Lehmann S. 350; Derselbe in Iherings J. 34 S. 408ff.; Grünhut I S. 350 乾博士前掲論文、水口氏前掲二二八頁)

受取人ノ氏名又ハ商號ハ手形ノ要件ナリト雖モ無記名式ノ手形(Inhaberwechsel, lettre de change payable au porteur, bill payable to bearer)ニ於テハ之ヲ記載スルコトヲ必要トセス所持人又ハ持參人ニ支拂フヘキ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル而シテ我商法ハ無記名式ノ手形ヲ認ムレトモ其手形金額ハ三十圓以上タルヘキモノトス(四四九)〔註三〕蓋小額ノ無記名式手形ハ動モスレハ紙幣類似ノ目的ニ濫

用セラルルノ弊害ヲ生スヘキヲ以テナリ

〔註三〕英三條一項八條三項(米二〇條四號二八等)無制限ニ無記名式手形ヲ認ム之ニ反シテ大陸法ハ一般ニ無記名式手形ヲ認メス統一法第一案三條四項ハ之ヲ認メタルモ確定法ハ此規定ヲ削除セリ而シテ大陸法ハ無記名式手形ヲ認メサルモ自己指圖ニテ振出し白地裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ認ムルトキハ恰モ無記名式手形ト同一ノ作用ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ(毛戸博士統一手形法論五〇頁以下 Felix Meyer I S. 116 ff.)

受取人ノ氏名又ハ商號ニ附加シテ又ハ持參人ナル文言ヲ記載シタル選擇無記名式ノ手形ノ效力ニ付テハ從來ハ爭アリタリ獨逸ノ通説ハ此記載ハ手形ヲ無記名式タラシムルコトナク單ニ甲殿又ハ其指圖人ト記載セルモノト同一ナリト解シ我商法ノ解釋トシテハ通常又ハ持參人ノ記載ハ手形上ノ效力ヲ生セサルモノト解セラレタルモ〔註四〕改正法ハ此種ノ手形ハ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有スヘキモノト定メ且無記名式手形ト同シク金額三十圓以上タルコトヲ要スヘキモノト定メタリ(四四九條ノ二、四四九條ノ三)蓋此種ノ手形ノ理論上無記名式手形ニ非サルコトヲ認ムルト同時ニ其效力ヲ同一ナラシムルモノト解スヘキナリ(拙著商法改正法評論一六四頁以下二四五頁以下參照)

〔註四〕英米法ニ於テハ此種ノ手形ハ當然無記名式手形タルヘキモノト解セラレ(Chalmers & Daniel § 99)

單純ナル支拂ノ委託

### 第五項 單純ナル支拂ノ委託

爲替手形ニ於テハ振出人ハ他人ヲシテ手形金額ヲ支拂ハシムヘキモノナルヲ以テ支拂ノ委託(Nahlungsauftrag)ハ之ヲ記載セサルヘカラス〔註一〕而シテ支拂ノ委託ハ單純ナルコトヲ要ス(Le mandat pur et simple de payer)或ハ支拂ニ條件ヲ附シ或ハ支拂ノ資金〔註二〕又ハ支拂ノ方法ヲ限定スルカ如キハ手形ノ無効ヲ生スルモノト謂フヘシ

〔註一〕支拂委託文句ノ記載ハ當然ノ要件ナルカ故ニ多數法ハ特ニ之ヲ要件トシテ明揭スルコトナシ(Felix Meyer I S. 133)

〔註二〕支拂ノ資金ヲ限定スルハ手形ヲ無効タラシムヘキモ單純ナル支拂ノ委託ニ附加シテ單ニ資金關係ヲ指示スルニ止マルトキハ其附記カ手形上ノ效力ヲ生スルコトナキニ過キサルモノト解スヘシ(英三條三項參照)

支拂ノ委託ヲ表スル文言ニハ制限ナシ通常手形金額ヲ指示シ右金額某殿又

爲替手形 振出

ハ指圖人ニ御支拂相成度候ノ如キ依頼的文言ヲ用フト雖モ必スシモ之ニ限ラ  
ス命令的文言ニテモ可ナリ

第六項 振出ノ年月日

振出ノ年月日

振出ノ年月日ハ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ在リテハ呈示期間ヲ定ム  
ル爲メ(四六六、四八二)又日附後定期拂手形ニ在リテハ滿期日ヲ定ムル爲メ其記  
載ヲ必要トスヘシ其他ノ手形ニ在リテモ振出人カ振出ノ當時ニ於テ能力ヲ有  
セシヤ否ヤ振出人カ支拂停止ヲ爲シタル場合ニ於テ其支拂停止ト振出ノ前後  
如何等ノ問題ヲ決定スル爲メニ其記載アルヲ可トス故ニ多數國法ハ之ヲ手形  
ノ要件トセリ[註一]然レトモ振出ノ年月日ノ虛偽カ手形ノ效力ヲ妨ケサルコト  
ハ既述セル所ナリ[註二]振出人ノ能力ノ有無又ハ支拂停止トノ先後等ハ反證ア  
ルトキハ眞實ノ振出ノ時ニ依リテ決定セラルヘキモノタリ

[註一] 英(三)米(二五)葡(二八二)ハ振出ノ年月日ノ記載ヲ必要トセス(毛戸博士統一手形法論五三頁  
以下 Felix Meyer I S. 120 ff.)

[註二] 二月三十日ノ如キ不能ノ日ハ振出ノ年月日タルコトヲ得ヘカラス

多數國法ハ振出ノ年月日ト併セテ振出地ヲ手形ノ要件トスレトモ[註三]我商  
法ハ之ヲ要件トセサルナリ

[註三] 英(三)米(二五)葡(二八二)ハ之ヲ要件トセス(佛國法ノ解釋トシテハ疑問ヲ存ス(Lyon-Caen IV no.  
76)統一法(一條七號)モ亦多數國法ノ主義ニ依レリ(毛戸博士統一手形法論五二頁以下 Felix Meyer  
I S. 110 ff.)

振出ノ年月日及ヒ振出地ハ數箇アルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニ付テハ消極  
說ヲ通說トス[註四]或ハ振出人數人アルトキハ振出ノ年月日及ヒ振出地モ數箇  
アルヲ妨ケストスル者アルモ(Bernstein S. 45)振出ハ數人共同シテノミ之ヲ爲ス  
コトヲ得ヘキモノナレハ此說ハ非ナリ

[註四] レーマンハ初ハ通說ニ反對ナリ(毛戸(Otto Lehmann S. 377)後改說ナリ(Theringer J. 34 S. 406)

第七項 一定ノ滿期日

一定ノ滿期日

滿期日(Verfalltag, jour del'échéance)ハ手形金額ノ支拂アルヘキ日ニシテ債權者  
ヲシテ其權利ヲ行使スルノ時期ヲ又債務者ヲシテ其義務ヲ履行スルノ時期ヲ

爲替手形 振出

知ラシムル爲メ之ヲ手形ニ記載スルコトヲ必要トス然レトモ手形金額ノ支拂ハ必スシモ満期日ニ爲サルルモノニ非ス満期日カ休日ニ當ルトキハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス(二八三)又所持人ハ必スシモ満期日ニ支拂ヲ求ムルコトヲ要セス其後二日内ニ支拂ヲ求ムルヲ以テ足ルモノナリ(四八七)(註一)

〔註一〕外國法ニ於テハ通常満期日ト支拂日(Zahlungstag, le jour o i le paiement peut être exigé)トナ區別シ満期日ハ手形記載上ノ支拂アルヘキ日ニシテ支拂日ハ法律上支拂アルヘキ日タルモノトス我商法ハ此區別ヲ認メサルモ日附後定期拂又ハ一覽後定期拂手形ニ於テハ其日附後又ハ一覽後ノ期間ノ計算ニ付キ民法第四百十二條ノ適用アル結果トシテ満期日カ休日ニ當ル場合ニ於テハ當然繰延ヘラルルコトト爲リ從テ満期日ト支拂日トハ一敷スルニ至ルヘシ(拙著私法論文集一卷三九九頁參照)

満期日ヲ定ムル方法ハ我商法ハ之ヲ左ノ四種ニ限定セリ(四五〇)從テ他ノ方法ニ依リテ之ヲ定メタル手形ハ無効ナリト解スヘシ(註二)

〔註二〕統一法(三二)ハ正ニ我商法ノ規定ト同シ獨、匈、瑞、伊、露、佛、白、蘭等ノ諸國法ハ此以外ニ市場ノ開催日ヲ満期日トスル市場手形(Messwechsel, Marktwechsel, lettre de change p. vu je en floré)ヲ認ムルトモ實際ニハ多ク行ハレヌ又佛、白、蘭、西等ノ諸國法ハ支拂地ニ於ケル慣習上ノ支拂日ヲ満期

日トスル手形(Uswechsel)ヲ認ムレトモ是レ亦實際上ニ必要ナキモノナリ(毛月博士統一手形法論一三〇頁以下Felix Meyer I. S. 131 ff.)

(一) 確定セル日 確定セル日ヲ満期日トスル手形ヲ定日拂ノ手形(Tagwechsel)ト謂フ而シテ確定セル日ハ通常年月日ヲ以テ之ヲ表示スヘキモノナルモ年ノ記載ハ之ヲ缺クモ振出ノ年ヨリ推知スヘキトキハ妨ケナキモノト解スヘシ(法律新聞四三九號一一頁所載東京控訴院判決)又紀元節、天長節ノ如キ表示ヲ以テスルヲ妨ケス(法曹記事二〇卷二號六二頁所載法曹會決議)又何年何月何日迄ナル記載ハ同日ヲ以テ満期日トセルモノト解スヘシ(法律新聞一〇五號二五頁所載大審院判決)

(二) 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日 此種ノ満期日ヲ有スル手形ヲ日附後定期拂ノ手形(Datowechsel)ト謂フ此期間ノ計算ハ民法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ但法文ニハ期間ヲ經過シタル日トアレトモ其意味ハ期間ノ末日ニ外ナラサルモノト解スヘシ

(三) 一覽ノ日 一覽ノ日ヲ満期日トスル手形ヲ一覽拂ノ手形(Sichtwechsel)ト

謂フ一覽ノ日トハ支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲シタル日ヲ指スモノニシテ其呈示ヲ爲スヘキ期間ハ第四百八十二條ニ之ヲ定ム而シテ破産債權ノ届出ヲ爲シタルトキハ其日ヲ滿期日トストスル說アレトモ(大民一八輯五三〇頁)法學志林一九卷一號五〇頁加藤博士所說之ヲ是認スヘキ理由ナキナリ(第五節第一款ノ五參照)

(四) 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日 此種ノ滿期日ヲ有スル手形ヲ一覽後定期拂ノ手形(Nachsichtwechsel)ト謂フ一覽ノ日トハ引受ノ爲メニスル呈示ヲ爲シタル日ヲ指スモノニシテ其呈示ヲ爲スヘキ期間ハ第四百六十六條ニ之ヲ定ム

滿期日ハ一定ナラサルヘカラス二種ノ滿期日ヲ掲ケテ債權者又ハ債務者ノ選擇ニ任スヘキモノトシ又ハ手形金額ノ一部ニ付テ或日ヲ滿期日トシ他ノ部分ニ付テ他ノ日ヲ滿期日トスルカ如キハ一定ノ滿期日ノ記載アルモノト謂フヘカラス(註三)又不確定期限ヲ以テ滿期日トスルハ上述セル第四百五十條ノ規定ニ反スルモノニシテ之ヲ認ムヘカラス(註四)又不能ノ日例ヘハ二月三十日ヲ

以テ滿期日トスルコトヲ認ムヘカラスハ勿論ナリ

(註三) 英米法ハ割拂手形 (Ratenwechsel, lettre de change à échéance successive) ナリ(毛戸博士前掲 Folix Meyer a. a. O.)

(註四) 英米法ハ不確定期限ヲ滿期日トスルコトヲ認ム(毛戸博士前掲 Folix Meyer a. a. O.)

一定ノ滿期日ハ手形ノ要件ナリト雖モ他ノ要件ノ如ク絶對的ノ要件ニ非ス法律ハ滿期日ノ記載ナキトキハ一覽ノ日ヲ以テ其手形ノ滿期日トスル旨ヲ定ム(四五) (註五) 故ニ商法ノ規定スル所ニ從ヒテ滿期日ヲ記載セザリシ場合ニ於テ滿期日ノ記載ナキモノト觀察スヘキトキ例ヘハ單二年ノミヲ記載シタルトキノ如キハ其手形ヲ一覽拂ノモノト觀テ可ナルヘシ(大民一〇輯一五七八頁) (註六)

(註五) 商法第四百五十一條ハ一種ノ便宜規定ニシテ英(一〇)米(二八)白(二八)蘭(二八)スカンヤナボア(三)統一法(二)條二項等ハ之ト同趣旨ノ規定ヲ存セリ其他ノ諸國ニ於テハ滿期日ハ手形ノ絶對的要件タリ(毛戸博士統一手形法論四七頁 Folix Meyer I. S. 123)

(註六) 青木博士手形法論第三百三十九頁ハ例ヘハ割拂ノ滿期日ヲ定ムルモ第四百五十一條ノ適用ニ依リ一覽拂手形トシテ有效ナリトス然レトモ此場合ニハ滿期日ノ記載ナキニ非スシテ適法ノ記載ナキモノタルヲ以テ手形ヲ無効ナラシムルモノト解セサルヘカラス



## 第八項 支拂地

1106

支拂地 (Zahlungsort, lieu de paiement) ハ手形金額ノ支拂アルヘキ地ニシテ其之ヲ手形ノ要件トスヘキハ當然ナリ然レトモ此要件モ亦絶対的ノ要件ニ非ス振出人カ支拂地ヲ記載セザリシトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ以テ其支拂地トス(四五二)又同時ニ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス(四五二條ノ二)〔註一〕故ニ支拂地ノ記載ナキ場合ニ於テ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ノ記載モナキトキハ手形ヲ無効ナラシムルモノト謂フヘシ

〔註一〕支拂地ヲ要件トシ且其記載ナキトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地又ハ支拂人ノ住所地ヲ以テ支拂地トスルハ獨四條八號(三條七號)七二二條八號(カンザナキ)四條二項(八六條八號、八七條四號)伊(二五一條二項六號)統一法(二條三項等多數法ノ採ル主義ナリ)佛國法ノ解釋亦同シ(Lyon-Caen IV no. 77)之ニ反シ英(五四條四項)米(一三三、白二)葡(一八三條三項)等ハ支拂地及ヒ支拂人ノ住所地ノ記載ナキモ仍ホ其住所地ヲ支拂地トス(毛戸博士統一手形法論四八頁 Felix Meyer I S. 139 ff.)

支拂地ノ記載ハ地域ノ記載タラサルヘカラス是レ支拂ノ場所ト異ル所以ナリ地域トハ市町村(市制、町村制)又ハ之ニ該當スヘキ北海道若クハ沖繩縣ノ區(明治三〇年勅令一五八號、四一年勅令四三號)町村(三〇年勅令一五九號、三五年勅令三七號、四〇年勅令四六號)ノ類ヲ謂フ故ニ例ヘハ東京府東京市ト記載スルハ必要ナラサレトモ東京ナル記載ハ必要ニシテ單ニ日本橋區ト記載スルモ之ヲ以テ支拂地ノ記載アリタルモノト觀ルヘカラス是レ大審院カ約束手形ノ振出地ニ付キ屢判決セル所ナリ(大民、七輯五卷七七頁、九卷一二四頁、八輯三卷一頁、六卷一〇一頁、九輯一二〇一頁、一九輯八三三頁)〔註二〕然レトモ苟モ支拂地ノ記載アルトキハ其以外ニ名ヲ同シクスル市町村アルモ其支拂地ノ記載ノ效力ヲ妨ケサルナリ(大民、八輯六卷一〇一頁、一〇輯一四九九頁)

〔註二〕東京、大阪、京都ノ三市内ノ區ハ新市制第六條明治四四年勅令二三九號(二四四號參照)ニ依リ最小ノ行政區劃ト爲リタルモノニシテ支拂地又ハ振出地タルコトヲ得トスルノ説アレトモ(京都法學會雜誌九卷八號、九號)所載松波博士論文、水口氏手形法論二四〇頁)余ハ此説ヲ採ラス右三市内ノ區ハ新法ニ依リ法人ト認メラレタルモ其財產及ヒ營造物ニ關スル事務其他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スル權能ヲ有スルモノタルニ過キス之ヲ市町村ニ該當スル

支拂地ハ單一ナラサルヘカラス甲地又ハ乙地トシ又ハ手形金額ノ一部ニ付テ甲地他ノ一部ニ付テ乙地トスルカ如キハ支拂地ノ記載ノ效力ヲ害スルモノタリ(Grinhut I § 57; Staub-Stranz § 4 ann. 51)

支拂地ハ振出地ト同一地ナルコトヲ妨ケス舊時ノ法律ハ其同一地ナラサルコト即チ異地 (distancia loci, Ortsverschiedenheit, remise de place en place) ヲ必要トセルモ〔註三〕商法ハ固ヨリ此主義ヲ採ラサルナリ

〔註三〕佛法系ノ諸國法ハ多ク此條件ヲ必要トセルモ佛國ニ於テモ千八百九十四年六月七日ノ改正法ヲ以テ之ヲ撤廢セリ(手形博士統一手形法論四九頁 Folix Meyer I p. 134)

支拂地ハ支拂人ノ住所地ト同一地ナルコトヲ常トスレトモ之ト異ルコトヲ妨ケス其異リタルトキハ之ヲ他地拂手形 (domizilierter Wechsel, lettre de change domiciliée, domiciled bill) ト稱ス改正前ノ商法ニ於テハ他地拂手形ニ限リテ支拂人以外ノ者ヲ支拂擔當者トシテ記載スルコトヲ得ヘキモノトセルモ改正法ハ此區別ヲ撤廢シタリ(四五三、四七二、四九〇)(拙著商法改正法評論一六九頁、二四八頁參

照)

振出人ノ署名

## 第九項 振出人ノ署名

振出人 (Aussteller, Trassant, tireur, drawer) ノ署名カ必要ナルハ言ヲ俟タス(署名ニ付テハ第一章第二節ノ二參照)而シテ振出人ハ數人アルコトヲ妨ケス(大民、七輯一卷一三頁、一〇輯一五五七頁 Lehmann in Iherings J. 34 S. 408)

數人ノ振出人ハ連帶債務者トシテ其責ニ任スヘキモノナルヤ否ヤノ問題ニ付テハ〔註一〕手形行爲ハ商行爲ナルカ故ニ第二百七十三條第一項ノ規定ニ依リ連帶債務者タリトスル説行ハルルモ(大民、一〇輯一五五七頁、二二輯二三七四頁青木博士手形法論三二八頁、松波博士日本手形法六〇〇頁、京部法學會雜誌一二卷一一八一頁以下竹田博士所説連帶債務者タラストスル反對説)岡野博士日本手形法一七一頁、水口氏手形法論二四五頁)ヲ正當トス蓋第二百七十三條ハ意思推測的ノ任意規定ナレトモ數人ノ手形行爲者カ各自其行爲ニ因リ全部ノ責任ヲ負フハ手形行爲ノ性質上當然ノ結果ニシテ反對ノ特約ヲ許ササルモノナル

カ故ニ第二百七十三條ノ適用アルヘキノ理ナケレハナリ數人ノ振出人ハ各自其振出行爲ヲ爲シタル結果手形金額ノ全額ニ付キ責ニ任スヘク所持人ハ其人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ其全員ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ又一人ニ付キ振出行爲ノ無効又ハ取消ノ原因ヲ存スルモ他ノ者ノ手形債務ノ效力ヲ妨ケサルヘク其他一人ニ付テ生シタル事項ハ他ノ者ニ對シテ其效力ヲ生セサルヘシ然レトモ數個ノ手形債務ハ一個ノ手形ノ振出人ノ責任タル單一ノ目的ヲ有スルモノナルカ故ニ一人ノ辨濟ニ因リ全員カ其債務ヲ免ルヘキコト當然ナリ總テ是等ノ關係ハ連帶債務ト同様ナルモ連帶債務ニ關スル民法中ノ便宜規定ハ適用アルヘキノ理ナキカ故ニ例ヘハ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ者ニ其效力ヲ及ホスコトナク一人ト所持人トノ間ニ更改アルモ他ノ者ニ其效力ヲ及ホスコトナキナリ〔法學協會雜誌三五卷一四八三頁以下拙稿參照〕

〔註一〕 本文ニ叙述スル所ハ數人ノ振出人ノ責任ニ關スレトモ數人ノ裏書人又ハ引受人等ニ付テモ理論上全ク同様ナリ

要件以外ノ記載

### 第三款 要件以外ノ記載

前款ニ説明シタル要件以外ノ記載ハ實際ニ爲サルルコト稀ナラス殊ニ法律カ特別ノ必要上特定ノ記載事項ヲ認メタルモノナシトセサルナリ余ハ要件以外ノ記載事項ヲ分チテ次ノ三種トス手形上ノ效力ヲ生スル記載事項手形上ノ效力ヲ生セサル記載事項及ヒ手形ノ效力ヲ害スル記載事項即チ是レナリ

#### 第一項 手形上ノ效力ヲ生スル記載事項

手形編ノ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス（四三九）之ニ反シテ手形編ニ規定アル事項ハ之ヲ手形ニ記載スルトキハ手形上ノ效力ヲ生スヘシ次ニ法文ノ順序ニ依リ手形編ニ規定アリ從テ振出人ノ記載ノ效力ヲ認メタル事項ヲ擧クヘシ

(一) 豫備支拂人 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人(Notaire, at, recommandataire, besoin, referee in case of need)ヲ記載スルコトヲ得（四四八）豫備支

手形上ノ效力ヲ生スル記載事項

豫備支拂人

爲替手形 振出

支拂人ノ氏  
名又ハ商號  
ニ附記シタ  
ル地

支拂擔當者

拂人トハ支拂人カ引受又ハ支拂ヲ拒絶シタル場合ニ於テ參加引受又ハ參加支拂ヲ爲ス爲メ特ニ手形ニ指定セラレタル者ヲ謂フ豫備支拂人ノ記載アルトキハ所持人ハ先ツ其者ノ參加引受又ハ參加支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ前者ニ對シ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヌ(四八〇、五〇〇、五〇八)尙ホ豫備支拂人ニ付テハ後之ヲ詳述スヘシ(第八節第一款參照)

(二) 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地 是レ即チ支拂人ノ肩書地ニシテ支拂地ノ記載ナキトキハ支拂地ト爲ルヘク又支拂人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做サルヘキモノタリ(四五二、四五二條ノ二)此記載事項ニ付テハ既述セル所ヲ參照スヘシ(前款第八項)

(三) 支拂擔當者 振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ支拂擔當者(Domiciliat, za-Mlungsteier, domiciliaire)トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得(四五三)(註二)支拂擔當者トハ支拂人ニ代ハリテ支拂ヲ爲スヘキ擔當者トシテ特ニ指定セラレタル者ヲ謂フ支拂擔當者ノ記載アルトキハ支拂擔當者ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムルコトヲ要ス若シ支拂擔當者ニ對シテ支拂ヲ求メサルトキハ前者ニ對シテ

償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス引受人ニ對スル手形上ノ權利ヲモ失フヘキモノタリ(四九〇)(註二)而シテ支拂擔當者カ支拂地ニ在ルコトヲ要スルハ勿論ナリ(四九〇、四四二)

(註一) 支拂擔當者ノ記載ハ多數國法之ヲ認ムト雖モ(英米法ハ之ヲ認メス)他地拂手形ニ限リテ其記載ヲ認ムルニ過キス統一法四、二六)亦然リ獨リ獨手形法ハ千九百八年五月三十日法ヲ以テ一般ニ支拂擔當者ノ記載ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ即チ他地拂手形ニ於テハ之ヲDomiciliatト謂ヒ同地拂手形ニ於テハZahlungsteilerト謂フ我商法ハ明治四十四年ノ改正法ニ依リ獨法ト同一主義ヲ採ルニ至リタルモノナリ(前款第八項末參照尙ホ佛法系法ニ於テ支拂擔當者トハ其性質稍曖昧ニシテ學者或ハ其支拂人ニ代ハリテ支拂ヲ爲スコトヲ認ムル者アレトシ(Thaller, Traité d'obligations nos. 235, 1139, 1340)寧ロ支拂ノ場所タルニ過キスト解スヘキカ如シ(Lyon-Caen IV no. 97)

(註二) 支拂擔當者ニ對シテ支拂ヲ求メサル場合ニ於テ引受人ニ對スル權利ヲ失ハシムヘキモノトセルハ獨法系ノ多數國法ノ採ル主義ナレトモ立法上ハ不可ナリ既ニ獨改正法ニ做ヒテ同地拂手形ニ付テモ支拂擔當者ノ記載ヲ認ムル以上ハ支拂擔當者ニ對スル支拂ノ請求ヲ爲ササルコトハ引受人ニ對スル權利消滅ノ原因タラシメサルヲ可トス拙著私法論文集一卷四二四頁毛戶博士商法改正法評論再版一四頁以下參照英佛兩法系、獨、統、一、法、五、二)ノ如キハ引受人ニ對スル權利ハ支拂ノ爲メニスル呈示ノ有無ニ關セス常ニ消滅スルコトナキモノト

爲替手形 振出

支拂ノ場所

Max (Felix Meyer I S. 270 ff.)

(四) 支拂ノ場所 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所(Zahlstelle)ヲ記載スルコトヲ得四五四(註一)支拂ノ場所トハ支拂人カ支拂ヲ爲スヘキモノトシテ特ニ指定セラレタル場所ヲ謂フ支拂ノ場所ノ記載アルトキハ其場所ニ於テ支拂人ニ對シ支拂ヲ求メ其支拂ナキトキハ支拂拒絶證書ヲ作成セシメサルヘカラス(大民、九輯六九九頁、一一〇七頁、一一七七頁、一〇輯七五九頁、一〇九一頁、一四輯八九〇頁)

(註一) 支拂ノ場所ハ英米法亦之ヲ認ム(英一九條二項、四四、四五條二項、四號米二二八、三三〇、三三三)

支拂ノ場所ハ支拂地内ニ在ルコトヲ要ス支拂地外ニ於テ之ヲ定メタルトキハ支拂ノ場所タル效力ヲ有セス(大民、九輯六二九頁)然レトモ記載當時ニ於テ現存セルヲ以テ足ルヲ以テ支拂ノ場所トシテ指定セラレタル銀行ノ營業所カ他ニ移轉スルモ支拂ノ場所タル效力ヲ害スルコトナシ(大民、一二輯一一四頁)

支拂ノ場所ノ記載方法ニ付テハ制限ナシ通常ハ支拂ノ場所何區何町何番地何銀行又ハ何銀行ニ於テ支拂可申候也等ノ方法ニ依リテ記載セラル大審院ハ

裏書ノ禁止

此種ノ記載ヲ以テ支拂ノ場所ヲ指示スルモノト解セリ(大民、一一輯八六頁、一二輯一一四頁)

(五) 裏書ノ禁止 爲替手形ハ記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘク即チ法定ノ指圖書券ナレトモ振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ指圖書券タル性質ヲ失ヒ指名證券タル手形(Rektawechsel, non-negotiable bill)ト爲ルヘシ(四五五)註一裏書禁止ノ手形ハ指名證券ナルヲ以テ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得サレトモ指名債權ノ讓渡ニ關スル民法ノ規定ニ從ヒテ其權利ヲ讓渡スコトヲ妨ケサルハ勿論ナリ(統一法七〇條二項參照)又裏書禁止ノ手形ニハ商法第二百七十八條第二項、第二百七十九條及ヒ第二百八十一條ノ適用アルコトナシ(法學新報二六卷八號九八頁竹田博士所說參照)尙ホ裏書禁止ノ手形ニ付テハ第二節第一款ノ六ヲ參照スヘシ

(註一) 指名手形ハ多數國法之ヲ認ムレトモ佛法系ノ諸國法ハ指圖書文句ヲ爲替手形ノ要件トシ裏書禁止ノ手形ヲ認メス又露、伊、荷等ノ諸國法ハ裏書禁止ノ手形ニ裏書ヲ爲シタル場合ニ於テ振出人カ受取人ノ後者ニ對シ手形上ノ責任ヲ負ハサルモノトスルニ過キス是レ我商法ト主義ヲ異ニスル所ナリ(毛、戶博士統一手形法論三八頁以下 Felix Meyer I S. 167 ff.)

爲替手形 振出

裏書禁止ノ記載方法ニハ制限ナシ通常裏書又ハ指圖ノ禁止(Nicht an Order, not negotiable)又ハ何殿ニ限り(—only)ノ如キ文言ヲ用フルモノトス〔註二〕

〔註二〕 獨逸帝國高等商事裁判所ハ裏書禁止文句ヲ手形ノ裏面ニ記載シタル場合ニ付キ受取人ヲ拘束セサル旨ノ判決ヲ下シタルコトアリ(R. O. H. G. 2 S. 409)

引受ノ爲メ  
ニスル呈示  
期間

(六) 引受ノ爲メニスル呈示期間 一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ振出人ハ一年ヨリ短キ呈示期間ヲ定メ所持人ヲシテ引受ノ爲メニスル呈示ヲ爲サシムルコトヲ得(四六六)後之ヲ詳述スヘシ(第三節第二款ノ三參照)

引受ノ呈示  
ヲ爲スヘキ  
旨ノ記載

(七) 引受ノ呈示ヲ爲スヘキ旨ノ記載 振出人カ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得(四七二)後之ヲ詳述スヘシ(第三節第二款ノ二參照)

支拂ノ爲メ  
ニスル呈示  
期間

(八) 支拂ノ爲メニスル呈示期間 一覽拂手形ニ於テハ振出人ハ一年ヨリ短キ呈示期間ヲ定メ所持人ヲシテ支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲サシムルコトヲ得(四八二)後之ヲ詳述スヘシ(第五節第二款ノ二參照)

振出地

(九) 振出地 我商法ハ振出地(Ausstellungsort, lieu de la création)ヲ爲替手形ノ要

件トセスト雖モ〔註一〕振出地ノ記載アルトキハ振出人ニ對シ償還請求ノ通知ヲ發セサルニ因リ損害賠償義務ヲ生シ且利息及ヒ費用ノ償還請求權ノ喪失ヲ來スニ反シ振出地ノ記載ナキトキハ此ノ結果ヲ生セサルモノタリ(四八八條ノ三三)而シテ振出地ノ記載ノ方法ニハ制限ナキヲ以テ振出人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ振出地ヲ表スルモノト解スヘシ(拙著商法改正法評論一九四頁參照)

〔註一〕 多數國法カ振出地ヲ要件トスルコトニ付テハ前款第六項註三ヲ參照スヘシ尙ホ振出地ヲ要件トスヘキヤ否ヤノ立法論ニ付テハ拙著私法論文集一卷三五五頁以下ヲ參照スヘシ

支拂拒絕證  
書作成ノ免  
除

(十) 支拂拒絕證書作成ノ免除 振出人ハ償還義務者ナルヲ以テ支拂拒絕證書作成ノ免除(Protestenlass, dispense du protest)ノ記載ヲ爲スコトヲ得ヘク其記載ヲ爲シタルトキハ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメサリシコトヲ事由トシテ振出人ニ對スル權利ヲ失フコトナシ(四八九)後之ヲ詳述スヘシ(第六節第二款ノ三參照)

複本タルコ  
トヲ示スヘ  
キ文字

(十一) 複本タルコトヲ示スヘキ文字 爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示

爲替手形 振出

ササルトキハ其各通カ獨立ノ手形トシテ其效力ヲ有ス(五一九)後之ヲ詳述スヘシ(第十節第一款第三項ノニ參照)

### 第二項 手形上ノ效力ヲ生セサル記載事項

手形編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス(四三九)〔註一〕故ニ例ヘハ一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ非サル手形ニ支拂又ハ引受ノ爲メニスル呈示期間ノ定ヲ爲スモ手形上何等ノ效力ヲ生スルコトナシ若シ其手形ニ記載シタル事項カ當事者間ノ契約ヲ成ストキハ直接當事者間ニ於テ契約トシテ其效力ヲ有シ從テ其者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ人的抗辯ノ原因タルコトヲ得ヘシト雖モ其手形ニ記載セラレタルカ故ニ總テノ手形所持人ニ對シテ契約ノ申込ヲ爲シタルモノト觀ルハ第四百三十九條ノ規定ノ精神ニ反スル解釋ト謂ハサルヘカラス(法學協會雜誌三四卷一五五二頁以下拙稿參照)

〔註一〕獨手形法ニハ我第四百三十九條ノ如キ明文ナキテ以テ同法ニ規定ナキ事項ノ記載ノ效

手形上ノ效力ヲ生セサル記載事項

カニ付テハ爭アリ(Vergl. Deyer in Z. f. H. R. 34 S. 1 ff.)又此點ニ關スル立法例ニ付テハ Felix Meyer I S. 97 ff. 參照スルシ

手形上ノ效力ヲ生セサル事項ニシテ屢手形ニ記載セラルルコトアルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

(一) 原因文句 原因文句 (Valutaklausel) トハ振出人カ手形ヲ發行シタル原因ヲ示ス文句ニシテ「對價受領」(Wert erhalten, valeur reçue, valeur fournie, value received) ノ如キ其例ナリ〔註二〕

〔註二〕原因文句ハ佛蘭其他佛法系法ハ之ヲ手形ノ要件トス(毛戸博士統一手形法論五四頁 Felix Meyer I S. 135 ff.)

(二) 資金文句 資金文句 (Deckungsklausel) トハ支拂人ト資金義務者トノ間ノ資金關係ヲ示ス文句ヲ謂フ

(三) 通知文句 通知文句 (Avisklausel) トハ振出人カ支拂人ニ對シテ手形振出ニ關スル通知書ヲ發スルヤ否ヤヲ示ス文句ヲ謂フ外國ニ於テハ或ハ「通知ニ從ヒ」(Laut Bericht, suivant avis) 又ハ「通知ナシ」(Ohne Bericht, sans avis) 等ノ文句ヲ記

爲替手形 振出

載スルコト多シ

(四) 指圖文句 指圖文句(Orderklausel)トハ指圖式ノ發行ヲ表スル文句ニシテ又ハ指圖人[an die Order, à l'ordre, or order]ナル文句ハ手形ニ記載セラレルコト頗ル多シ然レトモ手形ハ此文句ナキモ當然指圖證券タリ〔註三〕

〔註三〕 佛法系多數法ハ指圖文句ヲ手形ノ要件トセリ(毛戸博士統一手形法論三五頁 Felix Meyer I S. 134 ff.)

(五) 呈示又ハ受戻文句 呈示文句(Präsentationsklausel)又ハ受戻文句(Einlösungsklausel)トハ支拂人カ手形ト引換ニ支拂フヘキ旨ノ文句ヲ謂フ「此手形ト引換ニ」ノ如キ其例ナリ

(六) 破毀文句 破毀文句(Kassationsklausel)トハ複本アル場合ニ於テ他ノ一通ニ支拂ナキトキハ此手形ト引換ニ支拂アルヘキ旨ヲ記載スル文句(Zahlen Sie gegen diese Sekunda, Prima unbezahlt; payez par cette seconde de change la première ne l'étant)ヲ謂フ(第十節第一款第三項ノ二註一參照)

手形ノ效力  
ヲ害スル  
記載事項

### 第三項 手形ノ效力ヲ害スル記載事項

手形ノ本質一反シ又ハ其要件ヲ破壊スルカ如キ記載ハ手形ノ效力ヲ害スルモノト謂ハサルヘカラス例ヘハ所持人ニ反對給付ヲ命シ又ハ支拂ニ條件ヲ附スルカ如キハ手形ヲ無効ナラシムルモノト解スヘシ〔註一〕

〔註一〕 手形ノ記載ニ依ラスシテ一定ノ事實到來セサルトキハ手形上ノ請求ヲ爲サス且手形ヲ返還スヘキ旨ノ特約ヲ爲ストキハ其特約ハ請求權ノ實行ヲ阻止スルノ效力アルニ止マリ其發生ヲ阻止スル效力ヲ有スルモノニ非ス(大民二二輯一五二〇頁)即チ其特約ハ當事者間ノ人的抗辯ノ事由タルニ止マルヘキナリ

茲ニ問題ト爲ルハ振出人カ手形上ノ責任ヲ負ハサルヘキ旨ノ記載(Ohne Obligo, ohne Gewährleistung, sans Garantie, sans recours, without recourse to me)ナリ獨逸ノ通説ハ此記載ハ手形ノ無効ヲ來スモノトス〔註二〕〔註三〕我商法ノ解釋トシテ余ハ嘗テ此ノ如キ無擔保文句(Angstklause)ニ付テモ第四百三十九條ノ適用アリ從テ其文句ノミノ效力ヲ否認スルコトヲ得ヘシト解シタルコトアリ(拙著私法論文集一卷三六六頁以下同説毛戸博士統一手形法論五九頁水口氏手形法論二八



二頁立法論トシテハ今尙ホ此説ヲ可トスト雖モ無擔保文句ハ明白ニ振出人カ  
手形上ノ債務ヲ負擔スル意思ナキコトヲ表示スルモノニシテ爲替手形ノ本質  
ニ反スル記載ナルカ故ニ手形自體ノ效力ヲ害スルモノト解釋スルヲ正當トス  
ヘシ岡野博士日本手形法七八九頁青木博士手形法論五七四頁

〔註二〕 英米法ハ振出人ノ無擔保文句ノ效力ヲ認メ佛國ニ於テハ資金ヲ供シタル振出人ニ限リ  
其無擔保文句ノ效力ヲ認ム(Polix Meyer I. S. 170 ff., II. S. 103 ff.) 統一法第九條第二項ハ引受ノ擔  
保責任ヲ免ルル文句ハ之ヲ有效トシ支拂ノ擔保責任ヲ免ルル文句ハ記載ナキモノト看做ス  
ヘキモノトセリ(毛戸博士統一手形法論五八頁以下)

〔註三〕 獨逸ニ於テハ振出人ノ無擔保文句ハ爲替手形ヲ無効ナラシムルモノト解スルヲ通説ト  
ズ但少數説ハ英米法ト同シク其文句ノ效力ヲ認メ其手形ニ署名シタル裏書人又ハ引受人ノ  
責任ヲ認ムヘシトス(Thol. S. 631 ff. Ader. V. 20) 蓋無擔保文句アルモ手形ノ形式ニ於テハ缺クル  
所ナキヲ以テナリ

### 第四款 白地手形

白地手形ノ  
意味

(一) 手形ノ要件ハ第二款ニ之ヲ述ヘタリ其要件ノ一ヲ缺クトキハ手形タルノ  
效力ヲ有セス然レトモ手形ノ白地ノ發行ハ外國ニ於テモ又我邦ニ於テモ實際

裏書人ノ白地裏書

ニ慣行セラルル所ニシテ之ヲ稱シテ白地手形 (Wechselblankett, Blankettwechsel,  
Blankowechsel, inchoate instrument) ト謂フ

白地手形トハ後日他人ヲシテ手形ノ要件ノ全部又ハ一部ヲ補充セシムル意  
思ヲ以テ故ラニ之ヲ記載セサル紙片ニ署名シテ之ヲ發行シタルモノヲ謂フ振  
出人カ白地手形ヲ發行スルトキハ之ヲ白地振出ト謂ヒ裏書人カ之ニ署名シタ  
ルトキハ之ヲ白地裏書〔註一〕ト謂ヒ引受人カ之ニ署名シタルトキハ之ヲ白地引  
受ト謂ヒ保證人カ之ニ署名シタルトキハ之ヲ白地保證ト謂フ〔註二〕

〔註一〕 白地裏書ナル語ハ後ニ述フル無記名式ノ裏書ヲ指スコトアリ故ニ混同ヲ避クル爲メニ  
ハ白地裏書ト稱セスシテ裏書人ノ白地署名ト稱スルヲ可トスヘシ

〔註二〕 參加引受人カ白地署名ヲ爲ス場合モ亦稀ニ生シ得ヘシ

白地手形ノ交付ヲ受ケタル者ハ署名者トノ間ノ契約ニ從ヒ手形ノ要件ヲ記  
載シテ之ヲ完全ナル手形ト爲スコトヲ得ヘシ之ヲ稱シテ補充 (Ausfüllung) ト謂  
ヒ其權利ヲ稱シテ補充權 (Ausfüllungsrecht) ト謂フ

(二) 白地手形ハ多數ノ法律ハ明文ヲ以テ之ヲ認ムルコトナキモ〔註一〕學說及ヒ

白地手形ニ  
關スル學說  
立法例

爲替手形 振出

判例ハ概ネ之ヲ認ム(註二)我商法ノ解釋トシテモ亦同シ(註三)

〔註一〕明文ヲ以テ白地手形ヲ認ムルモノハ露一四(英二〇)米(三三)等ナリ。レーズレル氏商法草案第七百八十二條亦之ニ關スル規定ヲ爲セ。Felix Meyer I. 113)

〔註二〕獨伊等ノ學說判例ハ皆白地手形ヲ認ム唯之ニ關スルハ解必スシモ一定セサルナリ。然レトモ佛國ニ於テハ之カ認否ニ付キ學說及ヒ判例一致セサルモノアリ(Tyom-Caen IV. no. 479)

〔註三〕我商法ノ解釋トシテハ學者皆ク白地手形ヲ認ム(西脇法學士手形白地引受論一五頁以下、岡野博士日本手形法一七九頁以下、松波博士日本手形法六二二頁以下、七八六頁以下、青木博士手形法論三五頁以下、水口氏手形法論二八三頁以下、大審院ノ判例亦同シ(大民、一一輯五七頁、一三輯六〇五頁、一八輯四〇六頁、二一輯五〇三頁、二二輯九八三頁)

白地手形ニ關スル獨逸ノ學說及ヒ判例ハ大體ニ於テ三期ノ變遷ヲ遂ケタルモノノ如シ即チ第一期於テハ白地手形ノ效力ヲ否認スル議論アリテ(Beseler, Deutsches Privatrecht § 246)無效有效ノ二說存在セシモ第二期ニ至リテハ有效說ニ一定シ然モ白地手形行爲ハ補充ノ時マテハ成立セサルモノトセリ或ハ單ニ手形豫約アルニ過キストシ(R. O. H. G. 21 S. 324)或ハ白地手形ノ交付ハ手形契約ノ申込ニシテ補充ノ時ニ承諾アリトセルカ如シ(R. G. 2 S. 89)然レトモ此說ニ依レハ補充前ニ署名者カ死亡シ又ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其代理權カ消

白地手形  
成立トシ  
效力ノ發生

滅シタル等ノ場合ニ於テハ手形行爲ハ成立セスシテ終ハルコトアルヘク實際  
上白地手形ノ流通ヲ阻碍スルノ結果ヲ生スヘシ是ニ於テ第三期ニ至リテハ或  
ハ白地手形行爲ハ補充ヲ停止條件トスルモノニシテ補充ニ因リテ其效力カ行  
爲ノ時ニ溯及ストシ(Grünhut I. S. 446)或ハ白地手形ノ債權ハ既ニ成立セルモノ  
ニシテ之ヲ行使スル爲メニ補充ヲ要スルモノトシ(Staub-Stranz § 7 Anm. 11; Fel-  
ix Meyer I. S. 143)其他種種ノ構成ニ依リテ上述セル不都合ナル結果ヲ避ケ白地  
手形ノ流通ヲ確保スルノ說ヲ生シタリ我邦多數學者ノ所說ハ寧ログリユンフ  
ートト同シク補充ニ因リテ手形行爲カ初ヨリ有效ト爲ルモノト觀ルニ在ルカ  
如キモ大審院ノ判例ハ補充ニ因リテ初メテ手形ノ效力ヲ生スルモノト觀ルニ  
在ルカ如シ

(三) 余ノ解スル所ニ依レハ白地手形行爲ハ其行爲ノ時ニ成立ス行爲者ハ手形  
行爲ヲ爲スノ意思ヲ以テ手形ト爲ルヘキ紙片ニ署名シ要件ノ全部又ハ一部ノ  
補充ヲ他人ニ委任セルモノナルヲ以テ行爲者トシテ爲スヘキ所ヲ終了シタル  
モノナリ故ニ行爲者ノ能力、權限等ハ總テ行爲ノ時ニ依リテ之ヲ決定スヘキモ

ノタリ大民、一三輯六〇五頁然レトモ補充アルマテノ間ハ完全ナル手形ヲ生セサルヲ以テ白地手形行爲ノ效力ハ補充ノ時マテハ發生セズ從テ手形債權ハ補充ノ時ニ成立スルモノタリ而シテ補充後ニ於テ手形行爲ノ效力カ行爲ノ時ニ溯及スルコトハ之ヲ認ムヘキノ理由ナク又之ヲ認ムルノ必要ナシ白地手形ヲ以テ手形ト認メ手形法ノ規定ニ依リテ其取得ノ方法喪失ノ場合ニ於ケル無効宣告ノ手續等ヲ律スルハ商慣習法ノ定ムル所ト解シテ可ナリ詳言スレハ白地手形ハ補充ノ時ニ於テ初メテ完全ナル手形ト爲リ手形行爲ノ效力ヲ生スヘシト雖モ商慣習法ハ完全ナル手形ト爲ルヘキ拘束力ヲ有スル白地手形ヲ手形ト認メ之ニ手形ニ關スル規定ノ適用ヲ認メタルモノト謂フヘシ而シテ商慣習法ノ效力ヲ借來ルニ非サレハ此ノ如キ結果ヲ得ルコト到底不能ナリ何トナレハ手形ノ要件ヲ具備セサル紙片ハ論理上ハ手形ニ非サルコト明白ナレハナリ尙ホ白地振出ノ場合ニ於テ振出人ノ責任ハ補充ノ時ニ發生スルモ受取人ハ補充前ニ手形所有權ヲ取得シ又白地裏書ノ場合ニ於テ裏書人ノ責任ハ補充ノ時ニ發生スルモ被裏書人ハ補充前ニ手形所有權ヲ取得スルノ現象ハ手形物權行爲

補充及七補充權

ト手形債權行爲トヲ區別シ債權行爲ハ條件附ニ行ハルルモ物權行爲ハ無條件ニ行ハルト説明スルニ非サレハ其解決ヲ得ヘカラサルナリ

(四) 上述セル如ク白地手形ハ補充ニ因リテ完全ナル手形ト爲ルヘク其補充權ハ白地手形行爲者カ契約ニ因リ其範圍ヲ定メテ之ヲ其相手方ニ與ヘタルモノナリ然レトモ其補充權ハ手形ニ附著シテ轉讓セラレ手形法ノ規定ニ依リ白地手形ヲ取得シタル者カ同時ニ之ヲ取得スルモノト解スヘシ通常學者ノ説明スル所ニ依レハ補充權ハ手形ト共ニ讓渡サル、モノト解セラルルカ如キモ此見解ハ精密ニ非ス何トナレハ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ白地手形ヲ取得スルコトニ因リ原始的ニ手形所有權ヲ取得シタル者ハ亦同時ニ補充權ヲモ取得スヘク其取得ハ讓渡ニ因ルモノニ非サレハナリ而シテ補充權ハ白地手形ヲ變更シテ完全ナル手形ト爲シ白地手形ニ爲サレタル手形行爲ノ效力ヲ發生セシムル所以ノ權利ナルヲ以テ余ハ之ヲ以テ一種ノ形成權(Gestaltungsrecht)ナリトス

補充權ノ範圍ハ契約ニ因リテ定メラルルモノナレトモ補充權ノ濫用アリタ

爲替手形 振出

ル場合ニ於テハ白地手形行爲者ハ善意ノ取得者ニ對シ其濫用ヲ以テ對抗スルコトヲ得ヘカラス必スヤ其補充セラレタル文言ニ從ヒテ手形上ノ責任ヲ負フヘキナリ是レ手形行爲ヲ爲ス意思ヲ以テ白地手形ニ署名シタル當然ノ結果ニシテ蓋已ムヲ得サル所ナリ(大民一八輯四〇六頁)例ヘハ金千圓以内ノ金額ヲ補充スヘキ旨ノ契約ヲ以テ白地約束手形ヲ振出シタル場合ニ於テ受取人カ金一萬圓ノ手形金額ヲ記載シタルトキハ受取人ニ對シテハ其支拂ヲ拒ムコトヲ得ヘシト雖モ善意ノ被裏書人ニ對シテハ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ

參考書——法學協會雜誌三四卷六四〇頁以下及ヒ二〇五七頁以下拙稿京都法學會雜誌二卷九號所載毛戸博士論文西脇法學士手形白地引受論

Gaup-Wagner, Blankowechsel und Blankokzept; Rosendorf, Das Wechselblanket; Latz, Das Blanketokzept; Siegel, Die Blanketterklärung; Vonschott, Beiträge zur Lehre vom Blankokzept; Adler in Z. f. H. R. 60 S. 112 ff.; Oertzen in Arch. f. b. R. 35 S. 136 ff.; Mansfeld in Leipz. Z. 3 S. 177 ff.; Schmidt in Holdheim 2 S. 92; Rocco, L'emissione d'una cambiale in bianco e la sua natura giuridica nella Rivista del

diritto commerciale 1905 I p. 338 e seg.

### 第五款 振出ノ意義及ヒ效力

(一) 爲替手形ノ振出人ハ振出ナル手形行爲ニ因リ受取人其他ノ後者全員ニ對シテ手形ノ支拂アルヘキコトヲ擔保スル手形上ノ責任ヲ負フ蓋振出人ハ受取人其他ノ後者全員ニ對シ支拂人ヲシテ手形金額ヲ支拂ハシムヘキコトヲ約シタル者ナレハナリ故ニ手形金額ノ支拂ナキ場合ニ於テハ振出人ハ償還金額支拂ノ責ニ任スヘキモノタリ

振出人カ支拂擔保義務ヲ負フコトノ結果トシテ法律ハ之ニ負ハシムルニ手形ノ引受ナキ場合ニ於テ擔保ヲ供スルノ義務ヲ以テセリ此引受擔保義務ハ振出ナル手形行爲ノ意思表示上ノ效力トシテ發生スルモノニ非ス寧ロ法律規定上ノ義務ト觀察スルヲ正當トスヘキモ然モ商法ノ所謂手形上ノ權利中ニハ擔保請求權ヲ包含セルモノト解スヘキコト既ニ説述シタル所ナリ(第一章第三節ノ二參照)

振出ノ意義  
及ヒ效力  
振出人ノ債  
務負擔

振出人カ引受擔保及ヒ支拂擔保ノ義務ヲ負フコトハ我商法ハ多數ノ立法例ニ反シ(註一)之ヲ明言セスト雖モ後ニ擧クルカ如キ溯求權ニ關スル諸規定ニ照シテ自明ナル所ナリ而シテ學者或ハ此擔保義務ハ振出人ニ於テ之ヲ負擔スル意思アルト否トヲ問ハスシテ必然發生スト解スルモノ少シトセサレトモ(岡野博士日本手形法一九〇頁 Grünhut II S. 1 ff.) 上述セル如ク支拂擔保義務ハ振出ナル手形行爲ノ意思表示上ノ直接效果トシテ發生スルモノニシテ此擔保義務負擔ノ意思ナキトキハ振出ナル手形行爲ナキモノト解ササルヘカラス?

(註一) 大多數ノ立法例ハ振出人カ引受及ヒ支拂ニ付キ擔保ノ責ニ任スル旨ヲ明言ス(例ヘハ八露九九佛一一八英五五米一一) 統一法(九條一項)モ亦同シ(毛戶博士統一手形法論五八頁以下 Felix Meyer I S. 149)

上掲セルニ義務ノ外振出人ハ手形失效ノ場合ニ於テ利得償還ノ義務ヲ負ヒ又複本發行ノ請求アル場合ニ於テ之ニ應スル義務ヲ負フト雖モ是等ハ法律ノ規定ニ依リテ發生スル義務ニシテ振出ナル意思表示ノ直接效果ニ因ルモノニ非サルナリ

支拂擔保ノ義務ハ振出人ノ意思表示ニ依リテ發生スルモノト解スルモノニシテ此擔保義務負擔ノ意思ナキトキハ振出ナル手形行爲ナキモノト解ササルヘカラス?

引受擔保

(二) 手形所持人ハ何時ニテモ支拂人ニ手形ヲ呈示シテ引受ヲ求ムルコトヲ得ヘク支拂人カ引受ヲ拒絶シ又ハ單純ナラサル引受ヲ爲シタルトキハ法定ノ手續ヲ履ミ振出人ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ(四七四、四七五) 又支拂人カ引受ヲ爲シタル後ト雖モ破産ノ宣告ヲ受ケ自ラ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ法定ノ手續ヲ履ミ振出人ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ(四八〇) 振出人ハ法律上此請求ニ應スヘキ者ナルヲ以テ即チ引受擔保義務ヲ負フモノナリ

(三) 手形所持人カ満期日ノ到來シタル後支拂人ニ手形ヲ呈示シ支拂ヲ求メ其拒絶ニ遭ヒタルトキハ法定ノ手續ヲ履ミ振出人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ(四八六) 振出人ハ法律上此請求ニ應スヘキ者ナルヲ以テ即チ支拂擔保義務ヲ負フモノナリ

(四) 爲替手形ノ振出ハ以上ニ説明シタルカ如キ效力ヲ有スル行爲ナルカ故ニ之ニ定義ヲ下セハ左ノ如クナルヘシ曰ク爲替手形ノ振出トハ受取人其他ノ後者全員ニ對シ手形ノ支拂アルヘキコトヲ擔保シ其支拂ナキ場合ニ於テ償還請

支拂擔保

振出ノ意義

求ニ應スル債務ヲ負擔セムトスル手形行爲ヲ謂フト然レトモ手形ノ振出ナル語ハ必スシモ手形債務負擔ヲ目的トスル行爲ノミヲ指示スルモノトシテ用ヒラルルモノニ非ス從來ノ通説ハ債權的手形行爲ト手形所有權ノ移轉ヲ目的トスル物權行爲トヲ區別セサルモノナルカ故ニ手形ノ交付ヲ目的トスル契約ヲ指シテ手形ノ振出ト稱スルコトアリ(第一章第十節第二款ノ三參照)之ヲ注意スルコトヲ要ス

振出人ノ負擔スル引受擔保及ヒ支拂擔保義務ハ無擔保文句ニ依リテ之ヲ免ルルヲ得サルモノナルコト既ニ説述シタル所ナリ(本節第三款第三項參照)英米法等ニ於テ無擔保文句ノ效力ヲ認メタルハ其無擔保文句ノ記載アル場合ニ於テハ振出人カ手形讓渡ノ物權行爲ヲ爲スニ止マリ債務負擔ノ債權行爲ヲ爲ササルモノト觀察スヘキナリ我商法ハ裏書ニ付テハ此場合アルコトヲ認ムルモ振出ニ付テハ之ヲ認メサルナリ故ニ振出ニ付テハ常ニ債權的手形行爲アルモノト謂フヘシ(次節第一款ノ四以下參照)

### 第二節 裏書

#### 第一款 總論

(一) 手形行爲カ手形法ノ認ムル方法ニ依リテ手形所有權ヲ取得スル者ニ對シ債務ヲ負擔スルコトヲ目的トスル行爲ニシテ手形取得者ノ手形上ノ權利カ常ニ原始的ニ取得セラルルモノナルノ理論ハ既ニ詳述セル所ナリ(第一章第三節ノ三第十節第二款ノ三參照)而シテ手形所有權ノ原始的取得ニ付テハ既ニ説明セル所ニ讓リ(第一章第三節ノ三及ヒ四)又手形ノ償還ノ際ニ生スル移轉及ヒ保證人又ハ參加支拂人ノ取得ハ特殊ノ場合ナルヲ以テ之ヲ後ニ説明スル所ニ讓リ(第六節第一款ノ一第五款ノ一第七節第四款ノ二第八節第三款第三項ノ一)又振出ノ際ニ振出人カ受取人ニ手形ヲ交付スル場合ハ亦當然手形所有權ノ讓渡アルモノトシテ其説明ヲ畧シ茲ニハ受取人以下ノ後者カ更ニ其後者ニ手形所有權ヲ讓渡ス場合ニ付テノミ之ヲ説明スヘシ

有權ノ移轉ヲ目的トスル物權契約ヲ爲シ且手形ヲ引渡スコトヲ要スルハ既ニ說明シタル所ナリ第一章第十節第二款ノ三然レトモ其讓渡ノ要件ハ手形ノ種類如何ニ依リテ必スシモ一樣ナラス

(一) 通常ノ指圖手形即チ記名式又ハ指圖式ニ依リテ振出サレタル手形ハ其讓渡ニ裏書 (Indossament, Giro, endorsement, indorsement, endorsement) ヲ必要トス蓋指圖手形ニ於ケル手形行爲者ハ受取人ノ指圖人(指圖人ノ順次指定シタル指圖人ヲ含ム)ニ對シ手形債務ヲ負擔スヘキ意思ヲ表示シタルモノナレハ受取人其他ノ後者カ更ニ其後者ニ手形ヲ讓渡スニ際シテハ讓受人ヲ指圖人トシテ指定スルコトヲ必要トスヘケレハナリ商法カ指圖手形ヲ裏書ニ依リテ讓渡スコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタルハ其意味ニ外ナラサルナリ(四五五)尙ホ此點ニ付テハ本款ノ五ヲ參考スヘシ

(二) 無記名手形ニ付テハ明文ノ規定ナシト雖モ(註一)單純ナル物權契約ト手形ノ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘキハ當然ナリ手形法カ既ニ無記名手形ヲ認メタル以上ハ其引渡ニ依リテ讓渡スヲ得ヘキコトヲモ認メタ

ルモノト謂フヘク(四四九)引渡ニ依ル讓渡ハ即チ手形法ノ認メタル手形取得方法タリ(註二)

[註一] 英(三一)米(六〇)等ハ明文ヲ以テ引渡 (Delivery)ニ依ル流通ヲ認ム

[註二] 無記名手形ニ裏書ヲ爲スモ之ニ因リテ無記名手形ヲ指圖手形トスル効力ナク從テ引渡ニ依ル讓渡ヲ妨クヘキノ理由ナキハ勿論ナリ唯其裏書人カ裏書人トシテシテ義務ヲ負フヤ否ヤハ疑問ナレトモ商法ハ無記名手形ノ裏書ヲ認メス從テ裏書人カ其責ニ任スルコトナシト解スルヲ正當トスヘシ(四三九英五八米七〇)ハ此點ニ付キ規定ヲ存スルヲ以テ解釋上ノ結果ヲ異ニヤク (Helix Meyer I S. 208 ff.)

- (三) 選擇無記名手形ノ讓渡ニ付テハ無記名手形ニ於ケルト全ク同様ナリ(四九條ノ二)
- (四) 無記名式裏書アル手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得(四五七條二項)然レトモ所持人ハ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ヘシ無記名式裏書ニ付テハ後詳述スヘシ
- (五) 振出人カ裏書ヲ禁止シタル手形ハ指名證券ナルヲ以テ其讓渡ハ手形法ノ認ムル所ニ非サルナリ(前節第三款第一項ノ五參照)

(二) 上述セル所ハ手形所有權ノ手形法上ノ移轉ナリ。是等ノ方法ニ依リ移轉アルトキハ讓受人ハ原始的ニ手形上ノ權利ヲ取得シ從テ手形債務者ハ前者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ヘカラス然レトモ手形所有權又ハ手形上ノ權利ハ手形法ノ認メサル方法ニ依リテ移轉セラルルコトヲ妨ケス例ヘハ手形所有者ニ對シ相續カ開始セラレタルトキハ相續人ハ被相續人ノ有シタル權利ヲ承繼ス〔註一〕〔註二〕手形所有者タル會社カ合併ニ因リテ解散シタル場合亦同シ(八二、一〇五、二二五、二三六)又手形カ競賣ニ依リテ競落セラレ又ハ轉付命令〔註三〕ニ依リテ手形上ノ權利カ轉付セラレタル場合ニ於テモ手形上ノ權利ノ移轉ヲ生スヘシ又裏書禁止ノ手形カ民法ノ規定ニ從ヒ指名債權トシテ讓渡サルルコトヲ得ル旨ハ既述セル所ナリ(前節第三款第一項ノ五)

〔註一〕包括遺贈ノ場合ハ相續ト同視スヘシ(民一〇九二)

〔註二〕相續人ハ相續ニ依リ手形ヲ取得シ從テ相續人トシテ更ニ手形ヲ裏書讓渡スルコトヲ得ヘシ(大民、二一輯八二一頁)

〔註三〕差押債權者カ轉付命令ニ因リ取得シタル手形ニ基キ支拂ヲ請求スルニハ裏書ヲ要スルモノニ非ス(大民、一一輯五九八頁)

手形法ノ認メサル移轉ニ因リテ手形ヲ取得シタル者ハ前主ノ有シタル手形上ノ權利ヲ承繼スルニ過キスシテ原始的ニ獨立ノ手形上ノ權利ヲ取得スルモノニ非サルカ故ニ手形債務者ハ前主ニ對抗スル事ヲ得ヘキ事由ヲ以テ被移轉者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ是レ手形法上ノ移轉ト大ニ其效力ヲ異ニスル所以ナリ

(三) 裏書ハ其目的ニ依リテ之ヲ分類スレハ通常ノ讓渡裏書(eigentliches Indossament, Eigenhumsindossament, endossement translatif de la propriété)ト取立委任裏書トノ二種ト爲ル通常ノ讓渡裏書ハ手形讓渡行爲ノ要件タル裏書ニシテ取立委任裏書ハ手形金額取立委任ノ爲メニスル裏書ナリ以下説述スル所ハ通常ノ讓渡裏書ニシテ取立委任裏書ニ付テハ第六款中ニ別ニ之ヲ説述スヘシ

裏書ハ其方式ニ依リテ之ヲ分類スレハ記名式ノ裏書ト無記名式ノ裏書トノ二種ト爲ル記名式ノ裏書ハ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スル裏書ニシテ無記名式ノ裏書ハ之ヲ記載セスシテ白地ノママ存セル裏書ナリ此二種ノ方式ハ讓渡裏書ニ付テモ亦取立委任裏書ニ付テモ共ニ存在ス其詳細ハ次款ニ説明ス



ヘシ

以上各種ノ裏書ニ通シテ廣ク裏書ト謂フトキハ受取人其他ノ後者カ單ニ他人ニ手形上ノ權利ヲ行使スル資格ヲ與フル爲メニ他人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルカ又ハ之ヲ記載セスシテ自己ノ署名ヲ爲スヲ謂フ讓渡裏書ノ場合ニ於テハ裏書人ハ通常手形所有權ヲ被裏書人ニ讓渡ス行爲ヲ爲スヘク裏書ハ其要件タリト雖モ裏書自體カ其讓渡行爲タルニ非ス(本款ノ五參照)又讓渡裏書ノ場合ニ於テハ裏書人ハ通常手形上ノ債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ其裏書ヲ爲スヘク此場合ニ於テハ裏書ハ之ヲ手形行爲ト目スヘキモ必スシモ常ニ然ルニ非サルナリ(本款ノ四參照)

(四) 上述セル如ク讓渡裏書ノ場合ニ於テハ裏書人ハ通常手形上ノ債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ其裏書ヲ爲スモノニシテ此意味ニ於ケル裏書ハ即チ手形行爲ナリ

手形行爲タル裏書トハ裏書人カ被裏書人其他自己ノ後者全員ニ對シ手形ノ支拂アルヘキコトヲ擔保シ其支拂ナキ場合ニ於テ償還請求ニ應スル債務ヲ負

手形行爲  
ル裏書

擔セムトスル附屬的手形行爲ヲ謂フ(第一章第二節ノ一參照)裏書ハ附屬的手形行爲ナルヲ以テ既存ノ基本手形ヲ條件トス故ニ振出ノ要件ヲ具備セサル手形ニ裏書スルモ裏書ノ效力ヲ生スルコトナシ(註一)又裏書ノ連續ヲ缺キタル後ノ手形モ亦無効ナルヲ以テ之ニ裏書スルモ裏書ノ效力ヲ生スルコトナシ然レトモ既存ノ手形ハ形式上ニ於テ存在スルヲ以テ足ルカ故ニ振出力無効ナルモ又前者ノ裏書カ無効ナルモ苟モ形式上完備シ且形式上裏書ノ連續アル手形ニ裏書シタル者ハ裏書人トシテノ責任ヲ負フヘキナリ(第一章第二節ノ五參照)

(註一) 裏書人ノ白地署名ノ場合ノ例外ニ付テハ前節第四款ヲ參照スヘシ

手形行爲タル裏書ノ效力ハ上述セル如ク裏書人カ擔保義務ヲ負擔スルニ在リ學者之ヲ稱シテ裏書ノ擔保力(Garantieeffekt, Garantiefunktion, Sicherungswirkung, fonction de garantie)ト謂フ而シテ通説ニ依レハ裏書ノ擔保力ハ裏書ニ與ヘタル法律上ノ效力ニシテ當事者ノ意思ニ基クモノニ非ス故ニ法律ハ裏書人ノ意思ニ基キ無擔保裏書四五九及ヒ期限後裏書四六一ノ場合ニハ裏書人ニ擔保義務ナキモノト定ムト云ヘリ然レトモ此說ハ裏書ニ付テ債權的手形行爲ト物權的

手形交付契約トヲ區別セサルノ誤ニ出ツ若シ裏書人ノ手形債務負擔カ其意思ニ基クモノニ非ストスレハ裏書ニ付テハ全然手形行爲ヲ存セサルモノト謂ハサルヘカラス故ニ手形行爲タル裏書ハ即チ手形債務負擔ヲ目的トスル行爲ニシテ(註二)無擔保裏書及ヒ期限後裏書ノ場合ニ於テハ手形所有權移轉ノ爲メニスル物權行爲アルモ手形債務負擔ノ爲メニスル手形行爲ナキモノト觀察スヘシ此場合ニ於ケル裏書ハ物權行爲ノ單純ナル一要件ニシテ被裏書人ニ手形上ノ權利行使ノ資格ヲ與フルモノタルニ過キサルナリ

[註二] アイネルト等ハ裏書ヲ保證ト觀所謂保證說 Verpfändungslehre)テールハ裏書ヲ新手形ノ振出ト解セリ(所謂振出說 Traktantenlehre)此二說ハ固ヨリ裏書ノ複雜ナル法律關係ヲ明ニスルニ足ラサレトモ手形行爲タル裏書ノ説明トシテハ寧ロ當テ得タルニ近キモノナリ

(五) 裏書ハ指圖手形ニ在リテハ其所有權讓渡行爲ノ一要件タリ指圖手形ニ於ケル手形行爲者ハ指圖人ニ對シテ債務ヲ負擔スヘキ意思ヲ表示シタルモノナレハ手形ヲ讓渡ス者ハ必スヤ讓受人ヲ指圖人ニ指定セサルヘカラス少クトモ讓受人カ自己ノ指圖人タラシムルコトヲ得ル手段ヲ提供セサルヘカラス故ニ手形讓渡人ハ裏書人トシテ署名シ同時ニ讓受人ヲ被裏書人トシテ記載スルカ

手形讓渡行爲ノ要件タル裏書

又ハ被裏書人ノ記載ヲ白地ノマ、存シ讓受人若クハ其後者ヲシテ自己ヲ被裏書人タラシムルコトヲ得ルノ機會ヲ與ヘサルヘカラス是レ指圖手形ニ於テ裏書ヲ手形讓渡行爲ノ要件トセル所以カリ

商法第四百五十五條ハ手形ハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ト定ム(註一)通説ハ裏書カ即チ手形ノ讓渡ヲ目的トスル行爲ナリトシ手形ノ移轉ヲ生スル效力ヲ裏書ノ移轉力(Transporteffekt, Transportfunktion, Übertragungswirkung, fonction de transport)ト稱シテ之ヲ裏書ノ必然ノ效力ト爲セリ然レトモ裏書ハ必スシモ常ニ手形ノ讓渡ヲ生スルモノニ非ス所謂隱レタル保證(versteckte, verkleidete, verdeckte Wechselbürgschaft)ノ爲メニスル裏書(註二)ノ場合ニ於テハ手形讓渡ノ觀念ヲ伴フコトナシ例ヘハ甲カ手形ヲ振出スモ直チニ之ヲ債權者タル丙ニ交付セス先乙ヲ受取人トシ裏書ノ署名ヲ爲サシメ後之ヲ丙ニ交付スルトキハ乙ハ裏書人トシテ手形債務ヲ負フヲ以テ即チ甲ノ爲メニ隱レタル保證ヲ爲シタルモノナリ此場合ニ於テハ乙ハ單ニ手形債務負擔ノ意思ヲ以テ裏書ヲ爲スモノニシテ手形ハ甲ヨリ直接ニ丙ニ讓渡サレ甲乙又ハ乙丙間ニハ何等手形ノ移轉ナ

爲替手形 裏書

キナリ故ニ此場合ハ手形行爲タル裏書アルモ手形讓渡ノ物權行爲ナキモノト觀ルニ非サレハ之ヲ解釋スヘカラサルナリ又無記名手形、選擇無記名手形又ハ無記名式裏書アル手形カ裏書ヲ要セスシテ讓渡サルルハ手形所有權ノ移轉カ一般ニ其讓渡ヲ目的トスル物權契約ニ因リテ生スルモノタルコトヲ示ス所以ニシテ指圖手形ニ於テモ亦一種特異ノ裏書ナル行爲ニ因リテ手形カ讓渡サルルモノニ非サルノ理論ヲ間接ニ表明スルモノト謂フヘシ故ニ余ハ裏書ハ手形讓渡行爲ノ一要件ニ過キスシテ裏書ニ因リテ手形カ讓渡サルルニ非ス却テ裏書ヲ要件トスル物權契約ニ因リテ手形カ讓渡サルルモノト解スルナリ〔註三〕

〔註一〕 商法第四百五十五條ニ依リテ手形ヲ讓渡ストアリテ裏書ニ因リテトナキハ裏書カ手形讓渡ノ原因タル法律行爲ニ非スシテ却テ其一要件タルコトヲ示スモノト解スルノ文字上ノ根據タリト謂フヲ得ヘシ

〔註二〕 取立委任ノ目的ヲ以テ讓渡裏書ヲ爲シタル場合ニ於テハ多クハ手形所有權移轉ノ爲メニスル物權行爲ヲ存セス其結果ハ隠レタル保證ノ爲メニスル裏書ノ場合ト同シク裏書ノ手形讓渡ニ伴ハサル一證トスヘシ(本節第六款參照)

〔註三〕 大審院判決ニ「手形ノ裏書讓渡ヲ爲スニハ裏書人カ讓渡ノ意思ヲ以テ裏書記載ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論尙ホ讓渡ノ意思ヲ以テ手形ヲ他人ニ交付スルコトヲ要ス」ト云ヘルハ大民、

裏書禁止手形

一七輯九〇四頁(上述セル趣旨ヲ言明セルモノト解スレハ正當ナル判決ト云フヘシ但裏書記載ヲ爲スニ讓渡ノ意思ヲ以テスヘキモノトセルハ不可ナリ尙ホ大民、九輯七五四頁參照)

(六) 無記名式又ハ選擇無記名式ノ手形以外ノ通常ノ手形ハ指圖證券ニシテ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ルヲ常トス之ヲ手形ノ裏書性(Indossabilität)ト稱シ手形ノ常素タリ然レトモ振出人又ハ裏書人ハ裏書ノ禁止(Indossierungsverbot)ヲ記載スルコトアリ之ヲ裏書禁止文句(Polktaklause)ト謂フ

振出人ノ裏書禁止ノ記載カ手形ノ裏書性ヲ剝奪シテ之ヲ指名證券タル手形タラシムルコトハ既ニ説明シタル所ナリ(前節第三款第一項ノ五)唯之ニ關聯シテ生スル二三ノ問題ニ付キ次ニ叙述スル所アルヘシ

(一) 裏書禁止ハ取立委任裏書ヲモ禁止スルモノナルヤ否ヤニ付テハ多少ノ爭アルモ獨逸學者ノ通説ハ消極說ナリ我商法ノ解釋トシテモ第四百五十五條ハ其文言上振出人カ裏書禁止ノ記載ヲ爲シタルトキハ裏書ニ依リテ手形ヲ讓渡スコトヲ得サル旨ヲ定ムルモノニ過キス故ニ取立委任裏書ハ禁止セラレサルモノト解スヘシ

(二) 裏書禁止手形ニ爲シタル裏書ハ債權讓渡ノ效力ヲ生スルモノトセル立法例(伊、西法等)アリ然レトモ我法律ノ解釋トシテハ指名證券タル手形上ノ權利ノ讓渡ニ付テハ指名債權讓渡ニ關スル民法上ノ手續ヲ履ムヘキコト當然ナリ

(三) 裏書禁止手形ニ爲シタル裏書ハ當事者ノ意思明瞭ナルトキハ取立委任ノ裏書タル效力アリトスルハ獨逸多數學者ノ唱道スル所ナリ(ルノー、クンツ、エ、カンスタイン、グリユンフート、ストンランツ等)取立委任裏書ニハ別ニ形式ヲ要スルヲ以テ當然取立委任裏書タル效力アルコトヲ得サルヘキモ當事者ノ意思カ取立ノ權限ヲ與フルニアルトキハ其意思ニ從フコトヲ得ヘシ

(四) 裏書禁止手形ト雖モ期限後裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘシトスル論者アレトモ(スタウプ、ベルンスタイン、反對グリユンフート)期限後裏書ニ依ル手形ノ讓渡モ亦讓渡ナルヲ以テ反對論ヲ正當トスヘシ

裏書人ノ爲シタル裏書禁止ハ手形ヲ指名證券タラシムル效力ナシ此事ニ付テハ後説明スヘシ(次款第五項第一目ノ三)

### 第二款 裏書ノ方式

#### 第一項 總論

裏書ノ意義ニ關スル參考書——拙著私法論文集二卷四一三頁以下、手形裏書ノ本質ヲ論ス、及ヒ同論文中ニ引用セル著述

(一) 裏書ハ手形、其贖本又ハ補箋ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(四五七)手形ニ裏書ヲ爲スニ當リテハ通常手形ノ裏面ニ之ヲ爲スモノナレトモ法律上ハ之ヲ必要トセス【註一】無記名式ノ裏書ト雖モ亦然リ【註二】

【註一】但(一〇)露一九〇九ハ裏書ハ手形又ハ其贖本ノ裏面ニ爲スコトヲ必要トスレトモ多數法レ之ニ反セリ(毛、博士統一手形法論六三頁 Felix Meyer I. S. 173 ff)

【註二】無記名式裏書ハ多數法ハ手形又ハ其贖本ノ裏面ニ爲スコトヲ必要トス統一法(一一、一六)亦然、然レトモ我商法ハ此主義ヲ採ラサルナリ

手形ノ贖本ニ裏書ヲ爲スヲ許スハ手形ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メニ原本ヲ支拂人ニ送付シタル間ニ於テ贖本ニ依リテ手形ヲ流通セシムル爲メナリ(五二二)(註三)

裏書ノ要件  
ノ記載

〔註三〕 贈本ニ爲ス裏書ハ多數立法例之ヲ認ム白國法ハ獨リ之ヲ認メス  
 補箋(Allonge)ハ手形ニ裏書ノ記載ヲ爲ス餘白ナキニ至リタル場合ニ於テ之ニ  
 補箋ヲ附シテ裏書ノ記載ヲ爲スモノヲ謂フ  
 (二) 裏書ノ要件ハ記名式裏書ト無記名式裏書トニ依リテ異レルモ此點ニ付テ  
 ハ第二項及ヒ第三項ニ之ヲ説明スヘシ而シテ要件ヲ欠缺セル裏書カ裏書タル  
 ノ效力ヲ生セサルハ振出ニ於ケルト同シ後日ニ至リテ其要件ヲ補正スルモ裏  
 書ノ效力ヲ遡及的ニ追完スルコトヲ得ヘカラス(大民二二輯四九六頁)然レトモ  
 假令記載カ事實ト符合セサルモ裏書ノ效力ヲ妨クルコトナキハ振出ニ付テ述  
 ヘタルト同シ記載ノ用語文字及ヒ書式ニ付キ制限ナキノ點ニ付テ亦同シ(第一  
 節第一款ノ二及ヒ四參照)

### 第二項 記名式ノ裏書

記名式ノ裏書 (Vollindossament, special indorsement, indorsement in full) ハ一ニ完全  
 裏書又ハ正式裏書ト稱シ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載セル裏書ヲ謂フ我商

記名式ノ裏  
書

法ハ被裏書人ノ氏名又ハ商號ノ外裏書ノ年月日ノ記載ヲ必要トス其裏書人ノ  
 署名ヲ必要トスルハ勿論ナリ(四五七條一項)

被裏書人ノ氏名又ハ商號カ公簿上ノ氏名又ハ商號タルコトヲ要セサルハ振  
 出ノ場合ニ於ケル受取人ノ記載ト同様ナリ(大民一二輯一二〇三頁)〔註一〕又被裏  
 書人ハ數人アルコトヲ妨ケサルモ亦受取人ニ於ケルト同シ此場合ニ於テハ數  
 人カ共同シテ更ニ裏書ヲ爲スカ又ハ共同ノ所持人トシテ手形上ノ權利ヲ行使  
 スルコトヲ得ヘキナリ

〔註一〕 被裏書人トシテ會社ノ支店又ハ出張所ヲ記載シタルモノハ該支店又ハ出張所ニ於テ商  
 行爲ヲ爲ス所ノ法人ヲ指示シタルニ外ナラサルモノトス(大民七輯四卷五三頁、五卷七七頁、七  
 卷二五頁、九卷一一八頁)

裏書ノ年月日ヲ記載セシムルハ裏書人カ裏書當時ニ於テ能力ヲ有セシヤ否  
 ヤ、裏書人カ支拂停止ヲ爲シタル場合ニ於テ其支拂停止ト裏書ノ先後如何、裏書  
 カ支拂拒絶證書作成期間經過前ニ爲サレシヤ否ヤ等ノ問題ヲ決定スル爲メナ  
 リ〔註二〕然レトモ裏書ノ年月日カ眞實ト符合セサルモ之カ爲メニ裏書ノ效力ヲ  
 妨ケサルハ振出ノ年月日ニ於ケルト同シ(大民一四輯八二六頁)〔註三〕故ニ上述セ

爲替手形 裏書

ル諸問題ヲ決定スルニ當リ眞實ノ裏書ノ年月日カ證明セラレタルトキハ之ニ從フヘク記載上ノ年月日ハ單ニ其日ニ於テ裏書アリタルモノトノ推定ヲ生スルニ過キササルナリ〔註四〕

〔註二〕裏書ノ年月日ヲ要件トスルハ佛蘭、伊、白、西等ノ商法ニシテ他ノ諸國法ハ然ラサルナリ〔毛戸博士統一手形法論六二頁 Felix Meyer T. S. 182 ff.〕

〔註三〕大民、九輯一四四頁ハ之ニ反セリ

〔註四〕大民、二輯一三〇八頁ハ拒絕證書作成期間經過後ノ裏書ナリヤ否ヤハ日附週記ノ場合ニ於テモ仍ホ手形上ノ記載ニ依ルヘキモノトセルモ是レ明白ナル誤謬ナリ〔法學協會雜誌三五卷一三二頁以下拙稿參照〕

裏書ノ年月日カ二月三十日ト云フカ如キ不能ノ日タルヘカラサルハ當然ナリ又振出ノ年月日ニ先ツトキハ其裏書ハ無効ナリト謂ハサルヘカラス〔大民二二輯四九六頁、法學協會雜誌三四卷一六七四頁拙稿〕

### 第三項 無記名式ノ裏書

(一) 無記名式裏書(Blankindossament, endossement en blanc, General indorsement, blank

無記名式ノ裏書

意義及ヒ方

indorsement, indorsement in blank) ハ一ニ白地裏書又ハ畧式裏書〔註一〕ト稱シ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲ス裏書ヲ謂フ〔四五七條二項〕但此以外ニ裏書ノ年月日、指圖文句、原因文句等ヲ記載スルモ無記名式裏書タルコトヲ妨ケス〔註二〕要スルニ被裏書人ノ記載ナケレハ無記名式裏書タルモノト解スヘシ

〔註一〕民事訴訟法第七百七十八條ハ畧式裏書ナル名稱ヲ用フ

〔註二〕大民、九輯一〇七一頁、一六輯九五頁ハ年月日ノ記載アル無記名式裏書ヲ認ム

無記式裏書ニハ裏書人ノ署名ハ之ヲ必要トス然レトモ裏書人ノ捺印ノミヲ爲シ其記名ヲ所持人ニ委託スルトキハ其記名ノ時ニ裏書ノ效力ヲ生スルモノト稱スヘシ〔大民、一五輯二二二頁〕

無記名式裏書ト區別スヘキモノハ所謂持參人拂式ノ裏書 (Inhaberindossament) ナリ持參人拂裏書トハ裏書人ノ署名ノ外所持人ニ支拂フヘキ旨ヲ記載シタル裏書ヲ謂フ此種ノ裏書ハ無記名式裏書ニ非スシテ商法之ヲ認メサルヲ以テ裏書ノ效力ナキモノト解スルヲ正當トス〔註三〕蓋持參人拂裏書ニ於テハ所持人ハ無記名式裏書ニ關スル規定ニ從ヒ自己ヲ被裏書人トシテ補充シ又ハ其補充ヲ

無記名式ノ裏書

爲替手形 裏書

爲サスシテ更ニ裏書ヲ爲スコト不能ナレハナリ

〔註三〕 獨佛ノ通説ハ此種ノ裏書ヲ無効トス(Grühnht II S. 100; Lyon-Caen IV no. 150; 反對説 Stamb-Strauz § 13 Ann. 2; Demselin S. 95 水口氏手形法論四二二頁)統一法第十一條第三項亦同シ(毛戸博士統一手形法論六四頁以下 Felix Meyer I S. 181 ff.)

所持人ノ權

(二) 無記名式裏書アル手形ノ所持人ノ有スル權利左ノ如シ

(一) 自己ヲ其裏書ノ被裏書人ト爲スコトヲ得四六一之ヲ裏書ノ變更(Umwandelung des Indossaments, conversion of blank into special)ト謂フ而シテ此場合ニハ裏書ノ年月日ヲモ記入スルコトヲ得ルモノト解スヘキカ如シ(法律評論二卷二二號所載須賀法學士論文參照)然レトモ年月日ノ記入ナキモ有效ナリ(大民一三輯一〇九六頁)

(二) 自己ヲ被裏書人ト爲スコトナクシテ其手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得(ヘシ此種ノ手形ノ所持人ハ反證ナキ限リハ正當ナル所持人ト推定セラルヘキナリ(大民一八輯四一九頁、二二輯九二八頁、法學協會雜誌三四卷一八九〇頁拙稿)

(三) 引渡ノミニ依リテ手形ヲ讓渡スコトヲ得四五七條二項

(四) 自己ヲ被裏書人ト爲シテ更ニ記名式又ハ無記名式ノ裏書ヲ爲スコトヲ得四六一

(五) 自己ヲ被裏書人ト爲スコトナクシテ更ニ記名式又ハ無記名式ノ裏書ヲ爲スコトヲ得四六四條一項但書

(六) 所持人カ自己ニ代ヘ他人ヲ被裏書人トスルコトヲ得ルヤ否ニ付テハ商法ニ規定ナキ結果消極説ヲ生シ得ヘキモ(拙著私法論文集一卷三七〇頁、松波博士日本手形法六九五頁)既ニ自己ヲ被裏書人トスルコトヲ得ル以上ハ直チニ自己カ手形ヲ讓渡サムトスル相手方ノ氏名又ハ商號ヲ記入スルモ支障ナキモノト解シテ可ナルヘシ是レ無記名式裏書ヲ認ムル諸國法及ヒ統一法ノ等シク之ヲ認ムル所ニシテ我商法獨リ之ニ反スルモノト觀ルヘキ理由ナキナリ

(三) 無記名式裏書アル手形ハ爾後引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘキモノナレハ無記名式手形ト類似ノ作用ヲ呈スルモノナレトモ其間ニ區別ナシ

無記名式手形トノ間ノ區別

トセス即チ左ノ如シ

- (一) 此兩者ハ其形式ニ於テ同一ニ非ス無記名式裏書アル手形ト雖モ本來ハ記名式又ハ指圖式ノ證券ニシテ無記名證券ニ非ス
- (二) 無記名式裏書アル手形ノ所持人カ其權利ヲ行使スルニハ無記名式裏書前ノ裏書ニ付テハ其連續アルコトヲ必要トス
- (三) 無記名式裏書アル手形ノ所持人ハ自己又ハ他人ヲ被裏書人ト爲スコトヲ得
- (四) 無記名式裏書アル手形ノ所持人ハ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得
- (五) 無記名式手形ニ付テハ手形金額ノ制限アルモ(四四九)無記名式裏書ヲ爲スニハ其制限ナシ

(四) 無記名式裏書ヲ認ムル理由ハ以テ手形流通ヲ容易ナラシムルニ在リ即チ其讓渡ニ裏書ヲ必要トセサレハ移轉ノ自由ヲ生ス又無記名式裏書アル手形ノ所持人ハ引渡ニ依リ之ヲ讓渡スコトヲ得ルノ結果裏書人タルノ責任ヲ負擔セサルコトヲ得ルノ利益アリ無擔保裏書(四五九)ハ手形ノ信用ヲ害スル虞アルヲ

以テ裏書人ノ責任ヲ負ハサルコトヲ欲スル者ハ屢前者ヲシテ無記名式裏書ヲ爲サシムルコトアリ又償還義務者ノ員數ヲ増加セサルノ結果償還金額ヲ多大ナラシメサルノ利益アリ又問屋ヲシテ手形ヲ賣却セシムルニ當リ無記名式裏書ヲ爲シテ之ヲ問屋ニ交付スルノ便宜アリ

上述セルカ如キ各種ノ便益アルヲ以テ多少ノ濫用ノ弊アルニ拘ハラズ諸國法概ネ無記名式裏書ヲ認ム唯佛(一三七、一三八)其他ノ數國法ハ之ヲ認メス學說ハ無記名式裏書ハ第三者ニ對シ取立ノ代理權ヲ與フルニ過キササルモノトシ取得者ハ裏書ヲ補充シ完全ナル裏書(endorsement régulier)ト爲シテ後初メテ其權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキモノトセリ(Felix Meyer I. S. 177 ff.)

### 第四項 一部裏書

一部裏書(Teilindossament, endorsement partiel)トハ手形金額ノ一部ニ付キ他人ヲ被裏書人トスル裏書ヲ謂フ一部裏書ト區別スヘキハ數人ヲ共同ノ被裏書人トスル裏書ニシテ其有效ナルコトニ付テハ既ニ述ヘタリ(本款第二項)又手形金額



ノ一部支拂アリタル後殘額ニ付キ裏書ヲ爲スハ一部裏書ニ非ス

一部裏書ハ英(三二)米(六二)露(一七)等ノ諸國法及ヒ統一法(一一條二項)之ヲ無効ト定ム獨佛ニ明文ナキモ無効說ヲ正當トス (Grünhut II S. 158; Felix Meyer I S. 199; Lyon-Caen IV no. 109) 獨逸ニハ有效論者少カラス存在スレトモ(ルノー、クンツ エ、ハルトマン、レーマン、カンスタイン、ブラハマン等)多數學者及ヒ判例(R. G. II S. 148)ハ之ニ反對セリ我商法ノ解釋トシテモ一部裏書ハ之ヲ無効ト解スルヲ正當トス(岡野博士日本手形法二一頁以下)何トナレハ第一ニ裏書ニ依リテ手形ヲ讓渡スニ當リ其一部ヲ分割シテ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘカラス第二ニ手形上ノ權利ヲ行使スルニハ手形ヲ所持スルコトヲ要スルヲ以テ分割シテ手形ヲ讓渡スコトヲ得ヘカラス第三ニ商法ハ明文ヲ以テ一部ノ引受又ハ一部ノ支拂ヲ認ムルモ(四六九、四八四)一部ノ裏書ハ之ヲ認メサレハナリ

### 第五項 要件以外ノ記載

裏書ヲ爲スニ當リ要件以外ノ記載ヲ爲スハ稀有ナラス殊ニ法律カ特定ノ記

要件以外ノ記載

手形上ノ效力ヲ生スル記載事項

載ヲ認メタルモノアリ故ニ要件以外ノ記載ハ之ヲ分チテ次ノ三種トスルコトヲ得ヘシ第一手形上ノ效力ヲ生スル記載事項、第二手形上ノ效力ヲ生セサル記載事項及ヒ第三裏書ノ效力ヲ害スル記載事項即チ是レナリ(前節第三款參照)

### 第一目 手形上ノ效力ヲ生スル記載

#### 事項

手形編ニ規定アル事項ハ之ヲ手形ニ記載スルトキハ手形上ノ效力ヲ生スヘシ(四三九)其事項ヲ擧クレハ左ノ如シ

豫備支拂人

(一) 豫備支拂人 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得(四五八、四八〇、五〇〇、五〇八)前節第三款第一項ノ一參照)

無擔保文句

(二) 無擔保文句 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得(四五九)此記載アル裏書ヲ無擔保裏書 (Indossament ohne Gewährleistung, ohne Obligo, endossement sans garantie, sans recours, qualified indorsement, indorsement without recourse)ト謂フ

公替手形 裏書

無擔保裏書ニ於ケル裏書人ハ擔保義務ヲ負フコトナシ單ニ自己ノ讓受人ニ對スルノミナラス後者全員ニ對シテ其責任ヲ免ル故ニ償還請求ニ付テ責任ナキノミナラス擔保請求ニ付テモ責任ナキノタリ余カ此場合ヲ解シテ手形行爲タル裏書ナキモノト觀察セルコト既ニ屢説明セシ所ナリ(第一款ノ四參照)

無擔保裏書ノ效力ハ其裏書人ニ對シテノミ生スルモノニシテ他ノ裏書人ノ義務ニ影響ヲ及ホスコトナシ是レ手形行爲ノ獨立性ヨリ生スル當然ノ結果タリ故ニ其裏書人ノ前者ハ勿論後者モ亦擔保義務ヲ免ルコトナキナリ

無擔保裏書ハ手形ノ信用ヲ害シ其流通ヲ妨クル虞アルモノナルヲ以テ實際ニハ多ク行ハレスト雖モ之ヲ否認スル理由ナキヲ以テ多數國法之ヲ認ム(註一)唯自己指圖手形ニ於テ振出人ト同一人タル受取人カ無擔保裏書ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ多少ノ疑アレトモ此場合ニ於テハ裏書人トシテノ義務ヲ負ハサルモ振出人トシテノ義務ヲ免レサルモノト解スヘキナリ(R. G. 18 S. 112)

〔註一〕獨(一)四(英六)一(英六)八等多數國法及ヒ統一法(一四條一項但書)ハ明文ヲ以テ之ヲ認ム佛法系ニハ明文ナキヲ常トスルモ學說ハ之ヲ認ム(Lyon-Caen IV no. 133) (毛戸博士統一手形法論七六頁 Felix Meyer I S. 196 ff.)

(三) 裏書ノ禁止 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ(四六〇)此記載アル裏書ヲ裏書禁止裏書(Rektaindosament, restrictive indorsement)ト謂フ

裏書禁止裏書ハ振出人ノ裏書禁止ト異リ手形ノ裏書性ヲ剝奪シ之ヲ指名證券タラシムルノ效力ヲ有セス(前節第三款第一項ノ五、本節第一款ノ六參照)單ニ其記載ヲ爲シタル裏書人ヲシテ被裏書人ノ後者ニ對スル義務ヲ免レシムルニ止マル(註一)而シテ此場合ニ於テモ裏書人ハ被裏書人ニ對シテハ尙ホ責任ヲ負フモノニシテ無擔保裏書トハ異ルモノタリ又被裏書人ノ後者ハ裏書禁止ヲ爲シタル裏書人ニ對シテノミ其權利ヲ有セサルモノニシテ其前者又ハ後者ニ對シテ完全ナル權利ヲ有スルモノタリ

〔註一〕獨(一)五其他ノ獨法系諸國法ノ規定ハ此點ニ於テ我商法ト同シ統一法(一四條二項)亦然リ英(三)五(米六)六(七)ハ之ニ反シ裏書禁止裏書ハ被裏書人ニ裏書人ノ爲メニ取立テ爲ス權限ヲ與フルニ止マル又佛法系國法ハ指圖文句ヲ裏書ノ要件トスルヲ以テ裏書禁止裏書ヲ認メス(毛戸博士統一手形法論七七頁以下 Felix Meyer I S. 192 ff.)

支拂拒絶證  
書作成ノ免  
除

手形上ノ効  
力ヲ生メザ  
ル記載事項

(四) 裏書地 裏書地記載ノ効力ハ畧ホ振出人ノ振出地記載ノ効力ト同シ(四八八條ノ三)而シテ其記載ノ方法ニ制限ナキヲ以テ裏書人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ裏書地ヲ表スルモノト解スヘシ(前節第三款第一項ノ九參照)

(五) 支拂拒絶證書作成ノ免除 此記載ノ効力ハ振出人ノ同事項ノ記載ト同シ(四八九條ノ二、前節第三款第一項ノ十參照)

### 第二目 手形上ノ効力ヲ生セサル記載

#### 事項

手形編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ効力ヲ生セス(四三九)然レトモ裏書人カ此種ノ事項ヲ記載スルコト稀有ナラス例ヘハ原因文句及ヒ指圖文句ノ如シ(前節第三款第二項參照)(註一)

(註一) 佛國法(一三三)ノ原因文句及ヒ指圖文句ヲ裏書ノ要件トシ(佛國法(一三四)ノ原因文句ヲ要件トス(Felix Meyer I. S. 184 ff.))裏書ノ沿革上ノ原因文句ヲ要件トスルノ理由アリタルモノナリ(拙著私法論文集二卷四五頁以下)

裏書ノ効力  
ヲ害スル記  
載事項

### 第三目 裏書ノ効力ヲ害スル記載事項

裏書ノ本質ニ反シ又ハ其要件ヲ破壊スルカ如キ記載ハ裏書ノ効力ヲ害スルモノト謂ハサルヘカラス(前節第三款第三項參照)例ヘハ條件附裏書ハ裏書ヲ無効タラシムルモノト解スルヲ正當トス(松波博士日本手形法六七五頁、毛戸博士統一手形法論六一頁或ハ條件ノ附記ノミカ其効力ヲ有セサルモノト解スル説アリ(拙著私法論文集一卷三七〇頁、青木博士手形法論三七七頁、水口氏手形法論四一三頁以下)英米法及ヒ統一法(註一)ハ條件ノ附記カ裏書ノ効力ヲ害セサル旨ノ規定ヲ爲スモ我商法ノ解釋論トシテ此説ヲ採ルヘカラサルナリ

(註一) 英三三(米六九)ノ條件ハ裏書人ト被裏書人トノ間ニ於テ有効ナルモ支拂人ハ其條件ノ成否ヲ調査スル義務ナキモノトシ統一法(一一條一項)ハ條件ノ附記ハ其記載ナキモノト看做スヘキモノトス(毛戸博士前掲 Felix Meyer I. S. 199 ff.)

### 第三款 裏書ノ効力

爲替手形 裏書

(一) 手形行爲タル裏書ハ被裏書人其他自己ノ後者全員ニ對シテ手形金額ノ支拂アルヘキコトヲ擔保スル行爲ナルヲ以テ手形金額ノ支拂ナキ場合ニ於テハ裏書人ハ償還金額支拂ノ責ニ任スヘキナリ而シテ裏書人カ支拂擔保義務ヲ負フコトノ結果トシテ法律ハ更ニ之ニ負ハシムルニ引受擔保義務ヲ以テセリ(前節第五款ノ一參照)

裏書人カ引受擔保及ヒ支拂擔保ノ義務ヲ負フコトハ我商法ハ之ヲ明言セスト雖モ〔註一〕溯求權ニ關スル規定ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキコト振出人ノ擔保義務ニ於ケルト同様ナリ(前節第五款ノ二及ヒ三參照)

〔註一〕獨(四)黨(八九一八)佛(一一八)英(五五)米(一一六)統一法(一四)等多數法ハ明文ヲ以テ擔保義務ヲ負フ旨ヲ定ム(毛月博士統一手形法論六七頁 Felix Meyer I S. 100 ff.)

裏書人ハ擔保義務ヲ負フモ無擔保文句ノ記載ニ依リテ之ヲ免ルルコトヲ得ヘク又期限後裏書ニ於ケル裏書人ハ擔保義務ヲ負フコトナシ即チ是等ノ特殊ノ場合ニハ手形行爲タル裏書ナキモノニシテ此點ニ付テハ既述セル所ナリ(本節第一款ノ四)

數人ノ受取人又ハ被裏書人カ裏書ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自裏書人トシテ全部ノ責任ヲ負フヘキモ連帶債務者トシテ其責ニ任スルモノニ非サルノ理ハ數人ノ振出人ニ付テ論述シタル所ト同シ(第一節第二款第九項參照)

(二) 裏書ニ依リテ手形ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ手形所有權ヲ取得ス〔註一〕讓受人ハ承繼的ニ手形所有權ヲ取得スルノ結果トシテ原始的ニ手形上ノ權利ヲ取得ス何トナレハ手形行爲者ハ手形法ノ認ムル方法ニ依リテ手形所有權ヲ取得シタル者ニ對シテ債務ヲ負擔スルノ意思表示ヲ爲シタルモノナレハナリ而シテ此點ハ既ニ繰返シ説述シタル所ナリ(本節第一款ノ一及ヒ二參照)故ニ所謂裏書ノ移轉力ハ手形上ノ權利ノ移轉ヲ意味スルニ非スシテ〔註二〕手形所有權ノ移轉ヲ意味スルモノト解スヘキナリ〔註三〕

〔註一〕裏書自體カ手形ノ讓渡ヲ生スルモノニ非スシテ裏書ヲ要件トスル手形讓渡ノ物權行爲カ讓渡ヲ生スルノ理ハ本節第一款ノ五ニ述ヘタル所ナリ

〔註二〕裏書ヲ以テ手形上ノ權利ノ移轉ヲ目的トスル行爲ナリト解スル債權讓渡説其他之ニ對似スル説ノ非ナルコトハ既述セシ所ナリ(前章第十節第一款ノ五第二款ノ二參照)

〔註三〕 Otto Lehmann S. 430 ff.; Randa, Elgenhums' vol. 2. Aufl. S. 312; Glöck, Deutsches Privatrecht II S. 147 ff.

Goldschmidt in Z. f. H. R. 28 S. 82; Carlin ebenda 36 S. 36 ff. 岡野博士日本手形法二〇二頁以下皆此説ヲ採ル之ニ反シ Curschahn S. 386 等カ裏書ノ場合ニ於テ被裏書人カ原始的ニ手形所有權ヲ取得シ從テ原始的ニ手形上ノ權利ヲ取得ストセルハ非ナリ

裏書ハ上述セル如ク手形所有權ノ讓渡ヲ生スルモ手形上ノ權利ノ讓渡ヲ生スルコトナシ其結果トシテ裏書人カ手形上ノ權利ニ附隨シテ有スル質權抵當權保證人ニ對スル權利等ハ裏書ニ依リテ被裏書人ニ移轉スルコトナシ裏書人カ特約ニ基キ有スル違約金其他ノ附屬的權利亦然リ〔註四〕蓋是等ノ權利ハ手形上ノ權利ニ附屬スル從タル權利ナレトモ既ニ主タル權利ノ移轉ナキカ故ニ從タル權利ノ移轉アルコトナキナリ然レトモ特別ノ契約ニ因リ是等ノ權利ヲ讓渡スハ勿論妨クル所ニ非サルナリ

〔註四〕伊(二五六)蘭(三〇一)白(二六)等ノ諸國法ハ擔保權カ裏書ニ依リテ被裏書人ニ移轉スルモノトス是レ佛國學說 Lyon-Caen IV no. 199)ニ從ハタルモノニシテ他ノ諸國法ノ認メサル所ナリ(毛戸博士統一手形法論六六頁, Folx Meyer I S. 198 ff.)

裏書カ手形上ノ權利ノ讓渡ヲ生スルコトナキノ結果トシテ裏書人ハ手形讓渡後ニ於テモ終局的ニ手形上ノ權利ヲ失フコトナク適法ニ償還ヲ爲シテ再ヒ

資格授與力

手形ヲ取得スルニ因リ其權利ヲ回復ス是レ既述セル所ナリ(前章第十節第二款ノ二參照)裏書人ノ有スル擔保權其他ノ權利カ被裏書人ニ移轉セスシテ裏書人ニ留保セラルルノ理ハ之ニ依リテ明白ナルヘキナリ

(三) 裏書ノ移轉力及ヒ擔保力ニ竝ヒテ學者其資格授與力(Legitimationseffekt, Legitimationsfunktion, Legitimationswirkung)ヲ算スルヲ常トス資格授與力トハ被裏書人カ手形上ノ權利ヲ行使スル資格ヲ得ルコトヲ謂フ即チ被裏書人ハ手形上ノ記載ニ於テ自己ニ至ルマテノ裏書カ連續スルコトヲ證明スルニ依リテ手形上ノ權利ヲ行使スルヲ得ヘシ第四百六十四條第一項ハ裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書カ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得スト規定シテ手形上ノ權利ヲ行使スルニ裏書ノ連續ヲ要スルコトヲ定ムルト共ニ其反面ニ於テ手形上ノ記載ニ於テ裏書連續ヲ證明スル者ハ其他ニ何等ノ證明ヲ爲スコトヲ要セスシテ直チニ手形上ノ權利ヲ行使スルヲ得ヘキコトヲ定ム〔註一〕手形債務者ハ真正ノ權利者ニ非サル者ニ對シ權利ノ行使ヲ否認スルコトヲ得ヘキハ勿論ナレトモ苟モ手形上ノ記載ニ於テ裏書カ連續スル以上ハ其所持人カ真正ノ權利

者ニ非ナルコトヲ證明スルニ非サレハ權利ノ行使ヲ拒ムコトヲ得ヘカラス(註二)又善意ニテ其所持人ニ辨濟スルトキハ之ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ヘシ(第五節第四款參照)

〔註一〕統一法(一五條一項)ハ所持人カ裏書連續ニ依リ其權利ヲ證明スルトキハ正當ノ所持人ト看做ス。キ旨ヲ定ム獨(三六)露九〇(二三)匈三六(瑞七五)伊(二八七)等ハ支拂ニ付キ同一趣旨ヲ定ム佛法系國法ニハ明文ナキモ學說之ヲ認ム(Lyon-Caen nos. 293, 297, 298)英五九(二)米(一三二)ノ趣旨亦同シ毛月博士統一手形法論六七頁以下 Field Meyer I S. 208 ff.)

〔註二〕大民、一〇輯一〇八四頁ハ約束手形ノ振出人カ裏書讓渡ノ事實ヲ否認スル以上ハ所持人ニ於テ裏書ノ真正ナルコトヲ證明スルニ非サレハ支拂ヲ求ムルコトヲ得サルモノトセルモ是レ明白ナル誤謬ナリ

(四)裏書ノ連續トハ受取人ヨリ最後ノ被裏書人ニ至ルマテ裏書カ手形上ノ記載ニ於テ間斷ナキヲ謂フ。詳言スレハ受取人カ第一裏書ノ裏書人ト爲リ第一裏書ノ被裏書人カ第二裏書ノ裏書人ト爲リ此ノ如クシテ最後ノ裏書ニ至ルヲ謂フ(註一)裏書ノ年月日ノ記載アル場合ニ於テ其年月日ノ顛倒ハ裏書ノ連續ヲ破壞スルモノナルヤ否ヤノ問題ニ付テハ獨逸ノ通說ハ消極說ナレトモ我商法ハ獨逸法ト異リ年月日ヲ要件トスルヲ以テ此說ニ從フコトヲ得ヘカラス前ノ裏

書ノ年月日ニ先ツ年月日ノ記載アル後ノ裏書ハ裏書ノ連續ヲ斷絶スルモノト解スヘシ(反對水口氏手形法論四七六頁)

〔註一〕手形所持人ノ相續人カ裏書ヲ爲スニ當リ肩書ニ被相續人ノ氏名及ヒ其相續人タルコトヲ示シテ署名シタルトキハ裏書ノ連續ヲ斷絶セサルモノトス(大民、二一輯八二頁 Strub. Straub § 36 Anm. 14; Bornstein S. 179)

裏書ノ連續ハ手形上ノ記載ニ於テ之ヲ謂フモノナルヲ以テ假令實質ニ於テ前ノ裏書ノ被裏書人ト後ノ裏書ノ裏書人トカ同一人ナルモ記載上別名ヲ用フルトキハ裏書ノ連續ヲ斷絶スルモノタリ。但些細ノ點ニ於テ記載ヲ異ニスルモ取引上同一人ノ記載ト觀ルヘキトキ例ヘハ被裏書人トシテハ何會社トアリ裏書人トシテハ何株式會社トアルトキノ如キハ裏書ノ連續ヲ斷絶スルコトナシ又實質ニ於テハ裏書ノ一カ偽造ナルトキ(註二)又ハ無能力者カ裏書ヲ取消シタルトキノ如ク連續ニ斷絶アルモ手形上ノ記載ニ於テ連續アルトキハ所持人ノ權利行使ノ資格ニ影響ヲ及ホスコトナシ是レ學者カ裏書ノ形式上ノ連續(forme-  
lle Zusammenhang des Indossaments)ト稱スル所以ナリ

〔註二〕裏書ノ偽造カ裏書ノ連續ヲ斷絶ヲ生セサルハ大民、一九輯七四三頁之ヲ認ム

裏書ノ連續ハ所持人ノ權利行使ノ要件タリ然ルニ無記名式裏書アル場合ニ於テ次ノ裏書人カ自己ヲ被裏書人ト爲サスシテ更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ形式上裏書ノ連續ヲ斷絶セシムヘシト雖モ法律ハ此場合ニ於テハ無記名式裏書ノ次ノ裏書人ハ無記名式裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタルモノト看做スヘキモノト定ム(四六四條一項但書)

裏書ノ連續ニ關シ其裏書ノ一カ抹消セラレタル場合ニ付テハ法律ハ抹消シタル裏書ハ其記載ナキモノト看做スヘキモノトス(四六四條二項裏書ノ抹消ヲ生スル場合ハ例ヘハ裏書人カ其裏書ヲ取消シタルトキ又ハ支拂拒絕ノ場合ニ於テ所持人ト協議シテ裏書ヲ取消シタルトキ又ハ手形ノ竊取セラレタル場合ニ於テ正當ノ所持人カ之ヲ恢復シタルトキ等ニ生スルモノタリ

裏書ノ連續ハ所持人ノ權利行使ノ要件ナルヲ以テ裏書ニ斷絶アルトキハ斷絶後ノ所持人ハ當ニ斷絶前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ得ヘカラサルノミナラス斷絶後ノ裏書人ニ對シテモ其權利ヲ行使スルコトヲ得ヘカラス(註三)故ニ斷絶後ノ所持人ハ全然手形上ノ權利ヲ取得スルコト

ナキモノタリ

(註三) 斷絶後ノ裏書人ハ其責ヲ免ルルコトヲ得ヌトスル觀アルモ(ルノ)ハルトマンヨリリ等斷絶後ノ裏書人ハ形式上無効ナル手形ニ署名シタル者ナルヲ以テ手形上ノ責ニ任スヘキ理由ナキナリ

(五) 上述セル裏書ノ資格授與力ハ總テノ裏書ニ通シテ存在スル效力ニシテ讓渡裏書ニ付テハ勿論取立委任裏書ニ付テモ裏書ノ連續ナケレハ被裏書人ニ權利行使ノ資格ナキモノタリ

### 第四款 戻裏書

(一) 戻裏書(Rückindossament, endossement au profit de personne dont le nom figure déjà sur la lettre de change, re-indossement)トハ手形上ノ債務者ニ對シテ爲ス裏書ヲ謂フ振出人引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得(四五六)(註二)假シ裏書ヲ以テ手形上ノ債權ノ讓渡ヲ生スルモノト觀察スレハ手形上ノ債務者カ裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタ

爲替手形 裏書

取立委任裏書ニ於ケル裏書ノ連續

戻裏書

概説

ルトキハ其自己ニ對スル權利義務ハ混同ニ因リテ消滅スルモノト解セサルヘ  
カラス(民五二〇)故ニ從來ノ學者ノ戻裏書ヲ説明スル者ハ之ヲ以テ手形流通ヲ  
重スル趣旨ヨリ出テタル一大變例ナリトス然レトモ手形所有權ト手形上ノ權  
利トヲ分析シテ考察スルトキハ戻裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタル債務者カ自  
己又ハ自己ノ債權者ニ對スル手形上ノ權利ヲ取得スルコトヲ認ムヘカラサル  
モ其手形所有權ヲ取得スルコトヲ妨クヘキ理ナク從テ更ニ裏書ニ依リテ其手  
形ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘキハ當然ナリ

〔註一〕戻裏書ハ多數國法之ヲ認ム獨一〇(露八九一七英二七六一)米八〇二〇〇等其例ナリ統一  
法(一〇條三項)亦然リ佛國法ニハ明文ナキモ引受人及ヒ資金ヲ受領シタル支拂人以外ノ者ニ  
對スル戻裏書ハ一般ニ認メラヤ(Lyon-Caen IV nos. 173 et suiv. 毛月博士統一手形法論七四頁以下  
Felix Meyer I S. 305 ff.)

商法第四百五十六條ハ振出人引受人又ハ裏書人ニ對スル戻裏書ヲ認ムルモ  
是レ例示ニ過キス保證人參加引受人ノ如キ手形債務者ニ對スル戻裏書ヲ認メ  
サルノ趣旨ニ非サルハ勿論ナリ(R. O. H. G. 5 S. 126; 10 S. 208)

(二) 振出人カ戻裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタルトキハ自己ノ後者ニ對シテ手

振出人ニ爲  
シタル裏書

形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘカラス何トナレハ後者ハ自己ノ前者ニ對シテ債  
務ヲ負擔スルノ意思ヲ有シタルモノト認ムヘカラサレハナリ又若シ後者カ其  
裏書ニ依ル後者タル振出人ニ對シ債務ヲ負擔スルモノトスレハ更ニ振出人ノ  
資格ニ於ケル同一人ニ對シ債權ヲ行使スルコトヲ得ルノ奇觀ヲ呈スヘシ故ニ  
振出人ハ唯引受人ノミニ對シテ權利ヲ行フコトヲ得ヘキモノト解スヘシ然レ  
トモ振出人ハ更ニ裏書ニ依リテ手形ヲ讓渡スコトヲ得ヘク其後者ハ總テノ前  
者ニ對シテ完全ニ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘキナリ

(三) 引受人ハ手形ノ主タル債務者ナルヲ以テ引受人カ手形ノ所持人タル間ハ  
何人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘカラス然レトモ更ニ裏書ヲ爲  
ストキハ被裏書人ハ完全ナル權利ヲ取得スヘシ而シテ引受人カ滿期日又ハ其  
以後ニ於テ手形ヲ取得シ又ハ引受人カ手形所持人タル間ニ滿期日カ到來スル  
トキハ通説ハ手形上ノ權利ハ混同ニ因リテ消滅スヘキモノトス(岡野博士日本  
手形法二一七頁青木博士手形法論四〇三頁然レトモ滿期日後ト雖モ支拂拒絕  
證書作成期間内ハ裏書ニ依リテ無制限ニ手形ヲ讓渡スコトヲ得ヘキモノナル

引受人ニ爲  
シタル裏書

爲替手形 裏書



ヲ以テ次款參照)余ハ引受人ニ付キ混同ヲ生スルハ支拂拒絶證書作成期間經過ノ時ニ在リ其前ニハ手形ヲ讓渡スコトヲ得ヘキモノト解ス第四百八十五條カ拒絶證書作成期間經過後ニ於テ引受人ノ手形金額ノ供託ヲ認ムルニ依リテ之ヲ觀ルモ余ノ說ノ正當ナルヲ知ルヘシ

裏書人ニ爲シタル裏書

(四) 裏書人カ戻裏書ニ依リテ再ヒ手形ヲ取得シタルトキハ引受人及ヒ振出人其他前裏書ニ於ケル前者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘキモ後者ニ對シテハ權利ヲ行フコトヲ得ヘカラス然レトモ其裏書人カ更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ完全ナル權利ヲ取得スヘシ

參加引受人ニ爲シタル裏書

五 參加引受人カ戻裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタルトキハ被參加人ノ後者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘカラサルモ更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ完全ナル權利ヲ取得スヘシ

保證人ニ爲シタル裏書

(六) 保證人カ戻裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタルトキハ自己ニ對スル主タル債務者ノ後者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘカラサルモ更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ完全ナル權利ヲ取得スヘシ

支拂人ニ爲シタル裏書

(七) 支拂人ハ手形上ノ債務者ニ非サルヲ以テ支拂人カ裏書ニ依リテ手形ヲ取得スルモ眞ノ戻裏書アリタルモノト謂フヘカス支拂人ハ完全ニ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ支拂人カ振出人ニ對シテ有スル關係ハ手形上ノ關係ニ非サルヲ以テ支拂人ノ手形上ノ權利ノ行使ニ妨ナキモノタリ而シテ支拂人カ所持人タル間ニ滿期日カ到來シタルトキハ支拂人ハ自己ニ對シ支拂拒絶證書ヲ作成セシメテ償還請求ヲ爲スコトヲ妨ケサルナリ尙ホ豫備支拂人又ハ支拂擔當者ニ對シテ爲シタル裏書ニ付テハ略ホ上述セル所ニ同シ

### 第五款 期限後裏書

期限後裏書

概説

(一) 我商法ニ於テ期限後裏書(Nachindossament, endossement posterior à l'échéance, indorsing an overdue bill) トシテ特殊ノ地位ヲ與ヘタルモノハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ヲ謂フ(四六二) 此手形ハ滿期日ノ到來ニ因リテ其性質ヲ變更スルコトナキカ故ニ滿期日後ト雖モ裏書ニ依リテ自由ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘク其裏書ハ裏書トシテ通常ノ效力ヲ生ス既ニ支拂拒絶證書ヲ作成シタル

爲替手形 裏書

ト否トヲ問ハサルナリ然レトモ一旦支拂拒絶證書作成期間ヲ經過シタル後ハ其裏書ハ通常ノ裏書タルノ效力ヲ生セサルモノトス蓋手形債務者ハ其期間經過前ニ於テ所持人ニ對シテ支拂アルヘキコトヲ豫期シテ債務負擔ノ行爲ヲ爲シタルモノナレハナリ

〔註一〕期限後裏書ニ關スル諸國法ノ規定ハ甚區區タリ英(三六、九一、九七等)ハ滿期日ノ經過後ノ裏書ニ付テ被裏書人カ裏書人ノ有シタルト同一ノ權利ノミヲ取得スルモノトシ獨(一六、一七、一八等)ハ支拂拒絶證書作成後ノ裏書ニ付テ債權讓渡ト同一ノ效力ヲ認メ作成ナキ場合ノ裏書ハ作成期間經過後ニ在リテモ引受人及ヒ其後ノ裏書人ニ對スル關係ニ於テハ通常ノ裏書ト同様ノ效力ヲ生スルモノトス我商法ト同一主義ヲ採ルモノハ獨(一四)ナリ統一法(一九)ハ畧ホ我商法ト同シキモ支拂拒絶證書作成後ノ裏書ハ作成期間經過後ノ裏書ト同シク債權讓渡ト同一ノ效力ヲ生スルニ過キサルモノトス尙ホ詳細ノ比較研究ニ付テハ毛博士統一手形法論七八頁以下 Folie Meyer I. S. 211 ff. II. S. 123 ff. ナ参照スベシ

期限後裏書ノ效力ハ後ニ説明スル如ク薄弱ナルモノナレトモ是レ亦裏書ナルヲ以テ其形式ニ付テハ總テ通常ノ裏書ト同シ尙ホ期限後裏書タルヤ否ヤハ一應ハ裏書ノ年月日ノ記載ニ依リテ決定スヘキモ反證アルトキハ眞ニ裏書アリタル時ニ依ルヘキコト既述セル所ナリ(第三款第二項註四參照)而シテ其眞ニ

被裏書人ノ權利取得

裏書アリタル時トハ物權的ノ手形讓渡行爲ノアリタル時ヲ指スモノト解スヘシ被裏書人ノ權利取得ハ此時ニ於テ發生スヘキモノナレハナリ  
期限後裏書ニ依リテ手形ヲ讓受ケタル者ハ後ニ説明スル如ク裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得スルモノナルカ無記名手形又ハ無記名式裏書アル手形ノ引渡ニ依ル取得ニ付テハ別ニ規定ナキモ其取得カ支拂拒絶證書作成期間經過後ナルトキハ之ト同様ノ結果ヲ生スルモノト解スヘキナリ

(二) 期限後裏書ニ於テハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス(四六) 二故ニ手形債務者ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ總テノ事由ヲ以テ被裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘク(大民、一輯七二〇頁第四百四十條ノ規定ハ此場合ニ適用ナキモノタリ(大民、一輯六〇七頁)又若シ數個ノ期限後裏書アルトキハ最後ノ被裏書人ハ總テノ期限後裏書ノ裏書人ニ對シテ存在シタル抗辯ヲ以テ對抗セララルヘキモノタリ  
期限後裏書ノ裏書人カ無權利者ナリシ場合ニ於テ被裏書人ハ第四百四十一條ノ規定ニ依リテ權利ヲ取得スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニ付テハ期限後ノ

爲替手形 裏書

裏書モ亦裏書ナルヲ以テ被裏書人ノ權利取得ヲ妨ケストスル説アレトモ(Grün-  
huf, Wechselbegebung nach Verfall S. 10 ff.; Wechselrecht II S. 167; Bernstein S. 28) 岡野  
博士日本手形法二二二頁水口氏手形法論四四三頁法律評論二卷八號七三頁須  
賀法學士論文(何カ故ニ無權利ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルヤヲ解スヘ  
カラサルヲ以テ反對説ヲ正當トスヘシ) (Jacobi in Z. f. H. R. 63 S. 123 法律評論二  
卷一一號一〇一頁乾博士論文法學新報二六卷五號一〇三頁竹田博士論文青木  
博士手形法論四〇九頁松波博士日本手形法七四〇頁大民八輯一一卷九六頁)  
期限後裏書ニ於ケル被裏書人ニ對シ裏書人カ虛偽ノ意思表示ニ因リテ手形  
ヲ取得シタル者ナリトスル抗辯ヲ對抗スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニ付テモ  
民法第九十四條第二項ノ規定ノ適用アリトスル結果消極説ヲ主張スル者アレ  
トモ(大民一三輯八四七頁)既ニ被裏書人カ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス  
ルモノトスレハ此説ヲ採ルヘカラサルヤ明白ナリ(大民一五輯五六〇頁)或ハ請  
求ヲ受ケタル債務者カ虛偽ノ意思表示ヲ爲シタル者ナルトキハ民法第九十四  
條第二項ノ適用アリ然ラサルトキハ其適用ナシト解スル者アレトモ(青木博士

相手がトモに...  
手形法論四一〇頁水口氏手形法論四四三頁此ノ如キ區別ヲ爲スヘキノ理由ヲ  
存セサルナリ

裏書人ノ責

被裏書人ノ  
有スル權利

取立委任裏

手形法論四一〇頁水口氏手形法論四四三頁此ノ如キ區別ヲ爲スヘキノ理由ヲ  
存セサルナリ

(三) 期限後裏書ニ於テハ裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ(四六二條後段)  
是レ流通力ヲ失ヒタル手形ニ付テハ債務負擔ノ手形行爲タル裏書ヲ認メサル  
ノ趣旨ト解スヘキナリ(第一款ノ四參照)

(四) 上掲セル如ク期限後裏書ニ於ケル被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミ  
ヲ取得シ且其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負ハサルモノナルカ故ニ既ニ支拂拒絶  
證書ノ作成アリタル場合ニ於テハ被裏書人ハ期限内 裏書人及ヒ振出人ニ對  
スル償還請求權ヲ有スヘシト雖モ其作成ナカリシ場合ニ於テハ單ニ引受人ニ  
對スル支拂請求權ヲ有スルノミナリ從テ若シ未タ引受アラサリシトキハ何人  
ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ有スルコトナシ又支拂擔當者ノ記載アル手形ニ於  
テハ引受人ニ對スル支拂請求權ヲモ有セサルコトアリ得ヘキナリ(四九〇參照)

第六款 取立委任裏書

爲替手形 裏書

裏書

(一) 取立委任裏書(Prokuraindosament, Vollmachtdosament, endossement de procurator, endossement à titre de procurator, indossement for collection)トハ裏書人ノ爲メニ手形上ノ權利ヲ行使スル權限ヲ被裏書人ニ與フル目的ヲ以テ其旨ヲ記載シテ爲シタル裏書ヲ謂フ〔註一〕

〔註一〕取立委任ノ裏書ハ獨(一七)句(一五)端七三五露二六等ノ諸國法及ヒ統一法(一七)ノ明カニ認ムル所ナリ英(三五)米(六六)六七)モ亦 restrictive indossement ノ一場合トシテ之ヲ認ム佛(一三八)關一三五等ハ要件ヲ具備セサル裏書ヲ取立委任ノ裏書ト認ム而モ取立委任ノ旨ヲ明記シタル裏書ヲ認メサルモノニ非ス(毛)博士統一手形法論八五頁以下Felix Meyer I. S. 193 ff.)

取立委任ノ裏書ニ依リテハ手形ノ讓渡ヲ爲スモノニ非ス故ニ被裏書人ハ獨立シテ手形上ノ權利ヲ取得スルコトナク從テ手形債務者ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ以テ被裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノタリ又取立委任ノ裏書人ハ裏書人トシテノ擔保義務ヲ負擔セムトスル意思ヲ有スルモノニ非サルハ勿論ナルカ故ニ裏書人ノ債務負擔ノ手形行爲ナキモノタリ

(二) 取立委任裏書ノ方式トシテハ記名式裏書ト無記名式裏書トアルコト通常ノ裏書ト同シ唯必ス其目的ヲ附記スルコトヲ要ス(四六)三條一項而シテ其目的

方式

ノ記載ニ付テハ別ニ形式ナケレハ取立委任ノ意味ヲ明カニスヘキ文言(Zum Inkasso, in Procura, valeur en recouvrement, pour encaissement, par procurator, for collection, for the account of——)ヲ記載スルヲ以テ足ル若シ其文言ヲ記載セサルトキハ裏書人ハ善意ノ所持人ニ對シテ通常ノ裏書人トシテノ責任ヲ負擔スルニ至ルヘシ

效力

(三) 取立委任裏書ノ被裏書人ハ裏書人ヲ代理シテ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ル權限ヲ取得ス即チ被裏書人ハ手形上ノ權利ヲ行使スル爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス例ヘハ手形ヲ呈示シテ引受又ハ支拂ヲ求メ拒絶證書ヲ作成セシメ前者ニ對シ擔保又ハ償還請求ノ通知ヲ發シ前者ヨリ擔保又ハ償還ヲ受ケ償還請求ノ爲メニ戻手形ヲ發行シ又ハ手形訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルカ如シ〔註二〕但被裏書人カ是等ノ行爲ヲ爲スニハ勿論裏書人ノ名ヲ以テスヘキモノタリ故ニ被裏書人ニ對スル人的抗辯ハ手形債務者之ヲ主張スルコトヲ得ヘカラサルナリ〔註二〕

〔註一〕獨英米等多數國法ハ詳細ナル規定ヲ以テ被裏書人ノ權限ヲ明示セリ統一法亦所持人カ

爲替手形 裏書

手形ヨリ生スル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキ旨ヲ定ム我商法ニ其規定ナキハ立法上不可ナルモ解釋上ノ結果ハ同シカラサルヘカラス

〔註二〕 統一法(一七條二項)ハ債務者カ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ニ限り之ヲ所持人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノトセリ是レ蓋當然言ヲ俟タサル規定タリ

取立委任裏書ノ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ(四六三條二項)其裏書ハ代理權移轉ノ效果ヲ生スルモノト觀ルヘシ然レトモ取立委任裏書ノ被裏書人ハ通常ノ裏書ニ依リテ手形ヲ讓渡スコトヲ得サルモノタリ(大民、二二輯一六一三頁)〔註三〕若シ取立委任ノ裏書以後ノ裏書人カ取立委任ノ旨ヲ附記セスシテ裏書ヲ爲シタルトキハ其裏書ハ取立委任裏書タルノ效力ヲ有スルモノト解スヘキナリ

〔註三〕 佛國判例ハ取立委任裏書ノ被裏書人カ讓渡裏書ヲ爲スコトヲ認ム蓋之ヲ以テ取立ノ一方法ト觀タルモノナリ (Lyon-Caen IV nos. 138, 139) 是レ佛法系以外ニ存セサル觀念ニシテ英米

法ハ明約アルニ非サレハ被裏書人カ更ニ其權利ヲ讓渡スコトヲ得ザルモノトセリ

取立委任ノ裏書人ト被裏書人ノ間ノ關係ハ一般私法上ノ關係ニシテ當事者間ノ契約ノ定ムル所ニ依ルヘク委任ニ關スル規定カ適用セラルヘキモノタリ

取立委任ノ裏書ハ既述セル如ク手形ノ讓渡ヲ生スルコトナク從テ裏書人ノ手形上ノ權利ニ影響ヲ及ホスモノニ非サルヲ以テ取立ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ何時ニテモ被裏書人ヨリ手形ヲ回收スルコトヲ得ヘキモノタリ(大民、二二輯一六一三頁)法律新聞五二三號二〇頁所載大審院明治四一年七月二一日判決

(四) 取立委任ノ目的ヲ以テ通常ノ讓渡裏書ヲ爲スコトハ實際上頻繁ニ行ハルル所ナリ之ヲ稱シテ隱レタル取立委任裏書 (stilles, verstecktes Prokuraindossament, Inkassoindossament) ト謂フ或ハ之ヲ信託裏書 (fiduziarisches Indossament) ト稱スルトアリ

隱レタル取立委任裏書ハ大審院ハ嘗テ之ヲ以テ虚偽ノ意思表示トシテ無効ナリトセルコトアリ(大民、二二輯一二四八頁)〔註四〕然レトモ隱レタル取立委任裏書ノ場合ニ於テハ裏書ヲ爲シテ意思ナクシテ之ヲ爲スモノニ非サルコトヲ常トスルヲ以テ必ス虚偽ノ意思表示ナリトスルハ誤謬ニシテ且實際ノ事情ニ適合セサルモノタリ〔註五〕是ニ於テカ大審院ハ後其說ヲ改メ之ヲ信託行爲 (fiduziarische Handlung) ト稱ス

risches Geschäft)ノ一場合トシテ其效力ヲ認ムルニ至レリ(大民、一四輯一一五四頁、二〇輯三五一頁)〔註三〕

〔註一〕大民、一輯三一六頁ハ債權取立ノ目的ヲ以テシタル債權讓渡ヲ虚偽表示トシテ無効トセルコトアリ是レ同一思想ニ基ケルモノナリ

〔註二〕裏書人カ眞ニ裏書ノ意思ナクシテ相手方ト通シテ裏書ヲ爲ス場合ナシトセス例ハハ財産隠匿ノ目的ヲ以テ手形ヲ裏書シタルカ如シ此場合ハ即チ虚偽裏書(Scheinhindesament)ニシテ民法第九十四條ノ規定ニ依リテ無効ナリト雖モ取立委任ノ目的ヲ以テスル裏書ヲ之ニ擬スルハ不可ナリ

〔註三〕大審院ノ後ノ判例ハ隠レタル取立委任裏書ノ場合ニ於テハ手形ハ第三者ニ對スル關係ニ於テハ被裏書人ニ移轉セラレルモノトス是レ大審院カ一般ニ信託行爲ニ付テ採用セル權利ノ内外關係ニ於ケル所屬者ヲ區分スル觀念ニ基ケルモノナルヘシト雖モ一個ノ權利カ對内關係ニ於テ甲ニ屬シ對外關係ニ於テ乙ニ屬ストスルカ如キ見解ハ誤謬ナリ拙者私法論文集二卷一頁以下及ヒ二四一頁以下論文參照尙ホ上掲セル判決ニ付テハ京都法學會雜誌一〇卷一二五八頁以下毛戸博士ノ批評ヲ參照スヘシ

隠レタル取立委任裏書ヲ以テ信託行爲ノ一種ニシテ即チ信託裏書ナリトスル說ニ依レハ裏書人ハ裏書ニ依リテ手形ヲ讓渡ス意思ヲ以テ裏書ヲ爲スモノニシテ被裏書人カ其手形所有者タリト雖モ裏書人ト被裏書人トノ間ノ内部關係

係ニ於テハ被裏書人ハ裏書人ノ爲メニ手形金額ヲ取立ツル目的ヲ以テノミ其手形上ノ權利ヲ行使スル義務ヲ負フモノナリ(R. O. H. G. 5 S. 36; 6 S. 54; 10 S. 157; 11 S. 111; Goltsch' imdt in Z. f. H. R. 28 S. 82; Dernburg II S. 264 岡野博士日本手形法二二七頁以下、青木博士手形法論四二五頁以下)此說ニ依レハ被裏書人ハ純然タル手形所有者ナルカ故ニ手形債務者ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ人的抗辯ヲ以テ直チニ被裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカラス又被裏書人破産ノ場合ニ於テハ手形ハ破産財團ニ屬シ裏書人ハ取戻權ヲ行使スルコトヲ得ヘカラサルナリ唯被裏書人ハ裏書人ニ對スル關係ニ於テ其手形ヲ濫用スルコトナクシテ手形金額ヲ取立テ之ヲ裏書人ニ引渡ス義務ヲ負フヘキノミ

上掲セル信託裏書說ハ當事者カ眞ニ手形讓渡ノ意思ヲ有シテ其物權的讓渡行爲ヲ爲シタル場合ノ解釋トシテハ正當ニシテ實際上此ノ如キ場合アルコトヲ否認スヘカラスト雖モ手形所有權ノ讓渡ハ物權的讓渡行爲アリタル場合ノミニ生スヘキモノナルヲ以テ其行爲ナキ場合ニモ尙且信託的讓渡ヲ生スト解スルハ不可ナリ余ノ解スル所ニ依レハ隠レタル取立委任裏書ノ場合ニ於テハ

當事者ハ必スシモ當ニ手形所有權ノ讓渡ヲ爲スモノニ非ス寧ロ其讓渡行爲ヲ爲サスシテ眞ニ裏書ニ依リテ被裏書人ニ手形上ノ權利ヲ行使スル資格ヲ與ヘムト欲シタルニ止マルコト多カルヘシ此場合ニ於テハ被裏書人ハ手形所有權ヲ取得スヘキ理由ナク裏書人カ依然トシテ手形所有者ナルカ故ニ手形債務者ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ人的抗辯ヲ以テ被裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘク又被裏書人破産ノ場合ニ於テハ裏書人ハ取戻權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ隠レタル取立委任裏書ヲ上述セルカ如ク解釋スルハ資格説 (Legitimationsheorie) ト稱セラル見解ニシテ獨逸帝國裁判所之ヲ採用シ (R. G. 4 S. 100; 11 S. 9; 23 S. 125; 32 S. 120; 36 S. 55) 近時ノ學者多ク之ニ從フ (コーザツク、カンスタイン、バルンスタイン、スタウプ等)

以上説述セル所ヲ要スルニ隠レタル取立委任裏書ニ付テハ信託裏書説ト資格説トノ兩説アレトモ其何レカ正當ナルカハ各個ノ場合ノ事實問題ニ屬ス手形讓渡ノ物權行爲アリタルトキハ前説ニ依ルヘク其行爲ナカリシトキハ後説ニ依ルヘシ當事者ノ意思如何ヲ問ハスシテ當ニ其何レカノ一説ヲ採守スルハ

到底認見タルコトヲ免レサルナリ

参考書——De Jonge, Das stille Prokurindossament; Fuss, Die Rechtsnatur des Voll-

giros zu Inkassozwecken; Gunz, Das Vollgiro zu Inkassozwecken; Steinblinck, Das fiduziarische Indossament; Grünhut II § 89; Adler §§ 34, 35; Jacobi, Wertpapier §§ 1, 12.

## 第七款 質入裏書

質入裏書

質入裏書 (Pfandindossament, endossement à titre de gage, endossement pignoratif) トハ手形ニ質權ヲ設定スル目的ヲ以テ其旨ヲ記載シテ爲シタル裏書ヲ謂フ我商法ハ前ニハ之ヲ認めタルモ (改正法前四六三) 多數ノ立法例之ヲ認めサルト (註一) 實際上多ク行ハレサルトノ理由ニ因リ其規定ヲ削除セリ余ハ立法論トシテハ其削除ヲ不可トセルモノタリ (拙著商法改正法評論一七一頁以下)

(註一) 質入裏書ヲ認ムル立法例ハ佛(九一)伊(四五五番)三九九等ニ過キサレモ統一法(一八)ハ之ヲ認め比較的完全ナル規定ヲ置キタリ(毛戸博士統一手形法論八七頁以下)

民法第三百六十六條ノ規定ニ依レハ指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル

爲替手形 裏書

トキハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナレトモ此規定ハ手形ニ適用ナキモノト解セサルヘカラス何トナレハ質入ノ目的ヲ附記シテ裏書ヲ爲スモ其附記ハ手形上ノ效力ヲ生セサルヘキヲ以テナリ(四三九)故ニ手形ヲ擔保ノ目的ニ供セムトセル場合ニ於テハ被裏書人カ裏書人ニ對シテ有スル債權ノ實行ノ爲メニ手形上ノ權利ヲ行使スヘキ約束ヲ附シ通常ノ裏書ニ依リ手形ヲ讓渡スノ外途ナキナリ是レ即チ信託裏書ノ一場合ナリ(前款ノ四參照)

上述セル如ク通常ノ手形ハ質入ノ目的ヲ以テ之ヲ裏書スルコトヲ得ヘカラスト雖モ無記名式手形又ハ選擇無記名式手形ハ引渡ニ依リテ之ヲ讓渡スモ又之ヲ質入スルモ隨意ナルモノト解スヘシ實際上ハ信託的讓渡ノ方法ニ依リテ之ヲ擔保ニ供スル場合多カルヘキモ當事者ノ意思如何ニ因リテハ質入ヲ爲スコトヲ妨ケサルヘシ而シテ質入ノ場合ニ於テハ第四百四十一條ノ規定ハ當然ニハ質取主ニ適用ナキモノナレトモ其類推適用アリト解スルヲ正當トスヘシ(法學協會雜誌三五卷二〇五四頁以下拙稿參照)

### 第三節 引受

#### 第一款 總論

(一) 引受(Annahme, Akzept, acceptation, acceptance)トハ爲替手形ノ支拂人カ手形ノ文言ニ從ヒテ手形金額支拂ノ債務ヲ負擔スルコトヲ目的トシテ爲ス附屬的手形行爲ヲ謂フ

引受ハ手形行爲ナリ故ニ手形ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス所持人カ引受ヲ求メタル場合ニ於テ口頭又ハ手形以外ノ書面ニ依リテ引受ノ意思ヲ表示スルモ引受タル效力ヲ生スルコトナシ此意味ニ於テ引受ト引受ヲ爲スヘキ旨ノ契約トハ之ヲ區別セサルヘカラス引受ヲ爲スヘキ旨ノ契約ハ單ニ引受ヲ爲スヘキ契約上ノ債務ヲ生スルモノニシテ別ニ形式ヲ要セスト雖モ(大民九輯一四八五頁引受ハ常ニ要式ノ手形行爲タリ)

引受ハ附屬的手形行爲ナリ故ニ既存ノ基本手形ヲ要件トス振出ノ要件ヲ具備セサル手形ニ引受ヲ爲スモ引受ノ效力ヲ生スルコトナシ(第一章第二節ノ一



及ヒ五參照(註一)

〔註一〕白地引受ノ場合ノ例外ニ付テハ第一節第四款ヲ參照スヘシ

引受ハ手形行爲トシテ支拂人ノ爲ス單獨行爲ナリ之ヲ以テ引受ヲ求メタル所持人ト支拂人トノ間ノ契約ト視ルハ誤ナリ引受ヲ求メタル所持人カ無能力ナル場合ニ於テモ又ハ所持人ニ非サル者カ引受ヲ求メタル場合ニ於テモ苟モ支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ引受人タル債務ヲ負擔スルモノニシテ所持人ノ引受ヲ求ムル意思ハ引受ノ要件ニ非サルナリ現ニ法律ハ支拂人カ引受ヲ求メタル者ノ意思ニ反シテモ尙ホ一部ノ引受ヲ爲スコトヲ認メタリ(四六九條一項)

引受ハ又之ヲ以テ支拂人カ振出人ノ委託ニ應シテ爲ス行爲ト觀ルハ誤ナリ爲替手形ノ要件タル支拂ノ委託ハ形式上ノ要件タルニ止マリ振出人ニ眞ニ支拂ノ委託ヲ爲ス意思アリタルト否トヲ問ハスシテ引受ハ有效ナリ例ヘハ振出人カ無能力ナルモ又ハ其署名カ偽造ナルモ引受人ハ其引受ニ因リテ引受人タル債務ヲ負擔スルモノタリ

(二) 引受ハ支拂人カ手形ノ文言ニ從ヒテ手形金額支拂ノ債務ヲ負擔スルコトヲ目的トスル行爲ニシテ支拂人ハ引受ニ因リテ爲替手形ノ主タル債務者ト爲リ滿期日ニ於テ其引受ケタル手形金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ(四七〇)當ニ引受當時ノ所持人ニ對スルノミナラス其以外ノ所持人ニ對シテモ尙ホ其義務ヲ負フヘキコト勿論ナリ

引受人ハ主タル債務者トシテ手形金額支拂ノ債務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ其支拂ヲ爲ササリシ爲メ裏書人又ハ振出人カ償還ヲ爲シタルトキハ引受人ハ之ニ對シテ償還金額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フモノタリ而シテ其支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ償還金額ニ關スル第四百九十一條及ヒ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム(四七一)

引受人ハ主タル債務者トシテ絶對的ニ手形金額ノ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノタリ(註二)故ニ所持人カ手形上ノ權利ノ保全行爲ヲ怠リタル場合ニ於テモ引受人ノ債務ハ之ニ因リテ消滅セサルヲ原則トス適法ナル支拂ノ爲メニス

ル呈示及ヒ支拂拒絶證書ノ作成ハ所持人カ其前者ニ對スル償還請求權ノ保全ニ必要ナル條件タルニ止マリ主タル債務者タル引受人ニ對スル權利保全ノ要件ニ非ス故ニ引受人ノ債務ハ時効ニ因ルノ外ハ消滅スルコトナシ唯例外ノ場合トシテ支拂擔當者ノ記載アル手形ニ於テハ其所持人カ支拂擔當者ニ對シテ支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲シ且支拂拒絶證書ヲ作成セシメサリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フモノタリ(四九〇條二項)(註二)

(註一) 引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ義務ヲ負フ(ill acceptant solvent)ハ古來ノ原則ナリ  
(註二) 此例外ニ付テハ第五章第一款ノ二ヲ參照スヘシ

數人ノ支拂人カ引受ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自引受人トシテ全部ノ責任ヲ負フヘキモ連帶債務者トシテ其責ニ任スルモノニ非サルノ理ハ數人ノ振出人ニ付テ論述シタル所ト同シ(第一節第二款第九項參照)故ニ引受人ノ一人ニ對スル支拂呈示ハ他ノ引受人ニ對シテ其效力ヲ生スルコトナキナリ(反對大民、一〇輯一五五七頁)

(三) 引受ハ手形債務ノ負擔ヲ目的トスル債權行爲ニシテ手形所有權ノ讓渡ヲ

不物權行爲ノ  
不存

引受ノ撤回

目的トスル物權行爲ハ引受ノ場合ニハ存在セサルヲ原則トス何トナレハ引受ノ場合ニ於テハ引受ヲ求ムル所持人ハ即チ其手形ノ所有者ナルコトヲ常トスレハナリ故ニ手形行爲ノ效力ノ發生ニ必要ナル債權者方面ノ條件ハ既ニ完全ニ存在セサルモノニシテ手形行爲ノ效力ハ債務者ノ引受行爲ノ成立ニ因リ債務者方面ノ條件カ完了スルト同時ニ發生スヘキモノタリ唯白地引受人カ自己ノ有スル證券ニ自地引受ヲ爲シテ之ヲ振出人若クハ受取人ニ與フル場合又ハ自己宛手形ノ振出人カ支拂人トシテ引受ヲ爲シテ後手形ヲ發行スル場合ニ於テハ例外トシテ手形所有權ノ移轉ヲ目的トスル物權契約ヲ必要トスヘシ  
(四) 引受ノ場合ニ於テハ物權的ノ手形讓渡行爲ヲ要セスシテ手形行爲ノ效力カ發生スルコトヲ原則トスルカ故ニ手形行爲ノ成立ト共ニ其效力カ發生シ復之ヲ撤回スルコトヲ得ヘカラス是レ振出又ハ裏書ノ如ク物權的ノ手形讓渡行爲ノ存在スル場合ト異ル所ナリ然レトモ引受ナル手形行爲ハ署名ノミニ因リテ成立スルコトナク必スヤ其手形ヲ發行スルコトヲ要スヘキヲ以テ一旦引受ノ署名ヲ爲スモ手形ヲ所持人ニ返還スルニ必要ナル行爲ヲ完了スルマテノ間

爲替手形 引受

ハ其署名ヲ抹消シテ引受ヲ撤回スルコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス外國法中ニハ或ハ一旦爲サレタル引受ノ撤回スヘカラス旨ヲ定メテ引受人ノ署名ノ抹消ヲ認メサルモノアレトモ〔註二〕我商法ノ解釋トシテハ此說ニ從フヘキノ根據ナキナリ(反對說青木博士手形法論六〇四頁以下)〔註三〕

〔註一〕獨(二)句(二)端七四〇(蘭)一九等ノ諸國法ハ此主義ヲ採ル獨法ノ所謂引受ノ不可撤回ハ署名ノ抹消ヲ認メサル趣旨ナルヤ否ヤニ付キ多少ノ爭アリトモ通說ハ積極說タリ(Grubhut II S. 34 ff.; Folix Meyer I S. 215)佛(二)六五(露)九五ハ之ニ反シ手形ヲ返還スルマテノ間ハ引受ノ撤回ヲ認メ英(二)一統二法(二)八ハ手形ヲ返還スルカ又ハ所持人ニ引受ノ通知ヲ爲スマテノ間ハ有效ニ引受ヲ撤回スルコトヲ得ヘキモノトス佛米等ニハ明文ナキモ解釋上之ト同シ (Lyons-Caen IV no. 215; Daniels §§ 490, 493) (毛)博士統一手形法論一一三頁以下 Folix Meyer I S. 215 ff.)

### 第二款 引受ノ爲メニスル呈示

(二) 支拂人ハ手形債務者ニ非ス引受ニ因リテ始メテ手形ノ主タル債務者ト爲

引受ノ爲メニスル呈示ノ權能

ルモノナルカ故ニ所持人ハ支拂人ノ引受ヲ求ムル爲メニ手形ヲ呈示スル權能ヲ有スルニ非サレハ其權利ノ確實ヲ保スルコトヲ得ヘカラス故ニ法律ハ所持人カ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノトス(四六五)其引受ヲ求ムル爲メニスル手形ノ呈示ヲ稱シテ引受ノ爲メニスル呈示(Presentation zur Annahme)ト謂フ

引受ノ爲メニスル呈示ヲ爲スコトハ所持人ノ權能ニシテ之ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ヘカラス若シ禁止又ハ制限ヲ目的トスル文言ヲ手形ニ記載スルモ其手形上ノ效力ナキコト明白ナリ(四三九)多數ノ外國法ハ寧ロ引受呈示ノ禁止又ハ制限ヲ認メ之ニ反スル引受呈示ノ場合ニハ引受拒絕ニ基ク溯求權ヲ生セサルモノトスレトモ我商法ハ手形ノ絶對的引受性(unbedingte Akz ptab lit)ヲ認メ其之ニ對スル一切ノ消極的制限ヲ許ササルモノタリ〔註二〕立法論トシテハ振出人カ特定期間ヲ限リテ引受呈示ヲ禁止スルコトハ之ヲ認ムルヲ可トス何トナレハ此制限ヲ認メサルトキハ資金ノ準備未タ成ラサルニ引受ヲ求メ無用ニ引受拒絕ヲ生スルノ不利アルヘケレハナリ然レトモ絶對的ニ引受呈示ヲ禁

止スル手形 (lettre non acceptable) ハ之ヲ認ムヘキノ理由ニ乏シキモノト謂フヘク

〔註一〕 我商法ト同シク手形ノ絶對的引受性ヲ認ムル旨ヲ明言スル立法例ハ獨(一八)匈(一七)瑞(七)三六)スカンザナボア(一七)等ナリ之ニ反シテ多數國法ハ明文ノ規定ヲ置カサルモ引受呈示ノ禁止ヲ認ム(Felix Meyer, I, p. 232 ff.) 統一法(一一)ハ他地拂手形又ハ一覽後定期拂手形ヲ除キ其他ノ手形ニ付テハ引受呈示ノ禁止ヲ認ム(毛月博士統一手形法論一〇四頁以下)

(二) 所持人カ引受ノ爲メニスル呈示ヲ爲スハ其權利ニシテ義務ニ非ス法律カ何時ニテモ手形ヲ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタルハ同時ニ所持人ニ其呈示ヲ爲スト否トノ自由ヲ認ムルコトヲ表明セルモノト謂フヘシ(四六五)故ニ原則トシテハ期間ヲ定メ又ハ之ヲ定メスシテ引受ノ爲メニスル呈示ヲ爲スヘキ旨ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生スルコトナシ(四三九)即チ引受呈示ノ自由ニハ積極的ノ制限ヲモ定ムルコトヲ許ササルナリ然レトモ此原則ニ對シテハ二例外アリ一ハ法律上當然ノ例外ニシテ一覽後定期拂手形ニ關ス之ニ付テハ次ニ別ニ説述スヘシ又他ノ例外ハ當事者ノ意思ニ基クモノニシテ振出人ハ手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシ場合ニ於テ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得ヘク(註二)所持人カ引受拒絶證書

引受呈示ノ義務

ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ(四七二條二項)而シテ振出人カ支拂擔當者ヲ記載スルハ寧ろ稀ナルヲ以テ此規定ニ依リテ通常ハ引受ノ爲メニスル呈示ヲ命令スルコトヲ得ルコトト爲リ上述セル原則ハ實際上ハ此例外ニ依リテ殆ト全ク打破セララルモノト謂フヘシ(註三)

〔註一〕 支拂擔當者ヲ記載セサル振出人カ呈示ノ期間ヲ定メテ引受ノ爲メニスル呈示ヲ命スルコトヲ得ヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ獨法ノ解釋トシテハ積極説ニ對シ疑ヲ挾ム者ナキカ如ク(Grünhut II S. 199; Bernstein S. 153) 我商法ノ解釋トシテモ亦之ニ從ヒテ可ナリ(岡野博士日本手形法二四二頁)

〔註二〕 改正法前ノ商法ニ於テハ第四百七十二條ハ他地拂手形ニ關スル特別規定ニシテ第一項ニハ支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ル場合ニ於テナル文言ヲ冠セルモ改正法ハ支拂擔當者ノ記載ハ他地拂手形ニ限ラサルコトトセル結果上記ノ文言ヲ削除セリ然ルニ同條第二項ノ前項ノ場合ニ於テトアルヲ改正スルコトヲ忘レタル爲メ第二項ノ所謂「前項ノ場合」ハ他地拂手形ノ場合ノ意義ヨリ變シテ支拂擔當者ヲ記載セサリシ場合ト爲レルモノナリ或ハ同條第二項ハ他地拂手形ノミニ關スル特別規定ト解セサルヘカラストスル説アルモ青木博士手形法論六二三頁以下)是レ音ニ法條ノ文言ニ反スルノミナラス此ノ如ク解セサルヘカラストノ理由アルコトナリ

引受呈示ノ自由ハ積極的制限ハ獨(二四)匈(二四)瑞(七四三)等ノ諸國法ハ他地拂手形以外ニ付テハ一切之ヲ認メス蓋手形所持人ノ權利ハ絶對的ニ一方的ナルヘシトノ原則ヲ株守セルモノナリ然レトモ振出人ハ支拂人トノ間ニ於ケル資金關係上引受ノアルヤ否ヤヲ知ルニ付キ重要ナル利害ヲ有スルモノナルヲ以テ振出人ノ爲ス積極的制限ノ效力ヲ認ムルハ少シク所持人ノ自由ヲ拘束スルニ依リテ大ニ振出人ノ利益ヲ保護スルノ利アリ故ニ英(三九)米(二四〇)ノ如ク振出人ニ付テ呈示ノ命令ヲ爲ス權能ヲ認ムルハ立法上賛成シテ可ナリ(註三)然レトモ裏書人ニ付テモ此制限ヲ爲スヲ認ムルハ徒ラニ法律關係ノ錯綜ヲ生スルモノトシテ余ノ同意セサル所ナリ拙著私法論文集一卷三七九頁三八一頁(註四)

〔註三〕 振出人ノ爲ス制限ヲ認ムルコトハ立法上可ナルヲ以テ商法第四百七十二條第二項ノ規定カ改正法ニ依リテ溯ラスモ其範圍ヲ擴張セラレタルハ寧ロ歡迎スヘキナリ(註一參照)但支拂擔當者ヲ記載シタルト否トニ依リ制限ノ許否ヲ區別スルハ多ク理由アルモノト謂フヘカラス

〔註四〕 比較的多數國法ハ振出人ノ外裏書人ノ爲ス制限ヲモ認ム統一法(二一五二)亦然リ(毛戶博)

士統一手形法論一〇一頁以下 Folke Meyer I. S. 333 ff.)

(三) 一覽後定期拂手形ニ在リテハ呈示ノ日以外ニ滿期日ノ起算點ナク呈示ナケレハ手形債務者ハ永久ニ其債務ヲ免ルルコトヲ得サル不便アルカ故ニ商法ハ所持人カ其日附ヨリ一年內ニ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ引受ヲ求ムルコトヲ要スルモノトス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得所持人カ拒絶證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル權利ヲ失フ(四六六)(註一)

〔註一〕 第四百六十六條第二項ハ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ記載セザリシ場合ニ關スルモノニシテ第四百六十七條ト重複スル無用ノ規定ト解スヘシ支拂人カ日附ヲ記載シテ引受ヲ爲シタル場合ニ於テモ仍ホ此規定ノ適用アリト解スル説松波博士日本手形法八〇二頁以下)ハ余之ヲ採ラサルナリ

所持人カ一覽後定期拂手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ手形ニ記載セザリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメザリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ(四六七條一項、二項)拒絶證書ノ作成ハ呈示期間內

ニ於テスルヲ以テ足ルカ故ニ所持人ハ期間内ハ何回ニテモ呈示ヲ爲シテ引受ヲ求メ又既ニ引受アリタルトキハ其日附ノ記載ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ

一覽後定期拂手形ノ呈示ノ日トシテ満期日ノ起算點タルヘキハ支拂人カ日附ヲ記載シテ引受ヲ爲シタルトキハ其日引受ヲ拒絕シタルトキハ引受拒絕證書作成ノ日引受ヲ爲スモ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ其拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ノ日引受ヲ爲スモ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ其拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ呈示期間ノ末日トス(四六七條一項三項)

一覽後定期拂手形ニ付キ法定期間内ニ呈示ヲ必要トスルハ各國法ノ認ムル所ナリ唯其呈示期間ニ付テハ多少ノ差異アリ(註二)又獨佛其他多數國法ハ振出人又ハ裏書人カ法定ノ期間ヲ伸縮スル權利ヲ認ム(註三)振出人ニ伸長權ヲ認ムルハ必要ナル場合アルヘキモ裏書人ニ伸縮權ヲ與フルハ徒ラニ法律關係ノ錯綜ヲ來スモノトシテ余之ヲ採ラサルナリ又呈示ハ單ニ一覽ノ爲メニスル呈示(Präsentation zur Sichtnahme)ヲ以テ足レリトスルヤ將タ引受ノ爲メニスル呈示タルコトヲ要スルヤニ付テハ外國法ノ解釋トシテ爭アレトモ我商法カ引受呈

示ヲ必要トセルモノナルコトハ解釋上疑問ナキ所ナリ(岡野博士日本手形法二三六頁以下)(註四)立法論トシテモ一覽呈示ヲ以テ足ルモノトスレハ支拂人カ日附ヲ溯記スルノ弊ヲ生スヘキカ故ニ之ヲ不可トス

〔註二〕英(四〇)米(二四一)ノ相當期間内(within a reasonable time)ト定ムルモ此主義ハ不確實ニシテ立法上不可ナリ

〔註三〕伊(二六)ハ振出人及ヒ裏書人ニ短縮權ノミナ認ム露一〇一、三七ハ我國ト同シ

〔註四〕獨法ノ解釋トシテハ兩說アレトモ引受ノ爲メニスル呈示タルコトヲ要ストスルヲ通説トス佛國ノ通説ハ之ニ反ス(Tyon-Ouen IV no. 194)尙ホ一覽後定期拂手形ニ關スル立法例ニ付テハ毛戸博士統一手形論九七頁以下 Felix Meyer I. S. 319 ff., 323 ff. ナ参照スヘシ

(四) 引受ノ爲メニスル呈示ヲ爲ス者ハ所持人タリ手形ノ單純ナル占有者ハ引受呈示權ヲ有セス(反對毛戸博士統一手形法論九三頁)(註一)但所持人カ代理人殊ニ執達吏ヲシテ呈示ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキハ勿論ニシテ又所持人ニ非サル者カ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ其引受ノ效力アルヘキコト亦勿論ナリ

〔註一〕獨一八(其他獨法系ノ多數法及ヒ統一法)ハ明文ヲ以テ單純ナル占有者ノ呈示權ヲ認

▲佛法ノ解釋亦同シ(Lyon-Caen IV no. 196)立法上ハ之ヲ可トス

被呈示者カ支拂人タルヘキハ言ヲ待タス支拂擔當者ハ單ニ支拂ノ擔當者タルニ止マリ引受ノ呈示ヲ受クヘキ者ニ非ス

(五) 呈示ヲ爲スヘキ場所ハ支拂人ノ營業所又ハ住所タリ(四四二)故ニ他地拂手形ニ於テモ其支拂地ハ引受ノ爲メニスル呈示地タルコトナク又支拂ノ場所ノ記載アルモ其場所ハ引受ノ爲メニスル呈示ノ場所タルコトナシ

(六) 呈示ヲ爲スヘキ時ニ付テハ制限ナシ法律ハ所持人カ何時ニテモ引受ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノトス(四六三)故ニ手形振出後即時ニ於テモ引受ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(註一)又支拂人カ呈示ヲ受ケテ直チニ引受ノ意思ヲ表示セサルトキハ引受ノ拒絕トシテ法定ノ手續ヲ賤ミテ前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ之ヲ稱シテ即時引受主義(Prinzip des prompten Akzeptes)ト謂フ然レトモ此主義ハ無用ニ引受拒絕ヲ生セシムルモノニシテ立法論トシテハ支拂人ニ一定ノ考量期間(Uberlegungsfrist)ヲ與フルヲ可トス(註二)

(註一) 佛蘭西等ニ於テハ振出人ヨリ支拂人ニ通知ヲ爲スニ必要ナル期間ハ引受呈示ヲ爲ス

コトヲ得サルモノトス(Lyon-Caen IV no. 196; Felix Meyer I S. 337)

(註二) 即時引受主義ハ獨(一八)旬(一七)等ノ採ル所ナルモ他ノ多數國法ハ二十四時間又ハ慣習上ノ考量期間ヲ認ム統一法(二三)亦支拂人カ第一ノ呈示ノ翌日更ニ呈示ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス(毛戶博士統一手形法論九四頁以下)

引受ノ爲メニスル呈示ハ滿期日後ハ之ヲ爲スコトヲ得ストスル說アリ即チ滿期日後ニ於テハ引受ノ請求ハ支拂ノ請求ニ吸收セラルルモノトス(Grünhut II S. 204; Lyon-Caen IV no. 196 岡野博士日本手形法二三五頁青木博士手形法論五九一頁)註三然レトモ支拂拒絕證書作成期間内ハ手形ハ完全ニ流通スヘキモノナレハ引受呈示權ハ其期間内ハ仍ホ存在スルモノト觀ルヘシ(Otto Lehmann S. 456; Staub-Strauz § 18 Anm. 2; Bernstein S. 118; Felix Meyer I S. 230)唯實際上ハ引受拒絕ノ場合ニ於テ擔保請求ヲ爲スカ如キ問題ヲ生セサルヘキノミ而シテ支拂拒絕證書作成期間後ハ引受呈示權ナキモ支拂人カ引受ヲ爲スヲ妨ケス但滿期日後三年以後ノ引受ハ其效力ナカルヘキノミ(四四三參照)註四

(註三) 英四(一)米(二四二)露(九二)旬(一七)等ハ滿期日ニ至ルマテノ間引受ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノト定ム統一法(一〇)亦同シ(毛戶博士統一手形法論九二頁)

[註四] Bernkeim S. 125 ハ時効期間經過後ノ引受ヲ認ムルモ此說ヲ採ルヘキ理由ナシ何トナレハ引受人ノ債務ノ時効ハ引受ノ時期ト關係ナク常ニ滿期日ヲ起算點トシテ進行スヘケレハナリ

引受ノ爲メニスル呈示ハ休日其他取引時間外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤニ付テハ直接規定ナキモ第二百八十三條ノ趣旨ヲ酌シテ之ヲ類推シテ消極說ヲ採ルヲ可トス[註五]

[註五] 第二百八十三條ハ債務ノ履行又ハ履行ノ請求ハ取引時間内ニ於テスヘキモノトスルモ引受ノ請求ハ債務ノ履行又ハ其請求ニ非サルカ故ニ此規定カ直接ニ適用セラレルモノト謂フコトヲ得ヘカラス

引受ノ方式

### 第三款 引受ノ方式

(一) 引受ハ手形ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(四六八)手形ニ引受ヲ爲スニ當リテハ通常其表面ニ之ヲ爲スモノナルモ法律上ハ之ヲ必要トセス單ニ支拂人ノ署名ノミヲ以テ爲シタル引受ニ付テモ亦同シ(本款ノ二參照)

引受ハ手形ニ爲スコトヲ要スルヲ以テ其贖本又ハ補箋ニ爲スコトヲ認メサルモノト謂フヘク支拂人カ贖本又ハ補箋ニ署名スルモ引受人タル責任ヲ負フ

引受ノ記載ノ場所

コトナシ[註一]又手形以外ノ書面ニ引受ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ[註二]

[註一] Grunhut II S. 85, S 211 ff. ハ贖本又ハ補箋ニ爲ス引受ノ效力ヲ認ムルモ通説ニ反ス我商法ノ解釋上其不可ナルハ明白ナリ(四五七四九七五一一五條ノ二乃至五一五條ノ五參照)外國法中ニハ贖本ニ爲ス引受ヲ認ムルモノナシトセス例ヘハ伊(一八二)ノ如シ(毛月博士統一手形法論 一〇七頁 Felix Meyer I S. 209 ff.)

[註二] 佛國ニ於テハ手形以外ノ書面ニ爲シタル引受ノ效力ヲ認メタル學說判例アルモ近時ノ學說ニ之ニ反ス(Tyon-Caen IV nos. 197, 212)米(二二二以下)ハ之ヲ認ム(毛月博士前掲 Felix Meyer a. a. o.)

引受ノ記載ノ方法

(二) 引受ハ手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス之ヲ正式引受トス(四六八條一項)其引受ケタル旨ノ記載ニ付テハ別ニ形式ナキヲ以テ其旨ヲ明ニスヘキ文言例ヘハ引受(angenommen, gut, accepté, bon, accepted, good)ナル文字ヲ記載スルヲ以テ足ル

支拂人カ單ニ手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス之ヲ畧式引受トス(四六八條二項)畧式引受ニ付テハ多數外國法ハ支拂人ノ署名ヲ手形ノ表面ニ在ルコトヲ必要トスレトモ[註一]我商法ノ解釋トシテ之ト同一見解

爲替手形・引受



ヲ探ルハ(岡野博士日本手形法二四五頁)理由ナキモノタリ但支拂人カ裏書人トシテ署名シタルニ過キサルトキハ勿論引受ノ効力ヲ生スルコトナシ

[註一] 岡(二)其他多數獨法系國法及七統一法(二四等)ハ明文ヲ以テ此趣旨ヲ定ム(毛月博士統一手形法論一一頁以下 Felix Meyer a. a. O.)

支拂人ト引受人ノ符合

(三) 引受人トシテ署名スル者ハ支拂人トシテ手形ニ指定セラレタル者タラサルヘカラサルハ當然ナリ支拂人以外ノ者カ引受ノ署名ヲ爲スモ引受ノ効力ヲ生セス而シテ支拂人ト引受人トノ符合ハ手形上ノ記載ニ於テ之ヲ必要トスルヲ以テ假令實質上ニ於テ二者カ同一人ナルモ例ヘハ支拂人ノ氏名又ハ商號カ全然誤記セラレタルトキ又ハ支拂人カ氏名ニテ表示セラレ引受人カ商號ヲ以テ署名セルトキノ如キ形式上ニ於テ其間ニ符合ナキトキハ引受ノ効力ヲ生セサルナリ(岡野博士日本手形法二四六頁)反對説松波博士日本手形法七七頁)水口氏手形法論三七九頁)但些細ノ點ニ於テ記載ヲ異ニスルモ取引上同一人ノ記載ト觀ルヘキトキハ此限ニ在ラサルナリ

(四) 引受人ノ爲シタル要件以外ノ記載ノ効力ニ付テハ法律ハ不單純引受ニ關

要件以外ノ記載

スル特別規定ヲ爲セルヲ以テ(次款參照)裏書人ノ爲シタル要件以外ノ記載ノ場合(前節第二款第五項參照)トハ同シカラス即チ法律カ認メタル特定ノ事項ハ之ヲ記載スルモ引受ヲ不單純ナラシムルコトナク而モ手形上ノ効力ヲ生スヘキモ其他ノ事項ハ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキモノノ記載ハ引受ヲ不單純ナラシムヘク之ニ影響ヲ及ホササルヘキモノノ記載ハ手形上ノ効力ヲ生セサルヘキナリ今法律ノ認メタル事項ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 支拂擔當者ノ記載 振出人カ手形ニ支拂擔當者ヲ記載セザリシトキハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セザリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス(四七二條一項)

(二) 支拂ノ場所 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得(四七三假令振出人カ既ニ支拂ノ場所ヲ記載セルトキト雖モ本條ノ適用アルモノト解スヘク(四七二條一項參照)從テ振出人ノ記載シタル支拂ノ場所ノ變更ヲ認メタルモノト謂フヘシ(反對青木博士手形法論六〇二頁)

(三) 日附 一覽後定期拂手形ニ於テハ支拂人ハ引受ノ日附ヲ手形ニ記載スルコトヲ得ヘク其記載アルトキハ其日附ヲ以テ呈示ノ時トシテ満期日ヲ算定スヘキモノトス(本節第二款ノ三參照)

### 第四款 不單純引受

(一) 手形ノ振出人又ハ裏書人ハ手形ノ文言ニ依リテ權利義務ヲ決定セムト欲セルモノニシテ又所持人ハ手形ノ文言ニ依リテ支拂ヲ受クヘキモノタリ故ニ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキ附記ヲ有スル引受ハ不單純引受(qualifizierte, modifizierte, eingeschränkte Annahme, acceptation conditionnelle, qualified acceptance)トシテ引受タルノ效力ヲ有スヘカラス法律ハ支拂人カ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做スヘキモノトセリ(四六九條二項)故ニ所持人ハ引受拒絕證書ヲ作成セシメテ擔保請求權ヲ行フコトヲ得ヘシ然レトモ不單純引受ヲ爲シタル引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フモノトス(四六九條二項但書)蓋是レ引受人ノ意思ニ反セス又所持人及ヒ其前者ノ利益

不單純引受

ノ效力

### 一部引受

ヲ確保スル所以ナレハナリ(註一)

(註一) 多數諸國法ノ不單純引受ニ關スル規定ハ大體ニ於テ我商法ト同シ統一法(二五條二項)亦然(毛戸博士統一手形法論一一八頁以下)獨リスカンザナギア法(二二)ハ不單純引受ハ單純引受タル效力ヲ有スルモノトス是レ當事者ノ意思ニ反スル所ナリ(Folk Meyer I S. 222 ff.)

(二) 不單純引受ヲ以テ引受ノ拒絕ト看做ス原則ノ例外ハ一部引受(Teilannahme, Teilakzept, acceptation partielle, partial acceptance)ナリ支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得(四六九條一項)故ニ所持人ハ此種ノ引受ヲ無視シ全部ニ付テ引受ノ拒絕アリタルモノトスルコトヲ得テ却テ其引受ナキ金額ニ付テノ擔保請求權ヲ行使スルコトヲ得ルモノタリ(四七四條二項(註一))

(註一) 一部引受ニ關スル規定ニ付テモ多數國法及ヒ統一法(二五條二項)ハ我商法ト同シ唯英(一九四四)米(二二九、二三〇)ハ所持人ニ一部引受ヲ承認スル義務ナキモノトシ若シ之ヲ承認シタルトキハ同意ヲ與ヘサリシ前者ハ責任免ルヘキモノトス(毛戸博士統一手形法論一一七頁以下 Folk Meyer I S. 220 ff.)

(三) 不單純引受ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 條件附引受(bedingte Akzept) 引受人ノ責任ニ條件ヲ附シタル引受ノ效力ニ付テハ獨逸ニ於テハ爭アリ或ハ條件附引受ハ無條件ノモノト看做スヘキ

不單純引受ノ例示

モノトシ (Canstein S. 273) 或ハ條件附引受ハ不單純引受トシテ引受人カ其文言ニ從ヒテ責任ヲ負フトスル者アルモ (Otto Lehmann S. 391; Goldschmidt in Z. f. H. R. 28 S. 95; Felix Meyer I S. 223) 通説ハ條件附引受ハ獨法ノ所謂制限セラレタル引受ニ非スシテ全然無効ナリトス我商法ノ解釋トシテ此通説ニ從フモノアレトモ (岡野博士日本手形法二五八頁、松波博士日本手形法七九六頁) 余ハ其可ナル所以ヲ知ラス條件附引受モ亦不單純引受ナルヲ以テ引受人ハ其文言ニ從ヒテ責任任スヘキナリ (Lyon-Caen IV no. 207 青木博士手形法論六一三頁以下、毛戸博士統一手形法論一一九頁)

- (二) 裏書禁止引受 (Rektakzept) 引受人カ裏書ヲ禁止シタル引受ハ亦不單純引受ナルヲ以テ引受人ハ引受ノ文言ニ從ヒテ責任任スヘキモ手形ハ之ニ因リテ裏書性ヲ失フモノニ非ス故ニ手形カ裏書セラレタルトキハ引受人ハ其裏書人ノ後者ニ對シテ責任任スルコトナク又其裏書人ニ對シテモ其以後ノ裏書ニ因リテ生シタル費用ニ付キ責任任スルコトナシ (R. O. H. G. 14 S. 61)
- (三) 満期日ヲ變更シタル引受 是レ亦不單純引受ニシテ引受人ハ其文言ニ

從ヒテ責任任スヘキモ手形ノ満期日カ變更セラレタルモノト解スヘカラス故ニ所持人カ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲ス爲メニハ當初ノ満期日ヲ標準トシテ支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲スコトヲ要ス又引受人ノ債務ニ關スル時効ノ起算點ニ付テモ引受人カ供託ニ因リテ債務ヲ免ルルニ付テモ當初ノ満期日ヲ標準トスヘキモノタリ (四四三、四八五參照) (註一)

〔註一〕 満期日カ延期セラレタルトキハ其延期セラレタル満期日ニ依リテ時効及ヒ供託ノ期日ヲ定ムヘキモノト解スル説アレトモ (Grunhut II S. 232) 満期日ノ變更ナキモノトスレハ此説ヲ採ルヘキ理由ナシ

- (四) 支拂地ヲ變更シタル引受 是レ亦不單純引受ニシテ前者ニ對スル償還ノ請求ニ付テハ當初ノ支拂地ヲ標準トスヘキモノタリ而シテ支拂地ノ變更ト混同スヘカラサルハ支拂擔當者又ハ支拂場所ノ記載ニシテ其記載ハ法律ノ認ムル所ナルヲ以テ引受ヲ不單純タラシムルコトナシ (前款ノ四參照)
- (五) 手形金額以上ノ引受 引受人カ手形金額以上ノ金額ニ付キ引受ヲ爲シタル場合ニ關シテハ或ハ若シ引受地及ヒ日附ノ記載アルトキハ約束手形ノ

振出アリタルモノト觀ル説アリ(Thol § 81)或ハ不單純引受トシテ引受人カ其金額ニ付キ責ニ任スヘキモノトスル説アレトモ(Grünhut II S. 226. Otto Lehmann S. 452)通説ハ超過額ニ對スル引受ハ其效力ナク通常ノ引受トシテ效力ヲ有スヘキモノトス之ニ從ヒテ可ナルヘシ

### 第四節 擔保ノ請求

#### 第一款 總論

(一) 支拂人カ引受ヲ爲サス又ハ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケテ自ラ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得又擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ更ニ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得(四七四四七六、四八〇)之ヲ稱シテ擔保ノ請求(Regress auf Sicherstellung, Kautionsregress, Sekursitätsregress)ト謂フ

支拂人又ハ引受人カ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得(四八六、四九二)之ヲ稱シテ償還ノ請求(Regress mangels Zahlung)

擔保ノ請求

總論

及ヒ償還請求  
求權

求權ノ性

ng, Zahlungsregress)ト謂フ

擔保請求權及ヒ償還請求權ハ學者之ヲ總稱シテ溯求權(Regressrecht, Rückgriffrecht, droit de recours, right of recourse)ト謂フ

(一) 爲替手形ノ振出人ハ其後者全員ニ對シ支拂人ヲシテ手形金額ヲ支拂ハシムヘキコトヲ約シタルモノニシテ(第一節第五款參照)又裏書人ハ後者全員ニ對シテ手形金額ノ支拂アルヘキコトヲ擔保シタルモノナルカ故ニ(第二節第一款ノ四、第三款ノ一參照)其支拂ナキ場合ニ於テ償還義務ヲ負フハ即チ各自カ爲シタル手形行爲ノ直接ノ效力ニ基クモノタリ而シテ其償還ヲ受クヘキ者ハ即チ手形ノ所持人又ハ手形ト引換ニ償還ヲ爲シタル裏書人ニシテ常ニ手形所有者タリ故ニ償還請求權カ手形上ノ權利タルノ理ヤ明白ナリト謂フヘシ

擔保請求權ハ之ニ反シ嚴正ナル意義ニ於ケル手形上ノ權利ニ非ス(第一章第三節ノ二參照)何トナレハ振出人又ハ裏書人カ其手形行爲ヲ爲スニ當リテハ常ニ擔保供與ノ義務ヲ負フコトヲ欲シタルモノト解スヘカラサレハナリ然レトモ引受拒絕ノ場合ニ於テハ支拂モ拒絕セラルルコトアルヘキ危險ヲ感スヘク

爲替手形 擔保ノ請求

又引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキモ亦十分ノ支拂ヲ受ケ難キコトアルヘキ危険ヲ感スヘキカ故ニ法律ハ特ニ手形ノ所持人又ハ後者ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ニ與フルニ各其前者ニ對シ擔保ヲ請求スルノ權利ヲ以テシタルモノタリ要スルニ擔保請求權ハ償還請求權ヲ確保スル爲メニ法律上認めラレタル從タル權利ト謂フヘキナリ

擔保ハ拒絕證書ト引換ニ供與セラルヘキモノニシテ(四七七、四八〇條二項)其請求權ヲ行使スル者ハ現ニ手形所有者タルコトヲ要セサルナリ之ヲ解シテ手形所有者カ手形讓渡後ニ於テモ手形上ノ權利ノ一部ヲ留保スト觀ルハ不可ナリ又拒絕證書カ手形ヲ代表シ擔保請求權カ拒絕證書ノ所有者ニ屬スト觀ルモ(Affolter in Z. f. H. R. 39 S. 407 ff.)亦不可ナリ擔保請求權ハ手形ヲ讓渡シタル者モ亦其將來再ヒ手形ヲ取得スルコトニ因リテ恢復セラルヘキ償還請求權ヲ擔保スル爲メニ之ヲ有スルコトヲ得ルモノト解スヘキナリ(第一章第十節第二款ノ二)本章第二節第三款ノ二參照(註一)

[註一] Oertzen in Z. f. H. R. 75 S. 97 ハ手形上ノ權利ハ手形ノ讓渡ニ因リテ移轉セラルルコトヲ前

擔保請求權  
ト償還請求權  
トノ關係

溯求權ニ關  
スル立法主  
義

提トシ擔保請求權ハ將來ノ償還請求權ノ擔保ノ爲メニ存スルモノトス是レ其前提ニ於テ誤アルモノト謂フヘシ

(三) 償還請求權ハ主タル權利ニシテ擔保請求權ハ從タル權利ナルヲ以テ償還請求權カ消滅シテ擔保請求權ノミカ存續スルコトヲ認ムヘカラス然レトモ擔保請求權ヲ行使スルト否トハ權利者ノ任意ニシテ其之ヲ行使セサルカ故ニ償還請求權ノ存續又ハ行使ヲ妨クルコトナキナリ又擔保請求權ノ行使ハ當然償還請求權ノ存續ヲ確保スルモノト解スヘカラス償還請求權ヲ行使スルニハ別ニ法定ノ手續ヲ履踐セサルヘカラサルナリ

(四) 上述セル如ク我商法ハ引受拒絕又ハ引受人破産ノ場合ニ於テ擔保請求權ヲ認メ支拂拒絕ノ場合ニ於テ償還請求權ヲ認ムト雖モ此主義ハ必シモ各國法ノ一致シテ採用セル所ニ非ス溯求權ニ關スル立法主義ハ大別シテ四トス我商法ト同シク二權ヲ認ムルハ獨、匈、伊、瑞等ノ諸國法ニシテ英、米、露ノ諸國法ハ之ニ反シ引受拒絕等ノ場合ニ於テモ亦償還請求權ヲ認ム又佛、蘭、白、葡等ノ諸國法ハ擔保ノ請求ヲ受ケタル前者ニ擔保ヲ供スルカ又ハ直チニ償還ヲ爲スカノ選擇

權ヲ認メ西、スカンヂナ、ア、アルヘンチナ等ノ諸國法ハ之ニ反シ所持人ニ擔保ト償還トノ何レカラ請求スルコトヲ得ルノ選擇權ヲ與フ〔註一〕

〔註一〕各國法ノ詳細ニ付テハ Felix Meyer I S. 403 ff. 毛戸博士統一手形法論一五四頁以下ヲ參照スヘシ

溯求權ニ關スル上掲ノ四主義ハ各多少ノ根據ヲ有セリ獨法系ノ二權主義ハ理論ニ適ス何トナレハ手形ノ引受ナキモ未タ以テ其支拂ナキコトヲ保スヘカラサルカ故ニ引受ナキノ理由ニ因リ直チニ償還ヲ請求スルコトヲ得セシムルハ早キニ失シ又前者ニ對シテ過酷ナルヘケレハナリ然レトモ實際上ハ引受ナキ場合ニハ多クハ支拂ナキモノナルヲ以テ直チニ償還ヲ爲サシムルヲ便トスヘク又擔保ヲ請求セラルルト償還ヲ請求セラルルトハ前者ノ痛癢ヲ感スル程度ニ於テモ大差ナカルヘシ故ニ實際ノ便宜上ハ英米ノ一權主義ヲ優レリトス現ニ二權主義國ニ於テモ擔保ノ請求ハ實際ニ行ハレス引受拒絶ノ結果ハ協議上ノ償還ト爲ルコト多シ若シ夫レ選擇主義ニ至リテハ理義一貫セシテ且溯求權行使ノ關係ヲ錯雜ナラシムルノ不利アリ之ヲ採用スヘカラサルナリ是ニ

於テカ獨逸學者中ニモ一權主義ニ賛成スルモノ多ク第十四回法曹會ハ此主義ヲ是認シ(Verhandlungen des 14. deutschen Juristenlages S. 86 ff.; 269 ff.)從來ノ統一案ハ常ニ此主義ヲ採リ(Felix Meyer II S. 276 ff.)統一法第四十二條亦之ニ依レリ余モ立法論トシテハ一權主義ヲ可トス(拙著商法改正法評論一七九頁同說法學新報一九卷六號岡野博士論文毛戸博士統一手形法論一五六頁但一權主義ヲ採ルトキハ同時ニ即時引受主義ヲ捨ツルコトヲ要ス然ラサレハ償還請求ノ濫用ヲ生スヘキナリ

擔保請求及ヒ償還請求ニ關スル參考書—Oertzen in Z. f. H. R. 75 S. 88 ff.

### 第二款 擔保請求ノ當事者

- (一) 擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ第一次ニハ所持人ニシテ(四七四、四八〇條二項)第二次ニハ擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ナリ(四七六、四八〇條二項)擔保ハ後述スル如ク拒絶證書ト引換ニ之ヲ供スヘキモノナルヲ以テ(四七七、四八〇條二項)拒絶證書ヲ作成セシメタル所持人ハ其作成後ニ於テ手形ヲ讓渡スモ

擔保請求ノ當事者

爲替手形 擔保ノ請求

擔保義務者

超躍的請求  
及ト變更權

仍ホ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト解スヘシ〔註一〕

〔註一〕獨法二六二九ハ受取人及ヒ裏書人ハ拒絕證書ノ占有ニ因リテ振出人其他ノ前者ニ擔保ヲ請求スル權利ヲ有スヘキモノト定ムルカ故ニ手形所持人ダラサル者モ仍ホ擔保請求者タルヲ得ヘキコト明白ナリ我商法ノ解釋トシテ亦同様タルヘシ

(二) 擔保ヲ供スル義務ヲ負フ者ハ振出人其他ノ前者及ヒ其保證人ナリ唯無擔保裏書人ハ擔保義務ヲ負フコトナク(四五九)又裏書禁止裏書ヲ爲シタル者ハ自己ノ直接ノ後者以外ノ者ニ對シテハ擔保義務ヲ負ハサルナリ(四六〇)其他取立委任裏書人カ擔保義務ヲ負ハス又實質上ノ關係ニ基キ償還義務ヲ負ハサル者カ擔保義務ヲ負ハサルハ當然ナリ

(三) 擔保請求權者カ擔保義務者ニ對シテ請求ヲ爲スニ當リテハ裏書ノ順序ニ保リ自己ノ直接ノ前者ニ對シテ請求ヲ爲スコト(所謂順序的請求 Ordnungsgress, Reihenrgress, regressus secundum ordinem)ヲ必要トセス裏書ノ順序ニ依ラス任意ニ其請求ヲ爲サムト欲スル前者ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得(四七四、四七六、四八〇條二項)之ヲ稱シテ超躍的請求(Sprungrgress, Wahrgress, regressus per saltu)ト謂フ又擔保義務者ノ一人ニ對シテ請求ヲ爲スモ其後者ニ對スル請求權ヲ行

フコトナク之ニ對シテ更ニ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(四七四、四七六、四八〇條二項)之ヲ稱シテ溯求權者ノ變更權(Variationsrecht, Wandlungsrecht, jus variandi)ト謂フ〔註二〕

〔註二〕獨(二六條二項)ニ明文ヲ以テ超躍的請求及ヒ變更權ヲ認ム我商法ニ明文ナキモ蓋當然ノ理ナリ

擔保請求權者カ擔保義務者ニ對シテ請求ヲ爲スニハ同時ニ義務者ノ全員ニ對シテモ又ハ其一部ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ蓋擔保義務者ハ各自其手形行爲ニ因リテ償還義務ヲ負ヒタル者ニシテ其償還義務ヲ負フノ結果各自獨立シテ擔保義務ヲ負フモノナレハナリ(第六節第一款ノ三參照)唯擔保ノ供與ヲ受クルニハ拒絕證書ト引換ニスルコトヲ要スルカ故ニ二人以上ヨリ同時ニ擔保ヲ受クルコトヲ得サルハ當然ナリ

第三款 擔保請求ノ條件

(一) 引受拒絕ノ場合ニ於テハ支拂拒絕ノ危險アルヲ以テ法律ハ手形所持人ニ

爲替手形 擔保ノ請求

擔保請求ノ  
條件  
引受拒絕ニ  
因ル擔保請  
求ノ條件

擔保請求權ヲ與フ其擔保請求ノ條件左ノ如シ

- (一) 支拂人カ手形金額ノ全部又ハ一部ニ付キ引受ヲ爲ササルコト茲ニ引受ヲ爲サストハ單純ナル引受ヲ爲ササルコトヲ謂フ(四六九條二項)又支拂人ノ所在不明其他ノ原因ニ因リ引受ヲ得ヘカラサル場合ヲモ含ム即チ單純ナル引受ヲ得ヘカラサル總テノ場合ヲ包含スルモノナリ(wegen nicht erhaltener Annahme)故ニ引受拒絶ナル語ハ實ハ狭キニ過ク又一部引受ノ場合ニハ其引受ナキ部分ニ付キ擔保ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(四七四)而シテ支拂人カ引受ヲ爲ササル爲メニハ適法ニ引受ノ爲メニスル呈示ヲ爲スノ必要アルハ勿論ナリ
- (二) 引受拒絶證書ヲ作成セシムルコト 擔保請求ヲ爲ス爲メニハ引受拒絶證書ヲ作成セシムルコトヲ要ス(四七五)我商法ハ支拂拒絶證書作成ノ免除ヲ認ムルモ引受拒絶證書作成ノ免除ヲ認メス(四八九條一項、二項)(註一)故ニ支拂拒絶證書ノ作成免除アルモ引受拒絶證書ノ作成ハ絕對ニ必要ナルモノトス(註一)第六節第二款ノ三ヲ参照スヘシ
- (三) 豫備支拂人アルトキハ引受拒絶證書作成後ニ於テ其參加引受ヲ求メ其

引受カ拒絶セラレタルコト及ヒ其旨ヲ引受拒絶證書ニ記載セシムルコト(五〇〇)

引受人ノ破産ニ因ル擔保請求ノ條件

- (二) 引受人破産ノ場合ニ於テハ支拂ノ不確實ナルコトハ引受ナキト選フ所ナキヲ以テ法律ハ手形所持人ニ擔保請求權ヲ與フ其擔保請求ノ條件左ノ如シ
- (一) 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルコト 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ商法ハ所持人ニ擔保請求權ヲ與フルニ止マル(四八〇條一項)故ニ破産法第九八八條ノ規定ハ自ラ商法ノ規定ニ依リテ一部變更セラレ所持人ハ此場合ニ於テハ償還請求權ヲ有セサルモノト解スヘキナリ(岡野博士日本手形法三一七頁以下、大民、一八輯五三〇頁、反對加藤博士破産法研究一卷二二九頁以下)
- 第四百八十條第一項ハ「引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合」ト曰ヘルヲ以テ引受人カ引受後ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ノ如ク觀ユルモ狭ク此場合ニ限ルモノト解スルハ(岡野博士日本手形法三一八頁、三二二頁)理由ニ乏シ支拂人カ引受ヲ爲スニ先チテ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テモ先ツ支拂



人ノ引受ヲ求メ若シ引受ノ拒絶アラハ引受拒絶ニ因ル擔保請求ヲ爲スコトヲ得ヘク若シ引受ヲ得タルトキハ直チニ引受人ノ破産ニ因ル擔保請求ヲ爲シテ可ナリ(Grünhut II S. 386; Bernstein S. 165)唯支拂人カ手形振出前ニ於テ既ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ナリシ場合ニ付テハ引受人ノ破産ニ因ル擔保請求ヲ許スヤ否ヤニ付キ争ナシトセス(積極說 Grünhut a. a. O.; Rehbein § 29 Anm. 1; Canstein § 19 Aum. 3a; Otto Lehmann S. 430 消極說 Staub-Sranz § 29 Anm. 2; Bernstein a. a. O.; Felix Meyer I S. 472)余ハ少クトモ我商法ノ解釋トシテ振出ノ前後ニ依リテ區別ヲ爲スヘキノ根據ヲ知ラサルナリ

引受人ハ破産ノ宣告ヲ受ケサルヘカラス故ニ支拂停止其他破産ノ原因存在スルモ破産ノ宣告ヲ受ケサル限りハ擔保請求權ヲ生セサルナリ(註一)

〔註一〕獨(一九)其他獨法系ノ諸國法ハ多ク引受人ノ破産宣告ノ外支拂停止又ハ引受人ニ對スル強制執行カ不結果ニ終リタル場合ナモ擧クレトモ(統一法四二亦同シ)我商法ハ此點ニ於テハ佛(一六三)其他佛法系國法ニ徴ヒタルモノナリ(毛戶博士統一手形法論一五六頁以下 Felix Moyer I S. 471 ff.)

引受人カ數人アル場合ニ於テハ其共同引受人ノ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタ

ルコトハ擔保請求ノ條件タルコトヲ得ルモノト解スヘシ

(二) 引受人カ相當ノ擔保ヲ供セサルコト(四八〇條一項) 引受人破産後ハ破産財團ニ屬スル財産ノ管理又ハ處分ノ權利ナキヲ以テ(破九八五)擔保ハ引受人カ破産財團外ノ財産ヨリ之ヲ供セサルヘカラス從テ其擔保ノ供與ハ實際上ハ行ハルルコト稀有ナルヘシ

(三) 引受人カ擔保ヲ供セサル旨ノ拒絶證書(Protest mangels Sicherstellung)ヲ作成セシムルコト(四八〇條一項但書)

(四) 豫備支拂人アルトキハ之ニ對シテ其參加引受ヲ求メ其單純ナル引受カ爲サレサルコト及ヒ其旨ノ拒絶證書ヲ作成セシムルコト(四八〇條二項)

(三) 擔保請求ヲ受ケタル前者カ更ニ自己ノ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲ス條件ハ後者ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタルコトニ在リ(四七六、四八〇條二項)而シテ此場合ニ於テモ前者カ擔保ヲ供スルハ拒絶證書ト引換ニスヘキモノナルヲ以テ(四七七、四八〇條二項)擔保請求者ハ多クノ場合ニ於テ先ツ自己ノ後者ニ對シ擔保ヲ供スルコトニ因リテ拒絶證書ヲ取得スルノ必要アルヘキナリ

擔保ノ設定

設定ノ體様

被擔保金額

擔保ノ種類

### 第四款 擔保ノ設定

- (一) 擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク引受拒絶證書又ハ引受人カ擔保ヲ供セサル旨ノ拒絶證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(四七七、四八〇條二項)
- (二) 擔保セラルヘキ金額ハ所持人カ擔保ヲ請求スル場合ニ於テハ手形金額及ヒ拒絶證書ノ作成其他ノ費用トス但一部ノ引受アリタルトキハ其殘額及ヒ費用トス又裏書人カ擔保ヲ請求スル場合ニ於テハ其擔保スヘキ金額及ヒ費用トス(四七四、四七六、四八〇條二項)
- (三) 擔保ハ相當ノ擔保ナルトキハ質權、抵當權ノ如キ物上擔保タルト保證ノ如キ對人擔保タルトヲ問ハス(保證ノ場合ニ付テハ民四五〇參照)但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得ヘシ(四七七、四八〇條二項)而シテ相當ノ擔保又ハ相當ノ金額ニ付キ爭アルトキハ裁判所之ヲ決定スヘキハ勿論ナリ

擔保ノ效力

後者ノ爲メニ生スル效力

後者ニ對シテ生スル效力

### 第五款 擔保ノ效力

- (一) 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス(四七八、四八〇條二項)故ニ後者ノ擔保義務ハ前者ノ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ因リテ消滅スヘク爾後後者ハ擔保ノ請求ニ應スルコトヲ要セス又既ニ供シタル擔保又ハ供託シタル金額アルトキハ其取戻ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノタリ(反對松波博士日本手形法八二二頁以下、青木博士手形法論六五五頁)
- (二) 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス(四七八、四八〇條二項)故ニ後者全員ハ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シタル者ナルト否トヲ問ハス其擔保又ハ供託金ニ對シテ直接ニ權利ヲ有ス從テ擔保ノ請求ヲ爲シタル者ハ擅ニ其擔保ヲ拋棄シテ他人ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルモノト解スヘキナリ(註一)

〔註一〕 獨法(二七、二九)ニ於テハ設定セラレタル擔保ハ擔保請求者ニ對シテノミナラス其設定者

ノ後者カ擔保ヲ請求シタルトキハ其者ニ對シテモ亦效力ヲ生スルモノト定ム故ニ獨法ノ解釋トシテハ擔保ヲ請求シタル後者ハ他ニ前者ニ對シテ擔保ヲ請求シタル者ナキトキハ任意ニ其擔保ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキモノナリ是レ我商法ト主義ヲ異ニスル所ナリ

### 第六款 擔保ノ消滅

擔保ノ消滅  
原因ノ一般

- (一) 擔保又ハ供託金ハ左ノ場合ニ於テハ其效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得ルモノナリ(四七九條二號乃至五號、四八一條三號)
  - (一) 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
  - (二) 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ此場合ニハ償還義務ノ消滅ニ因リ擔保カ消滅スルモノナリ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者ノ後者カ償還ヲ爲スモ擔保義務者ノ義務ハ殘存シテ其擔保ノ消滅ヲ生セサルハ勿論ナリ
  - (三) 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
  - (四) 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ満期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ 此場合ニハ手形上ノ權利ハ消滅セス從テ擔保ノ必要アル

引受人ノ破産ニ因ル擔保ノ消滅原因

引受人ノ破産ニ因ル擔保ノ消滅原因

モ然モ永ク擔保ヲ存續セシムルハ擔保義務者ニ對シテ酷ニ失シ且國家經濟上不得策ナルカ故ニ便宜ノ爲メ此規定ヲ設ケタルモノナリ而シテ一年ノ期間ハ法定期間ニシテ時効期間ニ非ス

- (二) 引受人ノ拒絶ニ因ル擔保ハ上述セル原因ノ外後日ニ至リテ手形ノ單純ナル引受アリタルトキハ亦消滅ス(四七九條一號)但此場合ニ於テハ同時ニ費用ノ支拂アルコトヲ要ス何トナレハ擔保ハ費用ノ爲メニモ亦存スルモノナレハナリ (Staub-Stranz § 28 Anm. 1; Bernstein S. 162) 又此所謂單純ナル引受ニハ豫備支拂人ノ爲シタル參加引受ヲモ含ムモノト解スヘシ(五〇〇、五〇一參照)尙ホ單純ナル引受ハ全部引受タルコトヲ要ス一部引受アルモ擔保不可分ノ性質上擔保ノ消滅ヲ來ササルナリ

- (三) 引受人ノ破産ニ因ル擔保ハ前述セル一般原因ノ外左ノ二場合ニモ亦消滅ス(四八一條一號、二號)

- (一) 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ
- (二) 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

爲替手形 擔保ノ請求

第五節 支拂

第一款 支拂ノ爲メニスル呈示

(一) 手形ノ所持人カ支拂人又ハ引受人ニ對シテ支拂(Zahlung, paiement, payment)ヲ求ムル爲メニハ手形ヲ呈示スルコトヲ要ス之ヲ支拂ノ爲メニスル呈示(支拂呈示)ト謂フ

支拂呈示ヲ法定ノ期間内ニ爲スハ前者ニ對シテ償還ヲ請求スル條件ニシテ之ナキトキハ所持人ハ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ換言スレハ法定ノ期間内ノ支拂呈示ハ償還請求權保全ノ條件タリ(四八二、四八七)故ニ手形ニ引受ナキ場合ニ於テ法定期間内ニ支拂呈示ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ全ク其手形上ノ權利ヲ失フモノタリ然レトモ引受人ハ手形ノ主タル債務者トシテ支拂ヲ爲ス絶對的債務ヲ負フモノナルカ故ニ支拂呈示ナキノ理由ヲ以テ其責ヲ免ルルコトヲ得サルナリ唯引受人ハ民法ノ原則ニ從ヒ滿期日ノ到來ニ因リテ當然遲滯ノ責ニ任スヘキモノニ非スシテ支拂呈示ヲ俟チテ初メテ遲滯ノ責ニ任ス

ヘキモノタリ(民四一二、商二七九)但振出人カ裏書ヲ禁止シタル手形ハ指名證券ナルカ故ニ其引受人ハ滿期日ノ到來ニ因リテ當然遲滯ノ責ニ任スヘキナリ引受人カ支拂呈示ヲ受ケテ支拂ヲ爲サザルトキハ其呈示ノ時ヨリ遲滯ノ責ニ任シ其時以後ノ法定利息支拂ノ義務ヲ負フヘク(民四一九)其法定利息ハ年六分ノ利率トス(二六三條四號、二七六)然レトモ所持人カ法定期間内ニ支拂呈示ヲ爲シタルモ引受人カ支拂ヲ爲サザリシ場合ニ於テ支拂拒絕證書ヲ作成セシメタルトキハ所持人ハ引受人ニ對シ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利息竝ニ拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(四七一、四九一)或ハ引受人ハ常ニ滿期日以後ノ法定利息支拂ノ責ニ任スト解スル者アレトモ(青木博士手形法論四五頁以下)余ハ此說ヲ採ラス商法第四百七十一條ノ規定ハ所持人カ償還請求權ヲ有スル場合ニ關スル特別規定タルノミ

(二) 引受人カ支拂呈示ナキノ因リテ其責任ヲ免レサル原則ノ例外ハ支拂擔當者ノ記載アル手形ニ在リ支拂擔當者ノ記載アル手形ニ於テ支拂擔當者カ支拂ヲ拒絕シタルトキハ所持人ハ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絕證

書ヲ作ラシムルコトヲ要シ所持人カ此手續ヲ爲ササルトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ(四九〇)故ニ此場合ニ於テハ引受人ノ義務ハ前者ノ償還義務ト其狀態ヲ一ニセルモノタリ(註一)(註二)(註三)

〔註一〕此場合ニ於ケル引受人ノ責任ハ即チ償還義務ニ外ナラスト解スル説アレトモ(Thol § 82)誤ナリ引受人ノ手形債務カ此特別規定ノ結果消滅スヘキモノト定メラレタルニ過キサレナリ

〔註二〕引受人ノ義務カ支拂擔當者ニ對スル支拂呈示ナキコトニ因リテ消滅スルモノトセルハ引受人カ支拂擔當者ニ支拂資金ヲ供スルコト恰モ振出人カ支拂人ニ資金ヲ供スルト同様ナルニ因レリト雖モ立法論トシテハ之ヲ不可トス(第一節第三款第一項ノ三參照)

〔註三〕改正法以前ノ第四百九十條ハ他地拂手形ニ關スル特別規定タリシモ改正法ハ爲替手形ニハ一般ニ支拂擔當者ノ記載ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトシ同條ヲ改メタルヲ以テ之ヲ他地拂手形ノミニ關スル規定ト解スルコトヲ得ヘカラス(第三節第二款ノ二註一參照反對青木博士手形法論六二三頁以下)

茲ニ問題ト爲ルハ支拂擔當者自身カ所持人タルトキハ引受人ニ對シテ其所持人タル權利ヲ行フ爲メニ支拂拒絕證書ノ作成ヲ要スルヤ否ヤニ在リ此場合ニ於テモ其作成ヲ要セストスヘキ根據ナキヲ以テ積極説ヲ正當トスヘシ(Otto

呈示ノ當事者

Lehmann S. 544; Grünhut II § 102; Bernstein S. 208; Staub-Stranz § 43 Anm. 5; R. O. H. G. 8 S. 89; II S. 188; 14 S. 160(註四)

〔註四〕句法ハ明文ヲ以テ消極説ヲ採リ德國判例亦消極説タリ

(三) 支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲スヘキ者ハ所持人ナリ其代理人ヲ以テ呈示ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論トス〔註一〕又被呈示者ハ支拂人若クハ引受人〔註二〕〔註三〕又ハ支拂擔當者ニシテ支拂擔當者ノ記載アルトキハ之ニ對シテ呈示ヲ爲スコトヲ必要トス(四九〇)而シテ呈示ヲ受クヘキ代理權ヲ有スル使用者等ニ對スル呈示ノ有效ナルハ是レ亦勿論ナリトス

〔註一〕支拂拒絕證書ノ作成ヲ囑託セラレタル者カ所持人ノ代理人トシテ支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲スモノナルコトハ後ニ述フル所ノ如シ(第九節第三款ノ二參照)

〔註二〕大民一輯一三一八頁ハ約束手形ノ所持人カ支拂場所ニ至リタルモ振出人死亡シテ之ニ面會スルコトヲ得サル場合ニ於テ其死亡ノ事實ヲ知ラサル以上ハ振出人ヲ拒絕者トシテ拒絕證書ニ其氏名ヲ記載スヘキハ當然ナリトス(Vergl. Staub-Stranz § 89 Anm. 18)

〔註三〕支拂ノ爲メニスル呈示ハ支拂人破産ノ場合ニ於テモ破産者ニ對シテ爲スヘキモノニシテ破産管財人ニ對シテ爲スヘキモノニ非ス(加藤博士破産法研究一卷二一九頁以下)

(四) 呈示ヲ爲スヘキ地ハ支拂地タルヘキコト勿論ニシテ其場所ハ支拂人若ク

爲替手形 支拂

呈示ノ地及  
ト場所

呈示ノ方法

ハ引受人又ハ支拂擔當者ノ營業所タリ(四四二)然レトモ支拂場所ノ記載アルト  
キハ必ス其場所ニ於テスルコトヲ必要トシ(大民、九輯一一〇七頁、一一七七頁支  
拂人等ノ營業所其他ノ場所ニ於テスルコトヲ得ヘカラス(大民、九輯六九九頁但  
支拂地外ノ支拂ノ場所ヲ記載セルトキハ其記載ナキモノトシテ支拂人等ノ營  
業所等ニ於テ呈示ヲ爲スヘキモノタリ(大民、九輯六二九頁)

(五) 支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲スニハ手形ヲ呈示スヘキハ勿論ナレトモ正當  
ノ時期及ヒ場所ニ於テ被呈示者ヲ發見スルコト能ハサルトキハ呈示アリタル  
ト同一ノ效力アルヘキコト當然ナリ(五一五條二號、大民、一〇輯七五九頁、一〇九  
一頁、一二輯一五五一頁)故ニ手形所持人ノ營業所カ支拂ノ場所タル手形ニ付テ  
ハ所持人カ其營業所ニ於テ手形ヲ所持セルコトヲ證明スルトキハ呈示ヲ試ミ  
且被呈示者ヲ發見スルコト能ハサリシモノト觀支拂呈示ノ效力ヲ認メテ可ナ  
リ(大民、一二輯一九八八頁、法學協會雜誌三五卷一一二七頁以下拙稿 RO.H.G. 21  
S. 26)

支拂ノ爲メニスル呈示ニ手形ノ呈示ヲ必要トスルノ原則ハ裁判上ノ請求ニ

付テモ亦當然適用セラルヘキモノタリ多數ノ判決ハ手形金額支拂ノ裁判上ノ  
請求ニ於テハ訴狀ノ送達カ債務者ヲ遲滯ニ付スルニ付キ手形ノ呈示ト同一ノ  
效力アルモノトス(大民、九輯一〇四二頁、一五輯三一四頁、二三輯一三三頁然レト  
モ商法第二百七十九條ハ指圖證券又ハ無記名證券ノ債務者ハ證券呈示ノ時ヨ  
リ遲滯ノ責ニ任スヘキモノト定メ裁判上ノ請求ノ場合ニ付テ例外ヲ認メサル  
ノミナラス手形ノ呈示ナクシテ訴訟カ提起セラレタル場合ニ於テハ假令訴狀  
ノ送達アルモ債務者ハ手形ノ呈示ナキ限リハ直チニ支拂ヲ爲スコトヲ得サル  
モノナルカ故ニ遲滯ノ責ニ任スヘキノ理ナキナリ(法學協會雜誌三五卷一八四  
七頁以下拙稿參照) (註一)

(註一) 時効ノ中斷ニ付テハ手形ノ呈示ヲ要セス訴狀ノ提出ヲ以テ足ルモノタリ(第一章第七節  
ノ三、反對書本博士手形法論四三六頁)蓋時効ノ中斷ニ付テハ債權者ニ權利實行ノ行爲アルヲ  
以テ足り致テ債務者ヲ履行ヲ爲シ得ヘキ狀態ニ置クノ必要ナクレハナリ

(六) 支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲シタル事實ヲ證明スル方法ニ付テハ場合ヲ分  
チテ説明スルコトヲ要ス即チ償還請求權保全ノ條件トシテノ支拂呈示ハ支拂  
拒絶證書ヲ以テスルコトヲ必要トス但其作成免除ノ場合ハ此限ニ在ラス(四八

呈示ノ證明  
方法

爲替手形 支拂

二、四八七、四八九)然レトモ引受人ニ對スル關係ニ於テ呈示ヲ主張スルニハ其證明方法ニ制限ナク任意ノ方法ニ依リ現實ニ呈示ヲ爲シタルカ又ハ正當ノ時期及ヒ場所ニ於テ被呈示者ヲ發見スルコト能ハサリシコトヲ立證スルヲ以テ足ルモノトス(大民、九輯一—一二頁、一輯四七一頁、一二輯一五五一頁)

### 第二款 支拂ノ時期

支拂ノ時期  
支拂呈示ノ時期

(一) 支拂ノ爲メニスル呈示ハ滿期日前ニハ之ヲ爲スコトヲ得ヘカラサルモ其以後ニ於テハ任意ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ前者ニ對スル償還請求權保全ノ條件タル呈示ノ時期ハ滿期日又ハ其後二日內トス但此期間ニハ休日ヲ算入セス(四八七)故ニ所持人ハ必スシモ滿期日ニ於テ呈示スルコトヲ要セス其後二日ノ期間內ニ於テスルヲ以テ足ルモノタリ(大民、九輯一—三九頁、九—三三頁)〔註二〕

〔註一〕是レ獨法系(獨四)ノ探ル主義ニシテ統一法(三七)亦同シ佛、英法系國ノ法律ハ之ニ反シ支拂日ニ於テ呈示スルコトヲ必要トセリ(毛、戶博士統一手形法論一四三頁以下 Felix Meyer I S. 274 ff.)

上述セル期間內ニ於テハ所持人ハ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ支拂ナキトキ

ハ直チニ支拂拒絶證書ヲ作成セシメテ前者ニ對スル償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク所謂恩惠日 (Respekttage, jours de grâce, days of grace)ノ制度ハ我商法ノ認メサル所ナリ〔註二〕

〔註二〕英一四ハ一覽拂手形以外ノ手形ニ付キ三日ノ恩惠日ヲ認ム多數國法ハ直接恩惠日ヲ認メサルモ支拂日ノ翌日以後ニ至リテ初メテ支拂拒絶證書ヲ作成スルキモノトスルカ故ニ事實上ニ於テ前者ノ償還義務カ延期セラルルノ結果ヲ生ス我商法ハ獨法系國法ト同シク此制度ヲ認メス統一法ハ明文ヲ以テ恩惠日ヲ許ササルモノトスレトモ(七三)條約(一〇)ニ依リ各國法ヲ以テ支拂日ノ翌日又ハ翌日及ヒ其翌日ニ限リ支拂拒絶證書ヲ作ルヘキ旨ヲ定ムルコトヲ認メタリ(毛、戶博士統一手形法論一六六頁以下 Felix Meyer a. a. O.)

滿期日又ハ其後二日內ニ休日アルトキハ如何其休日ニ支拂呈示ヲ爲スヘカラサルハ法律ノ明定スル所ナリ(二八三)〔註三〕假令滿期日カ休日ニ當ルモ滿期日カ爲メニ繰延ヘラルルコトナキモ(第一節第二款第七項註一參照)支拂拒絶證書作成期間ハ繰延ヘラルルヲ以テ實際上支障ナキモノタリ即チ第四百八十七條第一項但書ノ規定ニ依リ滿期日又ハ其後二日內ニ休日アルトキハ何レモ之ヲ算入セサルノ結果支拂拒絶證書作成期間ハ休日タケ繰延ヘラルルモノナリ(法

曹記事二一巻一〇號九一頁民刑局長回答(註四)

〔註三〕 法曹記事第二〇巻第一號第三六頁所載決議ハ商法第二百八十三條カ満期日ニ關シテ適用ナキモノトスレトモ其理由ヲ解スヘカラス

〔註四〕 統一法(七二)ハ満期日カ休日ニ當ルトキハ次ノ業日ヲ支拂日トスヘキモノトシ又支拂拒絶證書作成期日ノ末日カ休日ニ當ルトキハ次ノ業日マテ期日ヲ伸長スヘキモノトスルモ中間ノ休日ハ期間ニ算入スヘキモノトセリ

支拂呈示ヲ爲スヘキ時ニ付テハ商法第二百八十三條ノ適用アリ取引時間内ニ限定セラルヘキコト勿論ナリ

(二) 一覽ノ日ヲ以テ満期日トスル一覽拂手形ニ於テハ支拂呈示ナキ限リハ満期日到来セス從テ前者ハ永久ニ其責ヲ免レサルノ不便アルヲ以テ法律ハ所持人カ其手形ノ日附ヨリ一年內ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムルコトヲ要スルモノトス但振出人カ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定メタルトキハ之ニ從テ所持人カ拒絶證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フモノトス(四八二)

一覽拂手形ニ於テハ支拂呈示ノ日カ即チ満期日ナリ故ニ支拂ナキトキハ其

一覽拂手形  
呈示ノ時  
期

日又ハ其後二日內ニ拒絶證書ヲ作成スヘキモノナリ(四八七)而シテ其拒絶證書作成ノ日ハ上述セル呈示期間内タラサルヘカラス故ニ呈示期間ノ末日ニ支拂ヲ求メタルトキハ其日ニ於テ拒絶證書ヲ作成セシムルコトヲ要スヘシ(京都市學會雜誌九卷一五一四頁以下毛戸博士「一覽拂手形ノ呈示期間ト支拂拒絶證書作成期間」參照)

一覽拂手形ニ引受人アル場合ニ於テ所持人カ呈示期間内ニ呈示ヲ爲サザリシトキハ如何〔註〕第四百八十二條ハ所持人カ前者ニ對スル償還請求權ヲ失フモノトスルニ過キササルカ故ニ引受人ニ對スル權利ハ依然トシテ存續スヘキナリ而シテ此場合ニ於テハ呈示期間ノ末日ヲ以テ満期日ト解スルヲ通説トシ(岡野博士日本手形法二七八頁)時効期間モ亦此日ヨリ進行スルモノト觀ルヘキナリ是レ恰モ一覽後定期拂手形ニ關スル第四百六十七條第三項ノ規定ニ對應スル解釋タリ

〔註一〕 一覽拂手形ニ於テハ任意ノ呈示ノ日ニ於テ直チニ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ引受テ得テ後支拂ヲ求ムル必要實際上少シト雖モ解釋上引受ヲ認ムヘカラサルモノト觀ルヘカラス

爲替手形 支拂



一覽拂手形ニ付キ法定期間内ニ支拂呈示ヲ必要トスルハ各國法ノ認ムル所ニシテ唯其呈示期間ニ付キ差異アルニ過キス然レトモ此點ニ關スル立法例ハ一覽後定期拂手形ノ引受呈示期間ニ關スルモノト全然同一ナルヲ以テ之カ説明ヲ省略スヘシ(第三節第二款ノ三參照)

(三) 満期日前ニ於テ所持人カ支拂ヲ請求スルコトヲ得サルハ當然ナルカ之ト同時ニ支拂ヲ強制セラルヘキ理ナキコト亦當然ナリ抑モ期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノト推定セラルルモノナレトモ(民一三六)手形ニ於テハ所持人ハ支拂拒絶證書作成期間經過ノ日ニ至ルマテ之ヲ流通スル權利ヲ有スルモノナルカ故ニ其以前ニ支拂ヲ受クルコトヲ強制セラルヘカラサルナリ(註一)

(註一) 満期日前ニ所持人カ支拂ヲ受クルコトヲ要セサルノ趣旨ハ佛(一四六)伊(二九四)等多數法ノ明文ヲ以テ定ムル所ニシテ我舊商法七五九統一法(三九)亦之ヲ認ム獨英法等ニハ明文規定ナキモ學説及ヒ判例ノ普及認ムル所ナリ(毛戸博士統一手形法論一四五頁以下 Folz Meyer: I R. 287 ff.)

満期日前ニ所持人ノ同意ヲ得テ支拂ヲ爲シタルトキハ其支拂ハ勿論當事者間ニ於テ有效ナリト雖モ(大民、一二輯七五〇頁)支拂ヲ爲シタル者ハ自ラ危険ヲ

満期日前ニ於ケル支拂

満期日後ノ支拂

負擔セサルヘカラス(註二)詳言スレハ若シ真正ノ權利者ニ非サル者ニ支拂ヲ爲シタルトキハ其支拂ハ無効ト爲リ再支拂ノ危険ヲ負フヘシ何トナレハ支拂人カ所持人ノ形式的資格ヲ調査スルノミニ因リテ有效ナル支拂ヲ爲スコトヲ得ル特典ハ支拂ヲ爲スヘキ時期ニ於ケル支拂ノミニ付キ認メラレタルモノナレハナリ又支拂人カ満期日前ニ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テハ振出人ニ對シテ補償ヲ求ムルコトヲ得サル場合アルヘシ

(註二) 此點モ亦多數法並ニ我舊商法七五九及ヒ統一法(三九)ノ明定スル所ナリ

(四) 満期日又ハ其後ニ於テハ所持人ハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク支拂人ハ有效ニ支拂ヲ爲スコトヲ得ヘキコト當然ナリ然レトモ支拂拒絶證書作成期間經過後ニ於テハ振出人ハ既ニ其償還義務ヲ免レタルモノナルカ故ニ未タ引受ヲ爲ササリシ支拂人ハ假令支拂ヲ爲スモ振出人ニ對シテ補償ヲ求ムルコトヲ得サル場合アルヘシ引受ヲ爲シタル者ハ之ニ反シ手形ノ主タル債務者トシテ絶對的ニ支拂義務ヲ負フ者ナルヲ以テ拒絶證書作成期間經過後ト雖モ支拂ヲ爲シ振出人ニ對シテ補償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ

爲替手形 支拂

(五) 所持人ト支拂人トノ同意ニ因リ滿期日ヲ變更シタルトキハ其效力如何滿期日ノ變更ハ實際上ハ其延期(Prolongation)ノ爲メニセラルルヲ常トス此場合ニ於テハ其變更ハ當事者間ニ於テハ支拂猶豫ノ效力アルヘキモ滿期日ハ所持人ト支拂人トノ間ノ契約ニ因リテ變更セラルヘキモノニ非サルカ故ニ他ノ手形債務者ハ猶豫ノ利益ヲ受クヘキ理由ナシ又所持人カ前者ニ對シテ湖求權ヲ行使スルニハ猶豫ナカリシモノト看做シ前ノ滿期日ヲ基礎トシテ其權利ノ保全ノ條件ヲ踐マサルヘカラサルナリ〔註一〕

〔註一〕 瑞西法(七六一)ハ延期ヲ許シタル所持人ハ不同意ノ前者ニ對シ其權利ヲ失フモノトス佛國ノ學說畧ホ之ニ同シ(Felix Meyer I. S. 281 ff.)

延期ノ場合ニ於テ新ニ手形ヲ振出シ之ヲ以テ舊手形ニ代フルコトアリ之ヲ手形ノ切替ト謂フ此場合ニ於テハ新手形ヲ以テ舊手形ニ代ヘタルモノニシテ舊手形ハ消滅シ新手形カ振出サレタルモノト解スヘク單ニ支拂猶豫アリタルニ止マラサルナリ〔註二〕

〔註二〕 獨逸ノ慣習ニ依レハ延期手形(Prolongationswechsel)ノ發行ハ舊手形ノ支拂猶豫ノ爲メニセラルルモノナリ即チ延期手形ハ舊手形ニ代ハルヘキモノニ非スシテ單ニ其支拂ヲ確保スル爲

メニ振出サレルモノタルニ過キス故ニ延期手形カ發行セラルルモ舊手形ハ回收セラルルコトナシ是レ我邦ニ通常行ハルル手形切替ノ慣習トハ趣ヲ異ニセルモノト謂フヘシ(法學協會雜誌三四卷八〇一頁以下拙稿參照)

### 第三款 支拂ノ目的

支拂ノ目的

支拂ノ目的  
タル貨幣

(一) 支拂ノ目的ハ金錢ナリ故ニ手形ニ別段ノ記載ナキ限りハ支拂ヲ爲ス者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得ヘシ又外國ノ通貨ヲ以テ手形金額ヲ指定シタルトキハ支拂地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得ヘシ(民四〇二、四〇三)

手形ニ特種ノ通貨又ハ外國ノ通貨ヲ以テ支拂フヘキコトヲ記載スルコトヲ得ルヤ否ヤハ我商法ノ解釋トシテ多少ノ疑ヲ存スル問題ナリ或ハ此ノ如キ記載ハ手形編ニ規定ナク從テ手形上ノ效力ナシトスル者アレトモ(松波博士日本手形法八八頁、毛戸博士統一手形法論一四七頁)一定ノ金額ヲ指示スル一方法トシテ此ノ如キ記載ヲ認ムルハ解釋上支障ナカルヘシ故ニ此場合ニ於テハ特種ノ通貨又ハ外國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スヘキモノタリ(民四〇二)外國法ニ於

一部ノ支拂

ヲモ英(七二)獨三七其他多數國法皆明文ヲ以テ上述セル趣旨ヲ規定セリ統一法(四〇)亦同シ(Felix Meyer I S. 288 ff.)

(二) 手形ノ支拂ニ付テハ商法ハ一部ノ支拂 (Teilzahlung, paiement partiel, part payment) ヲ認ム所持人ハ引受ノ有無又ハ全部ノ引受アリタルト一部ノ引受アリタルトヲ問ハス一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス(四八四條一項)若シ之ヲ拒ミタルトキハ其部分ニ付テハ支拂拒絶證書ヲ作成セシムルコトヲ得ス從テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルナリ而シテ所持人カ一部ノ支拂ヲ受ケタルト否トヲ問ハス其殘部ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ當然ニシテ其償還請求ヲ爲ス手續ハ手形金額ノ全部ニ付キ支拂ノ拒絶アリタルトキト全ク同様ニシテ之ニ關スル特別規定アルコトナシ

一部支拂ヲ拒ムコトヲ得サルノ觀念ハ民法ノ原則ニ反ス然レトモ之ヲ認ムルハ多ク所持人ノ利益ヲ傷害スルコトナクシテ前者ノ利益ヲ保護スルコト少カラサルヲ以テナリ獨三八其他多數國法概ネ明文ヲ以テ一部支拂ヲ認ム(Felix Meyer I S. 294 ff.)統一法(二八)亦同シ(毛戸博士統一手形法論一五〇頁拙著私法論

文集一卷四〇〇頁以下參照)

第四款 支拂ノ體樣

支拂ノ體樣  
支拂ヲ爲ス  
者ノ調査ス  
ヘキ事項

(一) 手形金額ノ支拂カ有效ナル爲メニ支拂ヲ爲ス者カ調査スヘキ事項ハ之ヲ分チテ三トス即チ第一所持人ノ形式的資格 (formelle Legitimation des Inhabers) 第二所持人ノ實質的資格 (materielle Legitimation des Inhabers) 第三所持人ノ眞偽 (Identi-  
nität des Inhabers mit der Person auf welche die formelle Legitimation lautet) 是レナリ  
上述セル事項ハ支拂ノ有效ナル爲メニ之カ調査ヲ必要トスルモノニシテ即チ有效ナル支拂ノ條件ニ關ス支拂ヲ爲ス者カ積極的ニ之ヲ調査スル義務ヲ負フモノニ非サルナリ然レトモ所謂間接義務ノ觀念ニ依リ支拂ヲ爲ス者カ是等ノ調査ヲ爲ス義務 (Prüfungspflicht) ヲ負フモノト説明スルコト通常ニシテ我民法第四百七十條モ亦調査義務ナル語ヲ用フ其法律上眞正ノ義務ニ非サルコトニ留意スルコトヲ要ス

(二) 所持人ノ形式的資格ノ調査トハ手形ノ形式的外觀ニ於テ所持人カ權利者

形式的資格  
ノ調査

爲替手形 支拂

トシテ記載セラレタル者ナルヤ否ヤノ調査ヲ謂フ裏書ナキ手形ニ於テハ受取人トシテ記載セラレタル者、裏書アル手形ニ於テハ最後ノ被裏書人トシテ記載セラレタル者カ所持人タラサルヘカラス且後ノ場合ニ於テハ其裏書ニ連續アルコトヲ要ス(第二節第三款ノ三及ヒ四參照若シ上述セル者以外ノ者カ所持人タルトキハ其者ハ相續其他ノ原因ニ因リ正當ニ手形ヲ取得シタルコトヲ證明セサル限リハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス又裏書ノ連續ヲ缺クトキモ亦相續其他ノ原因ニ因リテ之ヲ缺クルニ至リタルコトヲ證明セサル限リハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス之ニ反シ形式的資格ヲ有スル者ニ支拂ヲ爲シタルトキハ支拂ヲ爲ス者ハ其責ヲ免ルルコトヲ得ヘキコト後ニ述フル所ノ如シ故ニ支拂ヲ爲ス者ハ所持人ノ形式的資格調査ノ義務アルモノト謂フヘシ

形式的資格調査ノ問題ハ裏書禁止ノ手形ニ付テハ生スルコトナシ何トナレハ手形ノ形式上受取人以外ニ權利者アルヘカラサレハナリ又無記名式又ハ選擇無記名式手形ニ付テモ生スルコトナシ何トナレハ支拂ヲ爲ス者ハ所持人ノ何人タルヲ問ハス之ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ得ヘケレハナリ然レトモ最後

實質的資格  
ノ調査

ノ裏書カ無記名式ナル手形ニ付テハ其裏書ニ至ルマテノ間ニ裏書ノ連續アルヤ否ヤノ調査ヲ爲ス必要アルモノタルコト既述セル所ナリ(第二節第二款第三項ノ三參照)

(三) 所持人ノ實質的資格ノ調査トハ所持人カ真正ナル手形上ノ權利者ナルヤ否ヤノ調査ヲ謂フ假令所持人カ形式的資格ヲ具備スルモ惡意又ハ重大ナル過失アリテ手形ヲ取得シタル者ナルトキハ真正ナル權利者タルコトヲ得サルハ既述セル所ナリ支拂ヲ爲ス者ハ實質的資格ヲ有セサル所持人ニ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テ其責ヲ免ルルコトヲ得サルモノナルヤ否ヤ換言スレハ實質的資格ノ調査義務アルヤ否ヤト謂フニ民法第四百七十八條ハ債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限リ其效力ヲ有スト定ムルヲ以テ實質的資格ノ調査ヲ要セスシテ有效ナル支拂ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ(拙著私法論文集一卷五四二頁以下參照)

民法第四百七十八條ノ規定ハ曾ニ通常ノ指圖證券タル手形ノミナラス裏書禁止ノ手形、無記名式又ハ選擇無記名式ノ手形ニ付テモ亦其適用アルヘク實質

的資格ノ調査義務ハ各種ノ手形ニ通シテ存在セサルモノト謂フヘシ  
 實質的資格ハ支拂ヲ爲ス者之ヲ調査スルノ義務ナキコト上述セル所ノ如キ  
 モ之ヲ調査スルノ權利ナキモノトスヘカラス(大民一二輯一二四八頁參照)所持  
 人ノ實質的資格ナキコトヲ證明シ得タル場合ニ於テ之ニ支拂ヲ爲スヘカラザ  
 ルハ固ヨリ言ヲ待タサル所ナリ然レトモ裏書ノ眞偽ハ調査ノ義務ナキト同時  
 ニ其權利ナキモノト解セサルヘカラス何トナレハ假令裏書ノ一カ偽造ナリト  
 スルモ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ノ實質的資格ヲ傷  
 タルモノニ非サレハナリ(岡野博士日本手形法二九〇頁以下)  
 (四) 所持人ノ眞偽ノ調査トハ手形ノ記載上ニ於ケル所持人ト現ニ手形ヲ所持  
 シテ支拂ヲ求ムル者トカ同一人ナルヤ否ヤノ調査ヲ謂フ此調査ノ問題ハ無記  
 名式又ハ選擇無記名式手形ニ付テハ生スルコトナシ何トナレハ此種ノ手形ニ  
 於テハ記載上ノ所持人ト現實ノ所持人トノ區別ナケレハナリ(註二)又此問題ハ  
 最後ノ裏書カ無記名式ナル手形ニ付テモ同理ニ因リテ生スルコトナキナリ(大  
 民一八輯四一四頁二二輯九二八頁法學協會雜誌三四卷一八九〇頁以下拙稿參

照

(三) 選擇無記名式手形ニ付テハ民法第四百七十條及ヒ第四百七十一條ノ適用ナク從テ所持  
 人ノ眞偽ノ調査ノ問題ヲ生セサルナリ(拙著私法論文集一卷五五五頁以下)

所持人ノ眞偽ニ付テハ特別規定ナキ限リハ其調査義務アリト解セサルヘカ  
 ラス何トナレハ手形ノ記載上ニ於ケル所持人ニ對シテ支拂ヲ爲スヘキハ事理  
 ノ當然ナレハナリ故ニ獨逸ニ於テハ支拂ヲ爲ス者假令惡意又ハ重大ナル過失  
 ナクシテ他人ニ支拂ヲ爲スモ其責ヲ免レストスルヲ通説トス(岡野博士日本手  
 形法二九二頁註二)然ルニ我民法第四百七十條ハ指圖債權ノ債務者ハ其證券ノ  
 所持人及ヒ其署名捺印ノ眞偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナ  
 シ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無効トス(註三)規定セル  
 ヲ以テ指圖證券タル爲替手形ノ引受人カ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ所持人ノ眞  
 偽ノ調査義務ナキモノト解スヘク其調査ヲ爲サスシテ支拂ヲ爲スモ責ヲ免ル  
 ルコトヲ得ヘシ唯相手方ニ於テ引受人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルコト  
 ヲ證明シタル場合ニ於テ免責ノ效力ナカルヘキノミ(註三)

〔註二〕グリエンフートハ獨リ通説ニ反シ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ支拂ヲ爲シタル者ハ其責ヲ免ルヘキモノトシ是レ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ支拂ヲ取得シタル者カ其手形ノ所有者ト爲ル旨ノ規定トノ權衡上正ニ然ルヘキ所ナリトス(Grühnt II S. 200 ff.)

〔註三〕民法第四百七十條ハ通常所持人ノ實質的資格ノ調査ニ關スル規定ト解セラルルモ余ハ之ヲ誤レリトス拙著私法論文集一卷五四八頁以下參照)

上述セル如ク手形引受人ニ所持人ノ眞偽調査義務ナキコトハ民法第四百七十條ノ解釋上明瞭ナレトモ單純ナル支拂人又ハ支拂擔當者ハ手形上ノ債務者ニ非サルノ結果其規定ノ適用ナキモノト爲ルヘシ然レトモ支拂人又ハ支拂擔當者ニ對シテ引受人ニ對スルト別異ノ待遇ヲ爲スヘキ理由毫モ存在セサルヲ以テ民法第四百七十條ノ規定ハ支拂人又ハ支拂擔當者ニ當然類推セラルヘキモノト解スルヲ妥當トス唯裏書禁止ノ手形ハ指名證券ニシテ指圖證券ニ非サルヲ以テ民法第四百七十條ノ規定ノ適用ナク此種ノ手形ニ付テハ支拂ヲ爲ス者ニ所持人ノ眞偽ノ調査義務アリト解スヘキナリ

(五) 支拂ヲ爲ス者ハ所持人ノ實質的資格ノ調査義務ナク無權利者ニ支拂ヲ爲スモ尙ホ其責ヲ免ルルコトヲ得ヘキコト上述セル所ノ如シト雖モ其手形ノ眞

偽造手形ノ支拂

正ナルモノタルコトヲ前提トスヘキハ當然ナリ引受人又ハ支拂人ハ假令惡意又ハ過失ナクシテ偽造手形ノ支拂ヲ爲スモ之ニ因リ振出人ニ對シテ補償ヲ請求スルコトヲ得ヘカラス例ヘハ甲乙兩銀行間ニ於テ爲替取引關係アル場合ニ於テ甲銀行ノ使用人カ其銀行ノ用紙及ヒ印章ヲ盜用シ銀行名義ノ手形ヲ振出シタルトキノ如キ乙銀行ハ何等ノ過失ナクシテ其手形ノ支拂ヲ爲スコトアルヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ其損失ハ條理上寧ロ甲銀行ヲシテ負擔セシムルヲ妥當トスルカ如ク此趣旨ノ判例學說ナシトセサレトモ(法律新聞一〇四二號二八頁所載大正四年六月二十二日東京控訴院判決青木博士手形法論六三八頁)振出人ト支拂人トノ間ニ於テ特別ノ契約アルニ非サル限リハ此ノ如キ結論ヲ生スヘキ理由アルコトナシ〔註二〕唯實際上ハ小切手契約ニ於テハ特約ヲ爲シテ振出人ニ損失ヲ負擔セシムルコトヲ常トスルノミ〔註二〕

〔註一〕上述セル設例ノ如キ場合ニ於テハ甲銀行ハ乙銀行ニ對シ不法行為上ノ責任ヲ負フコトアルヘク(法學協會雜誌三五卷一二七頁拙稿參照)從テ乙銀行ハ實際上損失ヲ受ケサルニ至ルコトアルヘキモ是レ偽造手形ノ支拂ヲ有效トシテ甲銀行ヨリ補償ヲ與フルノ趣旨トハ別個ナリ

〔註二〕小切手契約ニ於テ上述セル特約ヲ爲スヲ常トスルコトハ判例第二卷民事判例二四八頁所載東京控訴院大正五年十二月二十八日判決、同刑事判例六八頁所載東京地方裁判所大正五年十月七日判決、同七八頁所載大審院大正六年二月六日判決ニ徴スルモ明白ナリ或ハ假令明約ナキモ慣習上此種ノ特約アリト觀ルヘキ場合アルヘシ(民九二前掲セル大正四年六月二十日東京控訴院判決ハ若シ此意味ニ解釋セハ誤判ニ非ス尙ホ小切手以外ノ手形取引ニ付テノ同様ノ特約ノ實例トシテハ判例第三卷民事判例二四〇頁以下所載廣島地方裁判所大正六年十二月七日判決アリ)

支拂ノ條件

(六) 支拂ハ手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得四八三〔註一〕蓋手形ト引換ニ非スシテ支拂ヲ爲ストキハ引受人ハ其手形ノ惡意又ハ重大ナル過失ナキ取得者ニ對シニ重拂ヲ爲ス必要ヲ生スルコトアルヘケレハナリ故ニ強制執行ノ場合ト雖モ支拂ヲ爲ス者ハ手形ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ルモノタリ(大民、一〇輯一二八八頁)

〔註一〕英(五二)號(三九)以下多數國法及ヒ統一法(三八)ハ同一總旨ヲ定ム佛國法ニハ明文ナキモ解釋上ハ同様ナリ(Tour-Coen IV no. 927)毛月博士統一手形法論一五一頁以下Felix Meyer I S. 202 ff.)

一部支拂ノ場合ニ於テハ所持人ハ殘部ノ金額ニ付キ償還ヲ請求スル爲メ手

形ヲ要スルカ故ニ(四九五)支拂ヲ爲ス者ハ手形ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ス之ニ代ヘ所持人ヲシテ其旨ヲ手形ニ記載シ且其寫本ヲ作り署名ノ後之ヲ交付セシムルコトヲ得(四八四條二項)

第五款 手形金額ノ供託

手形金額ノ供託

(一) 引受人ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ト雖モ支拂ノ義務ヲ免ルルコトナキモ支拂ノ遷延ヲ不便トスルコトアルヘキカ故ニ手形支拂ノ請求ナキトキハ支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトス(四八五)其支拂拒絶證書作成期間ノ經過ヲ要件トスルハ其以前ニ於テハ手形ハ尙ホ活動期ニ在リテ流通セラルヘキモノナレハナリ〔註一〕

〔註一〕供託ノ制度ハ獨佛其他多數國法及ヒ統一法(四一)ノ認ムル所ナリ然レトモ英米法ハ之ヲ認メサルヲ以テ實際上不便アルカ如シ(毛月博士統一手形法論一五三頁 Felix Meyer I S. 306 ff.)

本條ノ供託ニ付テハ民法第四百九十五條、第四百九十六條及ヒ供託法ノ規定ノ適用アリ尙ホ本條ノ供託以外ニ於テモ例ヘハ所持人ノ死亡等ノ場合ニ於テ

爲替手形 支拂

引受人ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキハ民法第四百九十四條ノ規定ニ依リテモ亦供託ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト解スヘシ (Grünhut II S. 250; Bernstein S. 139; Staub-Stranz § 40 Anm. 6)

(二) 手形債務ハ支拂、供託又ハ時効以外ニ於テ一般債務消滅原因タル免除、相殺更改等ニ因リテモ亦消滅スヘキモノナレトモ是等ノ場合ニ於テハ手形ヲ回收スルニ非サレハ完全ナル消滅ノ效力ヲ生セス單ニ當事者間ノ人的抗辯ヲ生スルニ過キササルヘキナリ

手形債務カ更改ニ因リテ消滅スルハ手形債務ヲ普通債務ニ變更スル場合ニ生スル所タリ(大民、一一輯一一頁、一六輯八三五頁、一九輯八三三頁)〔註一〕之ニ反シ新手形ヲ以テ舊手形ニ代フル所謂手形ノ切替ノ場合ニ於テハ舊手形上ノ權利カ消滅シ新手形上ノ權利カ之ニ代ハルモノナレトモ其新手形上ノ權利ハ手形行爲ニ因リテ生スルモノニシテ更改契約ニ因リテ生スルモノニ非サレハ之ヲ真正ノ更改ト謂フヘカラス(法學協會雜誌三四卷八〇二頁拙稿參照)

〔註一〕石坂博士ハ大審院判決カ手形債務ヲ普通債務ニ變更スルハ證書ナル債務ノ要素ヲ變更

支拂及ヒ供託以外ノ手形債務消滅原因

スルモノナルカ故ニ更改ナリトセルヲ駁撃シ此場合ニハ民法第五百八十八條ノ規定ニ依ル消費貸借ヲ生スルコトヲ得ルモ更改ヲ生スルコトヲ得サルモノトス(石坂博士民法研究四卷四九九頁以下證書ハ手形債務ノ要素ニ非サルハ勿論ナリト雖モ手形ヲ回收シテ手形債務ヲ消滅セシムルト同時ニ之ト性質ヲ異ニスル普通債務ヲ發生セシメムトスル契約ハ少クトモ之ヲ更改ニ準スヘキ行爲ト觀察シテ不可ナキカ如シ

### 第六節 償還ノ請求

#### 第一款 償還請求ノ當事者

(一) 償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ第一次ニハ所持人ニシテ(四八六、四八七)第二次ニハ償還ヲ爲シタル裏書人ナリ(四九二)而シテ償還ハ手形、支拂拒絶證書及ヒ償還計算書ト引換ニ之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ(四九五)償還請求權者ハ擔保請求ノ場合ノ如ク拒絶證書ヲ所持スルノミニ依リテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘカラス必スヤ手形ヲ所持セサルヘカラス前述セル如ク裏書人カ償還ニ因リテ再ヒ手形所有權ヲ取得スルト共ニ其從來有シタル手形上ノ權利カ再ヒ行使セラルヘキ状態ニ回復スルモノニシテ償還ハ即チ裏書人ヲシテ其手

償還ノ請求

償還請求ノ當事者

償還請求權者

爲替手形 償還ノ請求



形所有權ヲ回復セシムル所以ノ行爲タリ第一章第三節ノ三、第十節第二款ノ二第二章第二節第三款ノ二參照故ニ償還請求權者ハ所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人トシテ常ニ手形所有者タルモノト謂ヒテ可ナリ〔註一〕

〔註一〕償還請求權者カ手形所有者タルヘキコトハ既ニ第四節第一款ノ二ニ説明シタリ其他同款ノ叙述ハ擔保請求ニ關スル總說タルト同時ニ償還請求ニ關スル總說タルヲ以テ之ヲ參考スルコトヲ要ス

償還義務者  
多數義務者

(二) 償還ヲ爲ス義務ヲ負フ者ハ振出人其他ノ前者及ヒ其保證人ナリ無保擔裏書人其他償還義務ヲ負ハサル前者ニ付テハ擔保請求ニ付テ説述シタル所ト同シ(第四節第二款ノ二參照尙ホ引受人ハ主タル債務者ナルカ故ニ償還義務者ニ非サルハ勿論ナリ法律ハ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ支拂フヘキ金額ニ付キ償還金額ニ關スル規定ヲ準用セルノミ(四七一))

(三) 償還請求權者カ償還義務者ニ對シテ請求ヲ爲スニ當リテハ超躍的溯求ヲ許サレ又變更權ヲ認メラルルコト亦擔保請求ニ付キ説明シタル所ト同シ(第四節第二款ノ三參照)商法第四百八十七條ノ二以下ノ規定ハ第三款ニ述フルカ如ク償還請求ノ通知ヲ爲スニ付キ裏書ノ順序ニ依ルヘキモノトセルモ是レ通知

ノミニ關スル規定ニシテ償還請求自體ハ毫モ裏書ノ順序ニ拘束セララルルコトナキナリ此趣旨ハ商法ノ明文上ハ必スシモ直接ニ表白セラレサルカ如キモ解釋上疑ヲ容レサル所ナリ(四八六、四九一條二項、四九二、四九三、四九四條一項參照)

〔註一〕

〔註一〕外國法ニ於テモ償還請求ニ付キ超躍的溯求及ヒ變更權ヲ認ムル旨ノ規定ヲ爲セル例寧

口稀ナレトモ解釋上ハ普ク認メラルル所ナリ英(四七、五七)ハ明文ニ依リ超躍的溯求ヲ認メ爾(二八六西五一六)ハ反對ニ變更權ヲ認メサルモ是等ハ寧口例外タリ統一法(四六)ハ明文ヲ以テ超躍的溯求及ヒ變更權ヲ認ム毛戸博士統一手形法論一五九頁以下 Felix Meyer I S. 191 ff.)

償還請求權者カ償還義務者ニ對シテ請求ヲ爲スニ當リ同時ニ義務者ノ全員ニ對シテモ又ハ一部ニ對シテモ全額ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキハ亦擔保請求ニ付テ説明シタル所ト同シ(第四節第二款ノ三)而シテ數人ニ對シ各全額ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ一人ノ支拂ニ因リ他人ニ對スル請求權ヲ失フニ至ルヘキハ勿論ナリ然レトモ擔保請求ノ場合ト異ル點ハ償還請求ノ場合ニ於テハ權利者ハ同時ニ引受人ニ對シテモ償還金額ノ支拂ヲ求ムル權利ヲ有スルヲ以テ(四七一)權利者ハ償還義務者ニ對スルト同時ニ引受人ニ對シテモ請求ヲ爲スコ

トヲ得ヘク恰モ引受人ト償還義務者全員トカ連帶債務者タルカ如ク共同的ニ償還請求權者ニ對シテ手形上ノ債務ヲ負フモノタリ從テ超躍的溯求及ヒ變更權ハ引受人及ヒ償還義務者間ニ於テモ亦認めラルル所ナリ〔註二〕

〔註二〕獨(四九八)佛(一八、一四〇、一六四)其他多數ノ國法及ヒ統一法(四六)ハ手形債務者カ連帶債務ヲ負フ旨ヲ定ム(毛戸博士前掲 *Recht Meyer* p. 10.) 然レトモ民法上ノ真正ノ連帶責任ニ非ス何トナレハ引受人ノ支拂ハ償還義務者全員ノ免責ヲ生スヘキモ償還義務者ノ支拂ハ引受人ノ免責ヲ生セス又後者ノ支拂ハ前者ノ免責ヲ生セザレハナリ (Staub-Strauss & St. Ann. 1 ff.; *Veru-sahn* S. 73, 305 ff.) 故ニリオンカーンハ之ヲ不完全連帶 (*solidario imparfite*) と稱ス (Lyon-Caen IV nos. 461 et suiv., 443, 445, 520.) フエリックス、マイエルハ故ラニ連帶責任ナル語ヲ避ケタリ (*Recht Meyer* II S. 276)

上述セル如ク引受人及ヒ償還義務者全員ハ恰モ連帶債務者ノ如ク償還請求權者ニ對シテ各自全部ノ義務ヲ負擔セリ是レ各自カ各其手形行為ニ因リテ手形上ノ債務ヲ負ヒタル結果ニシテ毫モ怪ムヲ須キサルナリ超躍的溯求ヲ許シ變更權ヲ認ムルノ理モ亦之ヨリ生スルモノニシテ各自ハ各其手形行為上ノ義務ヲ履行スル責アリテ他債務者ノ存否ハ其責任ニ影響ヲ及ホスヘキ理由ナキナリ然レトモ各手形債務者ハ民法上ノ連帶債務者タルヘキ理ナク連帶債務ニ

償還請求ノ條件

支拂拒絕ニ因ル償還請求ノ條件

關スル民法ノ特別規定ハ此場合ニ適用セララルヘキ限ニ在ラサルナリ(第一節第二款第九項參照)〔註三〕

〔註三〕手形債務者ハ連帶債務者ニ非サルヲ以テ一人ニ對スル履行ノ請求又ハ免除、一人トノ間ノ更改又ハ混同、一人ノ爲メニ生シタル時効ノ完成等ハ他人ニ其效力ヲ及ホスモノニ非サルナリ(民四三四、四三五四三七乃至四三九)

### 第二款 償還請求ノ條件

(一) 支拂人カ手形ノ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得(四八六)其償還請求ノ條件左ノ如シ(四八七)

(一) 支拂人カ手形金額ノ全部又ハ一部ニ付キ支拂ヲ爲ササルコト 茲ニ支拂ヲ爲サスト謂フハ支拂ヲ得ス又ハ支拂ナシ (*Zichterlangung der Zahlung*) トノ意味ニシテ支拂人カ積極的ニ支拂ヲ拒絕スル場合ノ外所在不明其他ノ理由ニ因リ支拂ヲ得ヘカラサル總テノ場合ヲ包含スルモノタリ又一部ノ支拂アリタル場合ニ於テハ其殘部ニ付キ償還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(前節第三款ノ二參照)

爲替手形 償還ノ請求

支拂人カ支拂ヲ爲ササル爲メニハ支拂ノ爲メニスル呈示カ適法ニ行ハレタルコトヲ要ス(前節第一款並ニ第二款ノ一及ヒニ參照)支拂呈示ト支拂拒絕證書ノ作成トハ償還請求權保全ノ條件ナルヲ以テ例ヘハ支拂人カ支拂ヲ爲ササル旨ヲ豫メ言明セルトキ(註二)又ハ支拂人カ破産ノ宣言ヲ受ケタルトキノ如ク支拂ナキコト確實ナル場合ト雖モ之ヲ怠ルコトヲ得ヘカラサルハ當然ナリ又天災事變其他ノ不可抗力ニ因リテ此條件ヲ履踐スルコト能ハサル場合ト雖モ尙ホ償還請求權ノ喪失ヲ生スルモノト解セサルヘカラサルナリ(註三)

[註一] 大審院ハ滿期日到来スルモ支拂ヲ爲ササル旨ノ特約アル場合ニ於テモ償還請求權ヲ保全スル爲メニハ滿期日ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ且特約ニ基ク支拂ノ拒絕ト雖モ支拂拒絕證書ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ要スルモノトセルコトアリ(大民二三輯一五二〇頁)

[註二] 不可抗力ハ獨法系ノ多數法ハ之ヲ顧慮セサルモ英(四一四六)米(一四五、一四一、一四二)ノ明文ヲ以テ又佛法系ノ多數法ニ於テハ解釋ニ依リ(Tyong-Quan IV no. 313)不可抗力ノ止ミタル後ニ保全手續ヲ履ムコトヲ得ルモノトセリ統一法(五三)亦後主義ヲ採リ周密ナル規定ヲ爲セリ是レ立法論トシテハ余ノ贊成スル所ナリ(拙著私法論文集一卷四二五頁以下尙ホ此點ニ關スル立法例ニ付テハ Felix Meyer I. S. 90 ff., II S. 47 毛月博士統一手形法論一七〇頁以下ヲ參考スヘシ)

支拂呈示ハ支拂人又ハ引受人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナルモ支拂擔當者ノ記載アル手形ニ付テハ別ニ規定アリテ其支拂擔當者ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナルコト既ニ説明セル所ナリ(前節第一款ノ二及ヒ三參照)

(二) 支拂ノ爲メニスル呈示ヲ爲スヘキ期間内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコト 償還請求ヲ爲スニハ支拂拒絕證書ヲ作成セシムルコトヲ要スルモ(四八七)其作成ノ免除アリタル場合ハ此限ニ在ラス是レ後ニ説明スル所ナリ(本款ノ三參照)

(三) 豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ支拂拒絕證書作成期間内ニ之ニ對シテ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ其支拂ナキトキハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコト 所持人カ此第三ノ條件ヲ履マサルトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フニ過キスシテ(五〇八條三項)豫備支拂人ヲ指定シタル者ノ前者又ハ被參加人ノ前者ニ對スル償還請求權ヲ失フコトナシ(註三)故ニ此第三ノ條件ハ絶對的ノモノニ非サルナリ

〔註三〕 甸瑞等ノ諸國法ハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人ノ後者ノミニ對スル手形上ノ權利ヲ失ハシムルモノトスレトモ立法論トシテハ我商法ノ主義ヲ可トス(拙著私法論文集一卷四二八頁以下)

(二) 自己ノ後者ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人カ更ニ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ後者ニ對シテ適法ニ償還ヲ爲シテ手形所有權ヲ取得シタルコトヲ條件トス裏書人ハ一旦手形所有權ヲ失フモ其手形上ノ權利ハ消滅セズ償還ニ因リテ手形所有權ヲ再得スルト同時ニ其手形上ノ權利カ行使セラルヘキ状態ニ回復スルモノナルコト既ニ反覆詳述シタル所ナリ(本節第一款ノ一參照)

後者ニ對シテ適法ニ償還ヲ爲ス爲メニハ固ヨリ償還義務ヲ負ヒタル者ナルコトヲ要ス故ニ例ヘハ無擔保裏書人ハ償還義務ヲ負ハサル者ナルヲ以テ償還ヲ爲シテ前者ニ對スル償還請求權ヲ行使スルコトヲ得サルナリ之ニ反シ償還義務者ハ自ラ進テ所持人ニ對シ償還金額ト引換ニ手形支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ヘク所持人此請求ニ應セサルトキハ債權者ノ遲滯ヲ生スヘキナリ〔註一〕

〔註一〕 手形債務者カ所持人ニ對シテ支拂ノ受領ヲ請求スルコトヲ得ルノ趣旨ハ獨四八以下

法系國法之ヲ明定セルモノ少カラス統一法四九亦同シ(毛戶博士統一手形法論二〇六頁以下 Felix Meyer I S. 377 ff.)

(三) 支拂拒絕證書ノ作成ハ償還請求ノ條件ナレトモ償還義務者ハ拒絕證書作成ノ費用ヲ免ルル爲メ又ハ拒絕ノ事實ノ公表セラルルコトヲ防ク爲メ拒絕證書作成ノ免除ヲ欲スルコトアリ此場合ニ於テ其意思ニ效力ヲ認メテ可ナルヲ以テ我商法ハ多數法ト同シク支拂拒絕證書ノ作成免除ヲ認メタリ(第一節第三款ノ十參照)〔註一〕

〔註一〕 伊(三〇九)葡(三三三)露(八七一)等ハ拒絕證書作成免除ノ文句ハ其記載ナキモノト看做スヘキモノトス是等ノ例外ヲ除キ多數法ハ其免除ヲ認ム但其制度ノ内容ニ至リテハ甚區區タリ我商法ハ異ホ獨法(四二)ニ同シキモ獨法ニ於テ引受拒絕證書ノ作成免除カ解釋上認めラルルニ反シ(Grühnt II S. 400; Staub-Strauz 2 42 Anm. 10; Bernstein 2 42 Einführung)我商法ノ解釋上ハ之ヲ認ムヘカラサル點ヲ異ニス統一法(四五)ノ規定ハ獨佛兩法ノ折衷タルニ近シ尙ホ各國法ノ比較ニ付テハ Felix Meyer I S. 312 ff., II S. 199 ff. 拙著私法論文集一卷四〇七頁以下毛戶博士統一手形法論一八五頁以下ヲ參考スヘシ

支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得ル者ハ爲替手形ノ振出人、裏書人、參加引受人及ヒ支拂擔當者ノ記載アル手形ノ引受人竝ニ是等ノ者ノ保證人ナリ

上掲セル手形債務者ハ其手形債務ヲ履行スルニ支拂拒絶證書ノ作成ヲ條件ト  
スル者ナルモ若シ其作成ヲ免除シタルトキハ所持人ハ支拂拒絶證書ヲ作ラシ  
メサリシトモト雖モ其免除者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ失フコトナキナリ(四八  
九條一項)(註二)

〔註二〕 免除者ニ對スル償還請求權ノ時効ノ起算點ニ付テハ第一章第七節ノニヲ參照スヘシ

支拂拒絶證書作成ノ免除ノ形式ニ付テハ制限ナキヲ以テ之ヲ手形ニ記載ス  
ルモ又ハ之ヲ記載セサルモ可ナリ(註三)若シ之ヲ手形ニ記載スルトキハ免除者  
ニ對シテハ免除者ノ後者全員ノ爲メニ其效力ヲ生ス故ニ後者全員ハ免除者ニ  
對シ拒絶證書ナクシテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシ然レトモ手形以外ノ書  
面若クハ口頭ノ約束又ハ黙示ノ意思表示ニ依リテ免除ヲ爲シタル場合ニ於テ  
ハ免除ノ效力ハ當事者間ニ止マルモノト謂フヘク他ノ後者ノ爲メニ其效力ヲ  
生セサルヘキナリ(大民、一〇輯一五八五頁而シテ免除アリタルコトノ舉證ノ責  
任ハ免除アリタルコトヲ主張スル者ニ在ルコト當然ト謂フヘシ

〔註三〕 外國ニ於テ拒絶證書作成免除ノ記載ヲ爲スニハ *Ohne Protest, Ohne Kosten, retour sans frais,*

*retour sans protêt, dispense de protêt, return without protest Waiving Protest* 等ノ語ヲ用フルヲ常トス

支拂拒絶證書作成ノ免除ノ效力カ免除者ニ對シテノミ生シ假令手形ニ其記  
載アルモ免除者ノ後者ニ對シテ生スルコトナキハ第四百八十九條第一項ノ明  
文上明瞭ナル所ナリ所持人ハ支拂拒絶證書ヲ作成セシムルニ非サレハ免除者  
以外ノ義務者ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ヘカラス故ニ法律ハ所持人カ支  
拂拒絶證書ヲ作成シタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還ス  
ル義務ヲ免ルルコトヲ得サルモノトセリ(四八九條二項)即チ免除アルモ所持人  
ハ支拂拒絶證書ヲ作成セシムル權能アルモノニシテ(大民、九輯一卷三八頁其費  
用ハ免除者モ亦負擔ヲ免レサルナリ)(註四)

〔註四〕 佛國學說ニ依レハ免除ハ拒絶證書作成禁止ノ效力ヲ有シ所持人カ之ヲ作成セシメタル  
トキハ自ラ費用ヲ負擔スヘキモノトシ且免除ノ效力ハ免除者ノ後者ニモ及フヘキモノトス  
(Lyon-Oien IV nos. 376, 378)統一法ハ振出人ノ記載シタル免除文句ニ付テハ他法ト同一主義ヲ採  
レリ我商法ノ解釋トシテ振出人カ免除者ナルトキハ第四百八十九條第二項ノ規定ノ適用ナ  
ク所持人カ費用ヲ負擔スヘキモノト解スル學者アレトモ(柳川氏商法論編七版八七五頁)其理  
由ヲ解スルコトヲ得ヘカラス何トナレハ振出人ノ免除ト雖モ後者全員ニ對シテ其效力ヲ及  
ホスヘキ理由ナケレハナリ但我商法ノ解釋上モ費用ノ負擔カ所持人ニ歸スヘキ旨ノ特約カ

當事者間ニ其効力アルヘキハ勿論ナリ (Grundriss II § 123 Anm. 4; Staub-Strauz § 43 Anm. 8)

支拂拒絶證書作成免除ノ効力ハ支拂拒絶證書ノ作成免除ノミニ止マル引受拒絶證書ノ作成力之ニ因リテ免除セラルルモノニ非ス又支拂ノ爲メニスル呈示又ハ償還請求ノ通知ヲ爲ス義務ノ如キモ亦之カ爲メニ免除セラルルモノニ非サルナリ(大民九輯八五三頁)〔註五〕故ニ所持人ハ支拂拒絶證書作成ノ免除アリタルトキト雖モ必ス支拂呈示ヲ爲スコトヲ要ス然レトモ支拂呈示ハ法律上拒絶證書ノミニ依リテ證明スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ拒絶證書作成ノ免除ハ當然支拂呈示ノ舉證責任ノ免除ヲモ包含スルモノトセサルヘカラス故ニ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示シタルモノト推定スヘキモノトス(四八九條ノ二)但是レ固ヨリ法律上ノ推定タルニ止マルヲ以テ支拂呈示ナカリシニトノ反證ヲ舉ケテ所持人ノ權利ヲ否認スルコトヲ妨ケサルナリ

〔註五〕英米法ノ所謂 waiver of presentment, waiver of notice of dishonourノ制度ハ多數法及ヒ統一法ト同シク我商法ノ認メサル所ナリ

### 第三款 償還請求ノ通知

償還請求ノ通知

(一) 償還ノ請求ハ支拂拒絶ノ場合ニ生スル變則狀態ナルヲ以テ償還義務者ヲシテ償還ノ準備ヲ爲サシムル爲メ通知(Notanzeige, Notifikation, avertissement, notice of dishonour)ヲ必要トス尙ホ振出人以外ノ償還義務者ハ自己ノ前者ニ對スル原因關係ニ基キ又振出人ハ支拂人ニ對スル資金關係ニ基キ適宜ノ措置ヲ爲ス爲メ通知アルヲ便トスヘシ故ニ瑞西法ノ如キ例外ヲ除キ各國法ハ所持人ヲシテ必ス通知ヲ爲サシムルノ手段ヲ構セサルナキナリ然レトモ其方法ニ付テハ各國法ノ主義區區タルモノアリ英四九以下(米一六一以下)ハ通知ヲ以テ償還請求權ノ行使及ヒ保全ノ條件トス所謂嚴正通知主義(strenge Notifikationssystem)ナルモノ是レナリ佛(一六五以下)其他佛法系ノ法律ニ依レハ償還ノ請求ヲ爲サムト欲スル者ハ其償還ヲ爲サシメムト欲スル者ニ對シ通知ヲ爲シ且法定ノ短期間内ニ訴訟ヲ起スヘキモノトシ實際上ハ通知ト共ニ起訴セラルルヲ通常トス所謂時效主義(Prijudizsystem, Verjährungssystem)ナルモノ是レナリ又獨(四五以下)其

爲替手形 償還ノ請求

他獨法系ノ法律ハ所持人ニ通知義務 (Notifikationspflicht) ヲ認ムト雖モ其違反ノ結果ハ償還請求權ノ喪失ヲ來スコトナク單ニ損害賠償其他ノ不利益ヲ來スニ過キサルモノトセリ(比較法制ニ付テハ Felix Meyer I S. 367 ff. II S. 224 ff. 拙著商法改正法評論一八四頁以下、毛戸博士統一手形法論一七七頁以下參照)

上述セル各國法制ノ優劣ハ必スシモ輕輕ニ論斷スルコトヲ得サレトモ英米法ノ主義ハ所持人ニ過酷ナリトノ非難ヲ免レス通知義務ノ違反ニ因リテ償還義務者ノ利益ヲ傷害セサルノ保障ヲ計レハ足レルニ拘ハラス進テ償還請求權ノ喪失ヲ來スモノトスルハ却テ不公平ナリト謂ハサルヘカラス英米法ハ國內手形 (inland bill) ニ付キ支拂拒絕證書ノ作成ヲ必要トセサルヲ以テ嚴正通知主義ハ多少ノ理由ナシトセサレトモ我改正前ノ商法カ此主義ヲ採リタルハ其意味ヲ解スヘカラス故ニ我商法ハ改正法<sup>ニ</sup>依リ通知ニ關スル規定ヲ改メ獨逸法主義ヲ採ルニ至リタリ(註一)

〔註一〕 統一法(一四四)モ亦獨逸法主義ヲ採レリ但別ニ振出人ニ對スル直接通知ヲ必要トス是レ甚便宜ニ適合セル規定ト謂フヘシ(拙著私法論文集一卷四一三頁以下、毛戸博士前掲參照)

通知ヲ爲スヘキ場合

通知ノ當事者

通知ノ當事者  
通知ノ當事者  
通知ノ當事者

(二) 通知ハ支拂ノ拒絕アリタル場合ニ於テ所持人之ヲ爲スヘキモノタリ(四八七條ノ二)第四百八十七條ノ二ニハ前條第一項ノ場合ニ於テハトアリテ支拂人カ支拂ヲ拒絕シタル場合ノミニ關スル規定ナルカ如キモ支拂擔當者カ支拂ヲ拒絕シタル場合ニ於テモ通知ヲ爲スヘキコト當然ナリ又裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ其裏書人ハ更ニ前者ニ對シテ通知ヲ爲スヘキモノタリ(四八八)

(三) 通知義務者ハ第一次ニハ所持人ニシテ第二次ニハ通知ヲ受ケタル裏書人ナリ所持人ハ其直接ノ前者ニ對シ又後者ヨリ通知ヲ受ケタル裏書人ハ其直接ノ前者ニ對シテ通知ヲ發スルコトヲ要シ此ノ如クニシテ順次振出人ニ至ルヘキモノトス(四八七條ノ二、四八八)但裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ裏書地ヲ記載セサリシトキハ通知ハ其裏書人ノ直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス又振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキハ之ニ對シテ通知ヲ爲スコトヲ要セス(四八八條ノ三)尙ホ無擔保裏書人ハ償還義務ナキ者ナルヲ以テ假令裏書地ノ記載アルモ之ニ對シテ通知ヲ爲スコトヲ要セサルモノト解スヘシ (Staub-Stranz § 45)

爲替手形 償還ノ請求

(Ann. 3: Bernstein S. 211)

四) 通知ハ所持人ニ在リテハ支拂拒絶證書作成ノ日又ハ其後二日內、又後者ヨリ通知ヲ受ケタル裏書人ニ在リテハ其通知ヲ受ケタル日、又ハ其後二日內ニ之ヲ發スルコトヲ要ス(四八七條ノ二、四八八)通知ヲ發ストハ通知ノ發送ニ關シ自ラ爲スヘキ行爲ヲ完了シ其通知ヲシテ被通知者ニ到達スヘキ状態ニ至ラシムルノ意味ナレバ(大民、一〇輯一二六四頁)其通知ノ到達ヲ要セサルコト勿論ニシテ苟モ通知ヲ發シタル以上ハ事實到達スルト否トハ關スル所ニ非サルナリ而シテ此期間ニハ休日ヲ算入セサル旨ノ規定ナキコトヲ注意スヘシ又支拂拒絶證書作成ノ免除アリタル場合ニ於テハ所持人ハ拒絶證書作成期間ノ末日又ハ其後二日內ニ通知ヲ發スヘキモノト解スヘシ(大民、一〇輯五七三頁、一五五七頁、岡野博士日本手形法三六二頁以下參照)

五) 通知ノ方法ニ付テハ制限ナキカ故ニ文書ニ依ルト否ト郵便ニ依ルト否ト執達吏ニ依ルト雇人其他ノ人ヲ介スルト等ヲ問ハス苟モ通知ヲ受クヘキ者ニ到達スヘキ方法ヲ以テスレハ可ナリ(大民、八輯八卷一頁、二四頁、一三輯八六三頁)

又執達吏カ償還請求ノ通知ヲ送達スル場合ニ於テモ其手續ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルコトヲ要セサルヤ勿論ナリ(大民七輯一〇卷七七頁)然レトモ單ニ執達吏ニ通知ノ依頼狀ヲ發シタルカ如キハ通知ヲ發シタルモノト謂フヘカラス(大民、一〇輯一二六四頁)而シテ實際上ハ通知ヲ發シタルコトノ證明ハ容易ナラサルヲ以テ法律ハ所持人又ハ裏書人カ適法ノ期間內ニ其前者ニ對シ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證明アル場合ニ限リ其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定スヘキモノトセリ(四八八條ノ四)明治三十三年遞信省令五號參照故ニ内容證明ヲ求ムルコトナク通常書留郵便等ニ依リテ安シテ通知ヲ爲スコトヲ得ヘシ但此規定ハ勿論推定ヲ定ムルニ過キサレハ相手方ニ於テ其書面カ通知ニ非サリシコトヲ證明シテ通知義務者ノ責任ヲ問フヲ妨ケサルコト勿論ナリ

六) 通知義務違反ノ制裁トシテハ法律ハ所持人、又ハ裏書人カ其直接ノ前者ニ非サル前者ニ對シテ通知ヲ發シタルトキハ其者ノ後者ニ對シ又其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セサリシトキハ其前者全員ニ對シ之ニ因リテ生シタル損



害ヲ賠償スル責ニ任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フモノトス  
(四八八條ノ二)然レトモ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對シテハ上述セル損害  
賠償責任ナク又利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フコトナシ振出地ヲ  
記載セサリシ振出人ニ對シテ亦同シ(四八八條ノ三第二項)

償還金額

第四款 償還金額

(一) 償還ハ所持人カ支拂ヲ受ケサリシ爲メニ被リタル損害ノ賠償ヲ目的トス  
ルモノナレトモ手形ノ振出又ハ裏書ヲ爲シタル前者ハ何人カ満期日ニ於ケル  
所持人タルカヲ豫知スルコト能ハサルヲ以テ其所持人ノ異ルニ從ヒ償還金額  
ニ差異アルモノトスレハ頗ル不安ノ地位ニ立ツヘク引テ手形ノ流通ヲ阻碍ス  
ルニ至ルヘシ故ニ法律規定ヲ以テ償還金額ヲ一定シ各人ノ被レル損害ノ有無  
又ハ金額如何ニ拘ハラズ其一定金額ヲ支拂ハシムルコトヲ要ス此點ニ關スル  
各國立法例ハ殆ト一致セルモノニシテ唯其償還金額ノ計算方法ニ付テ多少ノ  
差異アルノミ(註一)

總說

所持人ノ請  
求スルコト  
ヲ得ル金額

(註一) 獨(五〇・五一)其他獨法系ノ多數國法及ヒ統一法(四七・四八)ハ手形金額ノ何百分ノ一カノ手  
數料(Provision, droit de commission)ヲ加算スヘキモノトス是レ我商法ノ採ラサリシ所ナリ拙著私  
法論文集一卷四一八頁以下毛戸博士統一手形法論一九〇頁以下參照)

(二) 所持人ノ請求スルコトヲ得ヘキ償還金額(Pegresssumme)ハ左ノ如シ(四九一  
條一項)

- (一) 支拂アラサリシ手形金額 一部ノ支拂アリタルトキハ其殘額ハ即チ支  
拂アラサリシ手形金額タリ。
- (二) 満期日以後ノ法定利息 支拂アラサリシ手形金額ニ對スル法定利息ニ  
シテ其利率ハ年六分ナリ(二六三條四號、二七六)而シテ此利息ハ法律上ノ利  
息(Legalzinsen)ニシテ遲延利息ニ非ス、何トナレハ支拂呈示時期ノ何時ナルヲ  
問ハス満期日以後ノ利息ハ當然之ヲ加算スルモノナレハナリ岡野博士日本  
手形法三三七頁R.O.H.G. 6 S. 155; Staub-Stranz § 50 Anm. 4; Bernstein S. 220)
- (三) 拒絕證書作成ノ手數料其他ノ費用 拒絕證書作成ノ手數料ハ執達吏規  
則(明治二十三年法律五二號)又ハ公證人手數料規則(明治四十二年勅令一七四  
號)ニ之ヲ定ム其他ノ費用トハ償還請求及ヒ其通知ニ必要ナリシ郵稅其他ノ費

爲替手形 償還ノ請求

裏書人ノ請  
求スルコト  
ヲ得ル金額

用ヲ謂フ訴訟費用ハ之ヲ含マス(法律新聞六七八號一一頁所載明治四十三年十月五日東京控訴院判決)而シテ是等ノ費用ニハ利息ヲ加算セサルモノトス

- (一) 其支拂ヒタル金額
- (二) 支拂ノ日以後ノ法定利息
- (三) 其支出シタル費用

裏書人カ自ラ支出セザリシ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルハ當然ナリ(大民一四輯八三四頁)

(四) 所持人カ償還ヲ請求スル場合ニ於テ償還義務者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナルトキハ償還義務者カ其營業所又ハ住所ノ所在地ニ於テ支拂ヲ爲スノ結果所持人カ支拂地ニ於テ支拂ヲ受ケタルト同様ノ地位ニ立ツコトヲ得サルコトアリ(二七八條二項參照)故ニ法律ハ此ノ如キ場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一

隔地償還請  
求ニ關スル  
特別規定

覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ償還金額ヲ計算スヘキモノトシ若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最も近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ依ルヘキモノトス(四九一條二項)此規定ニ依リ爲替相場ノ差額ヨリ生スル損益ヲ償還請求權者ニ負擔セシメサルコトヲ得ヘク恰モ次款ニ説明スル戻手形ヲ發行スルト同様ノ結果ヲ生スヘキヲ以テ之ヲ稱シテ想像的戻手形主義(System des fingierten Rückwechsels)ト謂フ之ヲ戻爲替相場主義ト謂フモ可ナリ(註一)

(註一) 想像的戻手形主義ハ明文ノ有無ノ別アレトモ多數國法ノ採用スル所ナリ(毛月博士統一手形法論一九〇頁以下 Felix Meyer I S. 483 ff.)

第四百九十一條第二項ノ解釋トシテハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ハ手形ニ記載セラレタル振出地又ハ裏書地等ニ依ルヘキモノニ非スシテ現實ノ所在地ニ依ルヘキモノタリ又爲替相場ハ支拂拒絶證書作成ノ日ノ相場ニ依ルモノト解スルヲ通説トス(註二)

(註二) (crit. hnd. II S. 427; Dernburg § 274; Staub-Strauz § 50 Anm. 10 等此說ヲ採ルニ反シ Bernalein S. 231;

Folix Meyer I. S. 403 ハ満期日ノ相場ニ依ルヘキモノトス

以上所持人ノ償還請求ニ付テ説明シタル想像的戻手形主義ハ裏書人カ其前者ニ償還ノ請求ヲ爲スニ當リ自己ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト前者ノ營業所又ハ住所ノ所在地トカ異ル場合ニ應用スルヲ當然トスヘク法律ハ第四百九十一條第二項ノ規定ヲ此場合ニ準用スヘキモノトセリ(四九二條二項其結果トシテ爲替相場ノ差額ヨリ生スル損失ハ償還請求ノ重複ト共ニ重複セララルニ至ルヘキナリ之ヲ稱シテ重複的爲替差額主義(Sytem der kummulierten Kursdifferenz)ト謂フ(註三))

(註三) 獨(五一)英米等ハ此主義ヲ探ルモ佛法ニ於テハ爲替相場ノ損失ノ重複ヲ認メス(Lyo-Oeen IV no. 374)詳細ニ付テハ毛戸博士統一手形法論一九七頁以下Folix Meyer I. S. 403 H. ナ參照スベシ

### 第五款 償還ノ方法

(一) 償還ハ爲替手形支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得(四九五)其手形ト引換ニ償還ヲ

償還ノ方法  
償還ノ條件

爲スノ趣旨ハ單ニ再償還ノ危険ヲ避クルノミニ在ルニ非ス前者ヲ有スル償還者ヲシテ手形所有權ヲ再得セシムルニ在リ而シテ償還者ハ償還ニ當リテ爲サル手形所有權ノ移轉ヲ目的トスル物權行爲ニ因リテ手形所有權ヲ取得シ其手形上ノ權利ヲ回復スルモノナルカ故ニ第一章第三節ノ三、本節第一款ノ一參照償還後ニ於テ自己及ヒ後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得ヘキハ當然ナリ(四六四條二項拙著私法論文集一卷四二〇頁毛戸博士統一手形法論二〇五頁以下參照)

償還計算書 (Retourrechnung, compte de retour, recourse account) ハ償還金額ノ計算ヲ明カニスルヲ目的トスル書類ニシテ法律上其記載事項ノ制限ナシ而シテ償還計算書ハ手形及ヒ支拂拒絕證書ト異リ各償還請求者カ別個ニ之ヲ作成スルモノニシテ後者ヨリ受ケタル計算書ヲ前者ニ交付スルニ非サルナリ

支拂拒絕證書カ滅失シタル場合ニ於テハ其謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ヘク即チ謄本ト引換ニ償還ヲ受クルコトヲ得ヘキハ疑ナキ所ナリ(五一七條二項)然レトモ爲替手形カ滅失シタル場合ニ於テ除權判決ニ基キ償還ヲ受クルコ

爲替手形 償還ノ請求

トヲ得ヘキヤ否ヤニ付テハ獨逸學者間ノ議論二分セリ民事訴訟法第七百八十五條ハ「除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得」ト規定セルカ故ニ申立人タル所持人ハ償還義務者ニ對シテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘキカ如キモ同條ノ解釋上若シ償還ヲ爲シタル者ハ更ニ其前者又ハ引受人ニ對シテ其權利ヲ主張スルコトヲ得スト解スヘキモノトスレハ償還義務者ニ對シテ過酷ナルカ故ニ寧ロ消極說ヲ採ラサルヘカラス(反對水口氏手形法論六一四頁)然レトモ法律ノ除權判決ヲ認メタル趣旨ハ之ニ因リテ手形上ハ權利ヲ證書ヨリ抽象スルニ在ルカ故ニ(商行為法一〇一頁參照)其精神ヨリ推シテ上掲セル民事訴訟法ノ規定ヲ解釋スルトキハ償還ヲ爲シタル者モ亦除權判決ニ基キ其前者又ハ引受人ニ對スル權利ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノト爲スヲ妨ケサルヘク從テ除權判決ニ基キテ償還ヲ受クル場合ニハ手形ト引換ニスルコトヲ要セサルモノト解シテ可ナリ(Grünhut, II § 109 Anm. 20; Dernburg § 280 Anm. 8; Canstein § 14; Staub-Stranz § 73 Anm. 19; Felix Meyer I S. 574; dagegen Otto Lehmann S. 586; Bernstein S. 277; Rehbein

除權判決ハ申立人ノ權利ヲ行使スルニ妨ケザルニ在リ  
 但シ其申立人ハ證書ニ因リテ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ  
 證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得ト規定セルカ故ニ  
 申立人タル所持人ハ償還義務者ニ對シテ其權利ヲ主張ス  
 ルコトヲ得スト解スヘキモノトスレハ償還義務者ニ對シテ  
 過酷ナルカ故ニ寧ロ消極說ヲ採ラサルヘカラス

戻手形

§ 73 Anm. 2)

償還ハ必スシモ現金ノ支拂ノミニ依ルコトヲ要セス代物辨濟相殺等モ亦償還タルコトヲ得ルハ勿論ナリ(大民一二輯一一二三頁)又一部ノ償還ハ請求者之ヲ受クルコトヲ要セサルモ(四八四條一項參照)若シ之ヲ受ケタルトキハ一部支拂ニ關スル規定(四八四條二項)ノ類推ニ依リ手形ニ代フルニ其寫本ヲ交付スヘキモノト解スヘシ(Staub-Stranz § 48 Anm. 7; Bernstein S. 216)

(二) 手形ノ所持人又ハ裏書人カ償還ヲ請求スルニ當リテハ直接ニ其償還金額ノ取立ヲ爲スニ代ヘ其償還ヲ爲サシムヘキ前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得ヘシ(四九三)此後ノ手形ヲ稱シテ戻手形 (Rückwechsel, Retourwechsel, Gegenwechsel retraits, rechange, redraft, return bill) ヲ謂フ (註1)

〔註1〕 戻手形ノ制度ハ多數國法之ヲ認ム明文ナキ國ニ於テモ解釋上認めララル所ナリ(毛月博士統一手形法論一九九頁以下 Felix Meyer I S. 446 ff.)

戻手形ハ通常ノ爲替手形以外ニ立ツ別種ノ手形ニ非ス其要件效力等ニ至リテハ毫モ通常ノ手形ニ異ル所ナキナリ但左ノ四事項ニ付キ注意スルコトヲ要